２０２５年度
学生便覧
「別冊」
（シラバス等）

名古屋学芸大学大学院
看護学研究科看護学専攻

目　　　次

Ⅰ.シラバス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
《研究科目》
１．看護研究方法論
２．看護理論
３．英語文献クリティーク
４．多変量解析論
５．看護教育方法論
６．看護倫理学
７．看護コンサルテーション論
８．看護マネジメント論
９．看護フィールド演習
10. 多職種連携方法論
11. 看護病態生理学
12. 看護臨床薬理学
13. 家族看護学
14. 国際保健学
15. 保健医療福祉行政論
16. 看護海外研修
17. 母性・助産看護学特論
18. 母性・助産看護学演習
19. 小児看護学特論
20. 小児看護学演習
21. 成人・老年看護学特論
22. 成人・老年看護学演習
23. 精神看護学特論
24. 精神看護学演習
25. 地域・在宅看護学特論
26. 地域・在宅看護学演習
27. 災害看護学特論
28. 災害看護学演習
29. 看護管理学特論
30. 看護管理学演習
31. 看護教育学特論
32. 看護教育学演習
33. 特別研究Ⅰ
34. 特別研究Ⅱ

《保健師養成科目》
35. 課題研究Ⅰ
36. 課題研究Ⅱ
37. 公衆衛生看護学特論
38. 公衆衛生看護支援技術特論
39. 個人と家族の支援技術論
40. 集団・組織・地域の支援技術論
41. 母子保健支援技術論
42. 公衆衛生看護展開特論

43. 産業・学校保健活動展開特
44. コミュニティ・ヘルス・アセスメント
45. 公衆衛生看護管理特論
46. 疫学特論
47. 保健統計学特論
48. 保健医療福祉行政展開特論
49. 地域包括ケア展開技術論
50. 個人と家族の継続看護支援実習
51. 公衆衛生看護活動展開実習
52. 産業・学校保健実習
53. 公衆衛生看護管理論実習
54. 実践地域事業展開実習

Ⅱ. 卒業要件及び履修方法等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
１. 卒業要件及び履修方法
２. 授業期間等

Ⅰ. シラバス

科目名	看護研究方法論	科目番号	1	単　位	2	時　間	30
教員名	平賀　元美	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	必修	開講学期		前期	

科目概要	本科目では看護における現象や問題、そこに潜む法則性を明らかにするための研究のプロセスや科学的アプローチについて教授する。特に、研究疑問から研究テーマの焦点化のプロセス、研究倫理にのっとった量的・質的なアプローチについて学ぶ。さらに、論文の作成に求められる、論理的な視点や論文における記述や結果の示し方、考察について学ぶ。具体的には、文献検索や論文クリティークに取り組み、看護学研究を実際に進めていく上での方法を身につける。
目　標	1．看護学研究の特徴と目的・意義が述べられる。 2．研究課題の選択や吟味の方法を理解することができ、 臨床上の疑問から研究課題へ絞り込んでいくプロセスと方法がわかる。 3．研究デザインに基づいた研究方法における分析方法について説明できる。 4．様々な研究方法で書かれた論文に触れ、研究デザインや理論・概念枠組み・データの収集・測定用具・分析方法・分析結果の解釈について理解を深めることができる。量的・質的な研究を遂行上の課題と対策について述べることができる。 5.　研究計画書の記載内容と作成上の留意点を説明できる。 6.　研究遂行上求められる倫理的な配慮について知ることができ、研究倫理指針に基づいた研究倫理審査書類作成上の留意点を説明できる。 7.　論文作成方法と成果発表の意義を説明できる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	ガイダンス　看護研究とは、研究の目的と種類、ゴールとプロセス	平賀　元美
	第2回	文献検索の方法：医学中央雑誌(医中誌web) MEDLINE(PubMed) 図書館司書による検索の実際	平賀　元美
	第3回	研究課題から答えの出る研究疑問の立て方　クリティークとは　論文クリティークの実際　その1　1-2編	平賀　元美
	第4回	論文クリティークの実際　その2　1-2編	平賀　元美
	第5回	研究疑問と研究デザイン：研究目的、概念枠組み、研究デザイン、研究方法、測定用具、信頼性と妥当性	平賀　元美
	第6回	質的研究法(グラウンデット・セオリー・アプローチ、ＳＣＡＴ)	平賀　元美
	第7回	質的研究法（文化人類学的アプローチ　参加観察法）	平賀　元美
	第8回	質的研究法（現象学的アプローチ）	平賀　元美
	第9回	質的研究法（事例研究アプローチ）	平賀　元美
	第10回	量的研究法（基本的な統計学的分析と多変量解析に基づく研究　介入研究、質問紙調査研究）	平賀　元美
	第11回	研究計画書の構成と作成の実際について	平賀　元美
	第12回	研究における倫理的配慮と研究倫理指針に基づく倫理審査書類の作成方法	平賀　元美
	第13回	論文の作成方法　研究目的、概念枠組み、研究デザイン、研究方法について、測定用具、信頼性と妥当性 研究結果、研究考察、結論、要旨	平賀　元美
	第14回	研究成果の発表（口頭，ポスター，論文，著書，ホームページ他）演題登録、抄録作成、発表形式の資料	平賀　元美
	第15回	看護研究方法論に関する質疑応答　課題への取り組み	平賀　元美

評価方法	課題レポート(70%)、発表、ディスカッション(30%)で総合的に評価する。
テキスト，参考書.	1．看護研究　原理と方法　アメリカ心理学会(APA)　医学書院 2　Polit D.F.&Hunglerb.F;Principles and Methods 近藤潤子監訳　看護研究－原理と方法　医学書院 3.　看護研究(1982).　特集看護研究法における参加観察法　vol15　no3 その他、必要に応じて文献、資料を配布する。
履修上の注意点	本科目は、1年次・前期の「英語文献クリテーク」、１年次・後期の「多変量解析論」の科目と密接につながっている。 それらの科目と合わせて看護研究方法を包括的に理解すること。授業は、講義形式とゼミ形式が混合する。積極的に参加し、質疑応答を期待する。

科目名	看護理論	科目番号	2	単　位	2	時　間	30
教員名	出原　弥和 ・ 大石 ふみ子	科目種別	共通科目	開講年次		1 年	
		必修・選択他	必修	開講学期		後期	

科目概要	看護学および科学哲学の歴史を振り返り、卓越した看護実践の基盤となる看護学の理論体系および看護に関する諸理論と看護現象との関係について理解を深め、看護理論を実践および研究に活用する力を養う。（科目責任者：出原　弥和）
目　標	1．看護学および科学哲学の歴史について概説できる。 2．看護学における主要な理論・概念を、看護現象との関連において説明できる。 3．関心のある看護理論について、その概要を説明できる。 4．看護理論を看護実践に活用する方法について述べることができる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	1.看護学とは、看護理論とは	出原　弥和
	第2回	2.看護学・看護理論の歴史	出原　弥和
	第3回	3.看護理論の構成要素	出原　弥和
	第4回	4.ケアリングの概観	出原　弥和
	第5回	5.大理論と中範囲理論　看護現象の一般化と限定的一般化	大石 ふみ子
	第6回	10.中範囲理論の看護への活用 4 (選択した中範囲理論の概要と実践への適用)	大石 ふみ子
	第7回	11.看護理論の概要と看護への活用・評価：Margaret A. Newman	
	第8回	6.中範囲理論の看護への活用 1 1-1： A. Strauss & J. Corbin慢性疾患の病みの軌跡の考え方	出原　弥和 (黒江ゆり子)
	第9回	7.中範囲理論の看護への活用 1-2： A. Strauss & J. Corbin慢性疾患の病みの軌跡の実際	
	第10回	12.看護理論の概要と看護への活用・評価：Leininger	出原　弥和
	第11回	14.看護理論の概要と看護への活用・評価：Benner	出原　弥和
	第12回	8.中範囲理論の看護への活用 2	大石 ふみ子
	第13回	9.中範囲理論の看護への活用 3 (選択した中範囲理論の概要と実践への適用)	
	第14回	13.看護理論の概要と看護への活用・評価：Orem, その他	出原　弥和
	第15回	15.まとめ：看護理論の実践への活用　ディスカッション	出原　弥和

評価方法	授業中の発表・発表資料(50%)、単位認定レポート(50%)

テキスト，参考書．	テキスト　1．筒井真優美編(2020)．看護理論家の業績と理論評価，第2版．医学書院． 2．野川道子編著(2023)．看護実践に活かす中範囲理論，第3版．メヂカルフレンド社． 参考書　1．筒井真優美編(2019)．看護理論－看護理論20の理解と実践への応用，改訂第3版．南江堂． 2． Marriner-Tomey & Alligood, 都留伸子監訳(2004)．看護理論家とその業績，第3版．医学書院． 3．黒田裕子監修(2016)．やさしく学ぶ看護理論，改訂4版． 日総研出版． 4． Fawcett, J.，太田喜久子, 筒井真優美監訳(2008)．フォーセット看護理論の分析と評価，新訂版．医学書院． 5． 黒田裕子監修(2021)．看護診断のためのよくわかる中範囲理論，第3版．学研． 6． 佐藤栄子編著(2009)．中範囲理論入門，第2版．日総研． 7． Woog編，黒江ゆり子，市橋桂子，宝田穂訳(2009)．慢性疾患の病みの軌跡，第1版7刷．医学書院．
履修上の注意点	授業はゼミ形式で行う。

科目名	英語文献クリティーク	科目番号	3	単　位	2	時　間	30
教員名	西垣内　磨留美	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択	開講学期		前期	

科目概要	英文に論述されている内容を把握、理解し、的確に英語文献のクリティークを行うための能力を養うことを目指す。具体的には、内容理解の基礎を成す英文法、論文特有の英語表現、研究目的、方法、結果、考察など論文の各項目に即した語句を習得し、英語文献を読み込むための指導を行い、看護学の英語文献を読解しクリティークに取り組む。各学生がそれぞれの専攻で培ったクリティーク能力を活かして英語文献を論評する訓練を行い、日本語論文のみならず、研究に有用な資料として英語文献を活用できる能力を身に付けることを目標とする。
目　標	1．英文を文法的・構造的に読解し、内容を述べられる。 2．看護学関連の論文特有の英語表現・重要語句について説明できる。 3．研究に活用できる有効な資料として英語文献を解釈できる。 4．多文化共存の視点を持ち、外国の文化や思想を説明できる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	英語文献クリティークに関する総論　（英語文献への取り組み方法の解説、授業・指導形式の説明） 英語力の確認（実力テスト）	西垣内　磨留美
	第2回	基礎英文法復習	西垣内　磨留美
	第3回	看護系英語文献の用語、表現の学習 教材: 英文要約(質的研究)	西垣内　磨留美
	第4回	看護系英語文献の用語、表現の学習 教材: 英文要約(量的研究)	西垣内　磨留美
	第5回	研究の背景　看護系英語文献の文法的・構造的読解	西垣内　磨留美
	第6回	文献検討　看護系英語文献の文法的・構造的読解	西垣内　磨留美
	第7回	研究目的　看護系英語文献の文法的・構造的読解	西垣内　磨留美
	第8回	研究方法　看護系英語文献の文法的・構造的読解	西垣内　磨留美
	第9回	結果　看護系英語文献の文法的・構造的読解	西垣内　磨留美
	第10回	考察　看護系英語文献の文法的・構造的読解	西垣内　磨留美
	第11回	結論・看護への示唆　看護系英語文献の文法的・構造的読解	西垣内　磨留美
	第12回	その他(倫理的配慮、研究の限界、利益相反等)　看護系英語文献の文法的・構造的読解	西垣内　磨留美
	第13回	英語文献論述内容の包括的把握と評価　（研究の背景～研究方法）	西垣内　磨留美
	第14回	英語文献論述内容の包括的把握と評価　（結果～結論・看護への示唆）	西垣内　磨留美
	第15回	英語文献クリティーク総まとめ、英語文献頻出重要表現・語句総復習	西垣内　磨留美

評価方法	事前準備　30%、授業中の発表内容の的確性　30%、課題への取り組み　40%
テキスト 参考書	看護系英語文献 ： 英語力の確認後選定 参考書　1. 西垣内磨留美 (2003).『英文のしくみがきちんとわかる』、ベレ出版. 2. 西垣内磨留美 (2000).『英語の語順と文法』、ベレ出版.
履修上の注意点	授業に英和辞書(電子辞書または紙の辞書)を持参すること。

科目名	多変量解析論	科目番号	4	単　位	2	時　間	30
教員名	渡邉　智之	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択	開講学期		後期	

科目概要	看護分野を含む医学研究では疾病や健康状態を客観的に評価することが重要であり、多変量解析による分析が必要とされることが多い。これらの知識と技術は看護師等、医療専門職には欠かせないものとなっている。 本講義では、多変量解析を行う上で必要な統計学の基礎、および比較的使用頻度が高い多変量解析の方法について学ぶ。 また、統計解析ソフトの一つであるSPSSを用いた解析の実例などを紹介することで、具体的な解析方法や結果の解釈の仕方についても解説する。
目　標	1．多変量解析を行うために必要な統計学の基礎について理解し、説明ができる。 2．多変量解析の方法を理解し、どのような場合にどの手法を用いるか等、具体的な手順について説明ができる。 3．統計解析ソフトを用いて、多変量解析を実施することができる。 4．解析結果を正しく読み取り、結果から何が言えるか等について説明ができる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	統計学の基礎	渡邉　智之
	第2回	単変量解析の方法(1)：検定の選択方法	渡邉　智之
	第3回	単変量解析の方法(2)：主な単変量解析	渡邉　智之
	第4回	多変量解析とは	渡邉　智之
	第5回	重回帰分析(1)：相関、単回帰分析	渡邉　智之
	第6回	重回帰分析(2)：重回帰分析の考え方	渡邉　智之
	第7回	重回帰分析(3)：重回帰分析の実際	渡邉　智之
	第8回	二項ロジスティック回帰分析(1)：二項ロジスティック回帰分析の考え方	渡邉　智之
	第9回	二項ロジスティック回帰分析(2)：二項ロジスティック回帰分析の実際	渡邉　智之
	第10回	因子分析(1)：因子分析の考え方	渡邉　智之
	第11回	因子分析(2)：因子分析の実際	渡邉　智之
	第12回	主成分分析	渡邉　智之
	第13回	判別分析	渡邉　智之
	第14回	比例ハザードモデル(1)：生存分析	渡邉　智之
	第15回	比例ハザードモデル(2)：比例ハザードモデルの考え方とその実際	渡邉　智之

評価方法	授業ごとの小レポート(30%)、単位認定レポート(70%)
テキスト 参 考 書	ハンドアウトを配布する。
	参考書　　1．対馬 栄輝(2018). 「SPSSで学ぶ医療系多変量データ解析 第2版」、 東京図書.
履修上の注意点	統計学の基礎知識、SPSSの基本的な操作を修得していることが望ましい。

科目名	看護教育方法論	科目番号	5	単　位	2	時　間	30
教員名	平賀　元美	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	必修	開講学期		前期	

科目概要	本科目では、時代とともに変化した看護教育制度と教育課程について学修するとともに、看護教育の特徴を理解する。 看護教育・保健医療福祉の場における看護職者育成に向けて、効果的な授業設計、教育方法や評価の方法を習得するとともにこれらを支える諸理論についても理解を深める。また、社会のニーズに応えられる看護専門職の育成と役割拡大のための継続教育、生涯教育の在り方を学修し、専門職としてのキャリア開発について探究する。さらに、看護実践の質を高めるための方法や看護教育をめぐる現代の課題とその解決方法を探究する能力を養う。
目　標	1．社会・医療環境の変化と看護教育の変遷について説明できる
	2．看護基礎教育におけるカリキュラムとその特徴について説明できる
	3．学習理論と看護教育への応用、成人学習、継続学習、生涯学習の必要性とその特徴について説明できる
	4．看護教育の特徴を踏まえ学習理論を参考に、授業設計ができる
	5．看護実践を支える看護教育の在り方、看護実践を高めるための手法を用いた効果的な指導が説明できる
	〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉
	DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。
	DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内　容	第1回	授業の進め方のオリエンテーション　課題の提示と参考図書の紹介	平賀　元美
	第2回	社会情勢および保健・医療・福祉の変化と看護基礎教育の変遷	平賀　元美
	第3回	看護教育制度とカリキュラムの特徴	平賀　元美
	第4回	看護教育と学習理論①　　動機づけ理論, 発見学習理論	平賀　元美
	第5回	看護教育と学習理論②　　看護教育と成人学習モデル	平賀　元美
	第6回	看護教育の対象の理解　　基礎教育と継続教育の対象	平賀　元美
	第7回	授業設計と教育評価①　　教育目標と教育内容の抽出	平賀　元美
	第8回	授業設計と教育評価②　　単元の考察(教材観、指導観、学習者観)	平賀　元美
	第9回	授業設計と教育評価③　　学習指導計画と評価	平賀　元美
	第10回	授業設計と教育評価④	平賀　元美
	第11回	授業設計と教育評価⑤　　授業の実施と評価	平賀　元美
	第12回	臨床場面における実践指導の在り方　OJT場面における指導	平賀　元美
	第13回	看護における継続教育と生涯教育　院内教育, クリニカルラダー, プリセプターシップ(病院で実施されている継続教育、生涯教育等への参画)	平賀　元美
	第14回	看護における継続教育と生涯教育　院内教育, クリニカルラダー, プリセプターシップ(病院で実施されている継続教育、生涯教育等への参画の報告)	平賀　元美
	第15回	まとめ	平賀　元美

評価方法	レポート内容(60%)　グループディスカッションでの課題の取り組みと討論の内容(４０%)
テキスト,参考書.	テキスト　：　特に指定しない。 参考書　　１．舟島なをみ編(2020/1). 「看護学教育学における授業展開　第2版」, 医学書院. ２．田島桂子編(2009/6). 「看護学教育評価の基礎と実際 看護実践能力育成の充実に向けて」, 医学書院, 第2版.
履修上の注意点	1. 授業はゼミ形式で行う。 2. 事前に課題を提示するので、十分な文献検索を行いプレゼンテーションの準備を行うこと。

科目名	看護倫理学	科目番号	6	単　位	2	時　間	30
教員名	屋良　朝彦・白鳥さつき	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	必修	開講学期		後期	

科目概要	臨床における様々な倫理的問題・葛藤を取り上げ、患者や家族、医療従事者間での倫理的調整を行うための基礎的知識を学ぶ。倫理の原則、生命倫理と看護倫理に関する動向、実践における倫理的諸問題などについて学び、看護専門職としての倫理観や倫理的態度について考える能力を養う。さらに医療チームでの倫理的調整を行うための知識を学修する。 これらの知識を活用して事例から倫理的課題を分析し、医療チームにおける看護師の役割と効果的な介入および意思決定支援について考察する。学修を通して看護専門職としての倫理的感受性を高め、倫理的課題を調整する能力を養う。（科目責任者：屋良朝彦）
目　標	1．倫理の原則、生命倫理と看護倫理に関する動向を理解し、説明できる。 2．臨床場面の倫理的課題について、事例から倫理的ジレンマの分析と意思決定のプロセスを表現できる。 3．看護専門職としての倫理観や倫理的態度について自己の考えを深め、プレゼンテーションできる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	オリエンテーション　倫理と法律　倫理と哲学	屋良朝彦
第2回	倫理の理論の理解：倫理学とは何か、様々な倫理理論 ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言など	屋良　朝彦
第3回	看護理論の基盤：医療倫理の4原則	屋良　朝彦
第4回	医学・医療における倫理指針　先端医療における倫理指針	屋良　朝彦
第5回	臨床倫理　インフォームドコンセントと意思決定支援	屋良　朝彦
第6回	看護倫理　ケースに見る倫理的問題　　がんの告知、安楽死、尊厳死	屋良　朝彦
第7回	看護倫理　ケースに見る倫理的問題　　出生前診断、在宅患者への医療・介護	屋良　朝彦
第8回	研究倫理　ヘルシンキ宣言　患者の権利と擁護　個人情報保護	屋良　朝彦
第9回	研究倫理　看護研究に必要な倫理原則　倫理委員会の役割と現状	屋良　朝彦
第10回	看護倫理の基礎知識　看護者の倫理綱領　倫理カンファレンス　意思決定への支援	屋良　朝彦
第11回	倫理調整のための事例分析　　多職種による倫理カンファレンスまたはDeathカンファレンスに参加し、事例分析の方法と多職種協働における看護の役割について学習する。	白鳥さつき
第12回	倫理調整のための事例分析　各自が体験した医療の場で起こった倫理課題について分析する。	白鳥さつき
第13回	倫理調整のための事例分析　各自が体験した教育の場で起こった倫理課題について分析する。	白鳥さつき
第14回	倫理調整のための事例分析　成果発表	白鳥さつき
第15回	倫理調整のための事例分析　成果発表とまとめ	白鳥さつき

評価方法	グループディスカッションへの参加度(30%)，課題の発表・発言(20%)，発表内容(20%)，レポート内容(30%)
テキスト，参考書.	テキスト　：　指定しない。　適宜配布資料あり。 参考書　1．サラ T. フライ(著)，片田 範子(翻訳)(2010)．看護実践の倫理―倫理的意思決定のためのガイド、日本看護協会出版会. 2．赤林 朗，家永 登，中尾 久子(著)(2002)．ケースブック医療倫理 、医学書院. 3．福井 次矢，浅井 篤，大西 基喜(2003)．臨床倫理学入門、 医学書院.
履修上の注意点	1. 授業はゼミ形式で行う。 2. 事例分析に関するデータや文献、新聞記事などを資料とするので、事前に収集しておくこと。

科目名	看護コンサルテーション論	科目番号	7	単　位	2	時　間	30
教員名	永井　邦芳	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択	開講学期		前期	

科目概要	コンサルテーションのために基本的に必要な知識や技術について理解し、コンサルティとコンサルタントの関係性構築のプロセスについて学修を深める。これらをもとに、保健・医療・福祉領域においてより質の高い援助を提供するために、看護管理者、看護スタッフ、教育現場が直面する課題を明確にし、解決に向かう方法を検討する。さらに、コンサルテーションの知識や技術の活用について、文献や院生が体験した事例を分析・検討する。また、講義、討論、およびロールプレイ、コンサルテーション実践事例に基づいた学修などを取り入れる。
目　標	高度看護実践を行う上でのコンサルテーションの意義・必要性を理解し、その特徴や成立要件をもとに、援助関係を構築し、文化的規範、倫理的配慮を加味したコンサルテーションスキルを探求する。また、コンサルタントとしての自己の課題を討議を通して明確化する。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	看護コンサルテーションとは	永井　邦芳
第2回	コンサルテーションの４つモデル（患者中心の事例についてのコンサルテーション、コンサルティ中心の事例についてのコンサルテーション、プログラム中心の管理に関するコンサルテーション、コンサルティ中心の管理に関するコンサルテーション）とその特徴　1	永井　邦芳
第3回	コンサルテーションの４つモデル（患者中心の事例についてのコンサルテーション、コンサルティ中心の事例についてのコンサルテーション、プログラム中心の管理に関するコンサルテーション、コンサルティ中心の管理に関するコンサルテーション）とその特徴　2	永井　邦芳
第4回	コンサルタントの内面のプロセス／コンサルタントに必要な能力	永井　邦芳
第5回	コンサルテーションと倫理	永井　邦芳
第6回	パワーと組織アセスメントについての討議	永井　邦芳
第7回	コンサルティとコンサルタントの立場を均等化するプロセスとしての面接法	永井　邦芳
第8回	コンサルティとコンサルタントの立場を均等化するプロセスとしての面接法	永井　邦芳
第9回	ケースコンサルテーションの事例検討	永井　邦芳
第10回	ケースコンサルテーションの事例検討	永井　邦芳
第11回	グループコンサルテーションの事例検討	永井　邦芳
第12回	グループコンサルテーションの事例検討	永井　邦芳
第13回	コンサルテーション事例発表および討議	永井　邦芳
第14回	コンサルテーション事例発表および討議	永井　邦芳
第15回	まとめ／コンサルテーションにおける自己の学習課題の明確化	永井　邦芳

評価方法	①授業への参加・貢献度50%　②課題レポート50 %。課題に対するプレゼンテーションでは、参加者で意見交換を行い、コメントを行う。また、課題レポートには、コメントをつけて返却する。
テキスト 参考書	1．Schein, E. H.(1999/2002）.稲葉元吉（訳）,プロセス・コンサルテーション．白桃書房. 2．岩田健太郎.（2011）．コンサルテーション・スキル　他科医師支援とチーム医療．南江堂. 3．Ａｎton,O.(2006/2014）.武井麻子（監訳）,組織のストレスとコンサルテーション．金剛出版. 4．Underwood,Ｐ.南裕子監修（2003）．看護理論の臨床活用．日本看護協会出版会. 5．Hill,C.E.(2004/2014）.藤生英行監訳,ヘルピングスキル【第２版】．金子書房．（要約を資料として配布する）
履修上の注意点	積極的に討論に参加すことが望まれる。

科目名	看護マネジメント論	科目番号	8	単　位	2	時　間	30
教員名	白鳥　さつき	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択	開講学期		後期	

科目概要	看護マネジメント論は看護実践において、新人看護師から熟達者まですべての職位が必要とする知識と技術である。 看護におけるマネジメントの在り方は、社会の変化に伴う保健・医療・福祉の動向に大きく影響を受けてきた。 本科目ではこれらに伴う看護管理の変遷を概観し、看護管理が担う役割について学修する。 さらに、組織においてヒト･モノ･カネ･情報を有効に活用しながら質の高いサービスを提供するための知識と技術を修得し、能動的かつ創造的にマネジメントに関わる姿勢を養う。
目　標	1．看護実践を支えるために「マネジメント」の知識とスキルを有効に活用する必要性について説明できる。 2．組織の成り立ちと病院の基本的構造、看護部の位置づけと役割について説明することができる。 3．看護サービスの質保証について方略を説明できる。①看護サービスの特徴と質評価　②医療安全と医療事故の根本分析 4．組織変革理論に基づいて看護の立場からマネジメント計画が立てられる(PDCAサイクルの活用)。 5．看護専門職の役割と責務、倫理、情報の有効活用について学び、自身の意見を述べることができる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	オリエンテーション　看護管理とマネジメント：マネジメントとは・看護管理の歴史的変遷	白鳥　さつき
第2回	組織の成り立ちと病院組織の特徴、組織における看護部の位置づけ、組織図と指示命令系統	白鳥　さつき
第3回	リーダーシップ理論の変遷と看護におけるリーダーシップ	白鳥　さつき
第4回	看護の質保証：医療経済と看護　グループディスカッション(事前課題：医療経済に関する資料収集)	白鳥　さつき
第5回	医療経済と看護　グループワークの成果発表	白鳥　さつき
第6回	看護の質保証：看護サービスの特徴と看護の質保証　質を保証するという意味について	白鳥　さつき
第7回	看護の質保証：リスクマネジメント　医療安全とコンフリクトマネジメント	白鳥　さつき
第8回	看護におけるリスクマネジメント　　医療コンフリクトマネジメント	白鳥　さつき
第9回	看護の質保証：事故分析　Root cause analysis　RCA　　ロジックツリーの種類と問題分析方法	白鳥　さつき
第10回	看護の質保証：事故分析　Root cause analysis　RCA　　ロジックツリー分析結果の発表	白鳥　さつき
第11回	医療倫理　管理的立場からの倫理的課題　【GW演習・プレゼンテーション】	白鳥　さつき
第12回	集団とは　集団の意味と弊害　変革理論とフォースフィールド分析 【GW演習】(組織分析結果をもとに変革の企画とグループディスカッション)	白鳥　さつき
第13回	看護情報学とは, IT化による情報管理と倫理的課題　　課題	白鳥　さつき
第14回	看護専門職の役割と機能　　課題発表　　CN、CNS、NPの動向　海外との比較	白鳥　さつき
第15回	まとめ　所属する組織の現状分析結果から導き出された課題と取り組むマネジメントの方略について 発表し, ディスカッションする。	白鳥　さつき

評価方法	グループディスカッションへの参加度(20%),　課題の発表・発言(30%),　発表内容(25%),　レポート内容(25%)
テキスト 参考書	1．井部俊子他：「看護管理学習テキスト第３版, 第４巻 組織管理論」, 日本看護協会出版会, (2020), 2．井部俊子他：「看護管理学習テキスト第３版, 第４巻 看護サービスの質管理」, 日本看護協会出版会, (2020). 3．Journal of Nursing Management　インパクト ファクター： 2. 243 (2019年)　ISSN：0966-0429 (print); 1365-2834 (web) 4．勝原裕美子：組織で生きる　管理と倫理のはざまで、医学書院、2016. 5．スティーブン・P・ロビンス/高木晴夫訳：「組織行動のマネジメント」, ダイアモンド社, (2009). その他, 必要な図書や文献はオリエンテーションで紹介する。
履修上の注意点	1．授業形態は, 講義と各自が課題について調べた結果をプレゼンテーションする形式をとる。 2．課題は十分文献検討を行い, 根拠のあるデータを示すこと。

科目名	看護フィールド演習	科目番号	9	単　位	2	時　間	30
教員名		科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択	開講学期		前期	

科目概要	看護実践は、これまでの先行研究で明らかにされた科学的根拠をもとに高度な専門的知識を探求することから始まる。また、看護実践は、看護問題や課題をアセスメントし高い倫理観のもと関連する保健・医療・福祉・教育に携わる職種との連携により、アプローチするための能力を高めることが求められている。本科目では、看護実践能力を高めるために、看護問題や課題解決に向けた取り組みを実際の看護の場であるフィールドに出て実施し、自己の取り組みを評価することにより課題を明らかにし看護の質向上に貢献できる能力を養う。（科目責任者：穴井美恵）
目標	1．看護実践を支えるための、高度な専門的知識について説明できる。 2．科学的根拠に基づいた看護実践について調べることができる。 3．臨床で求められる高い倫理観について評価できる。 4．多職種との連携・協働のあり方について参加することができる。 5．看護実践において課題解決に貢献できる実践能力について学びを深めることができる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	看護現場における看護課題・病棟が抱える課題・患者の問題等を文献調査する	
	第2回	看護現場における看護課題の対策について文献検討を行い、課題解決の方法を検討する	
	第3回	看護実践のための病院でのオリエンテーションを受け、病棟での看護課題を把握する	
	第4回	病棟での看護課題に関連する情報収集と関連要因を明確化する	
	第5回	病棟での看護課題解決に向けて、具体的な対応策をスタッフとともにディスカッションする	
	第6回	病棟での看護課題解決に向けて、具体的な対応策を提案・実施する	
	第7回	病棟での看護課題解決に向けて、具体的な対応策を提案・実施後、その結果を振り返る	
	第8回	実施結果とアプローチについて帰納法、演繹法を用いて振り返り、必要があれば再実施を試みる	
	第9回	必要に応じて倫理的配慮をし、課題解決に向けた判断と行動方法について再検討する	
	第10回	必要に応じて多職種との連携・協働について、実際からを学ぶ	
	第11回	課題解決の必要に応じて他部門とのケースカンファレンスに参加し、臨地での多職種との連携・協働を行う	
	第12回	課題解決に向けて計画、看護実践し、結果までの過程について考察する	
	第13回	看護実践における課題解決の実践・結果・考察をまとめ、発表の準備をする	
	第14回	看護実践における課題解決の学びをまとめ、P.P.で説明する	
	第15回	まとめ／看護実践において課題解決に貢献できる実践能力に関する自己の学修課題の明確化した内容をまとめ、レポートを提出する	

評価方法	②発表内容30%　③報告書70 %
テキスト，参考書.	1．鈴木敏恵（2012）．プロジェクト学習の基本と手法―課題解決力と論理的思考力が身につく．教育出版. 2．鈴木敏恵（2010）．看護師の実践力と課題解決力を実現する!ポートフォリオとプロジェクト学習．医学書院. その他、必要な図書、研究論文は、講義内で紹介する
履修上の注意点	臨地での指導者やスタッフの協力が得られるように調整する 積極的に討論に参加することが望まれる。

科目名	多職種連携方法論	科目番号	10	単　位	2	時　間	30
教員名	阿部　恵子	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択	開講学期		後期	

科目概要	我が国では、超高齢社会を迎え、医療のあり方は多様化、複雑化している。地域社会の人々のケアの質を向上させるために、保健・医療・福祉の多職種専門職者と信頼関係を構築し、連携及び協働することができる能力を身につける。多職種連携における自己の役割と他職種の役割理解、連携のためのアサーティブコミュニケーション能力と、専門職としての高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につけ、自らを省察し課題を明らかにする。具体的には講義、グループワークでの事例検討等を通して、課題解決に向けて、積極的にコミュニケーションを図り、他職種の役割及び視点、さらに生活者としての患者・家族のニーズや社会背景を理解し、グループ討論することで、多職種連携の意義を理解する。
目　標	1．多職種連携・協働の意義を述べることができる。 2．多職種協働における自己の役割と他職種の役割を述べることができる。 3．チーム医療に求められるアサーティブコミュニケーション能力と他職種をリスペクトする態度について述べることができる。 4．生活する当事者の視点を考慮してディスカッションできる。 5. 多職種の視点で医療・福祉・地域の側面から多角的にディスカションできる。 6．健康問題を持つ対象者の現状と課題を理解し、対象者中心の援助計画を立案できる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP③: 専門分野の課題に対し、専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決に貢献できる高度な看護実践能力を有する

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	【ガイダンス】授業の概要、評価について 【講義】多職種医療の歴史、概要	阿部恵子 （10/2（木）4～5限）
	第2回	【グループワーク】各自の多職種連携医療の現状と課題について	
	第3回	【講義】チームコミュニケーション	安井浩樹、宇城研吾、阿部恵子 （10/11（土） 3～4限）
	第4回	【グループワーク】アサーティブコミュニケーション	
	第5回	【講義】多職種連携の実際：理学療法士・作業療法士他（ゲストスピーカー）	内山　靖、阿部恵子 （10/18（土） 1～2限）
	第6回	【グループワーク】事例検討	
	第7回	【講義】多職種連携の実際：（管理栄養士）、社会福祉士他（ゲストスピーカー）	山口みほ、阿部恵子 （10/25（土）1~2限）
	第8回	【グループワーク】事例検討	
	第9回	【講義】多職種連携の実際：（看護師）、薬剤師他（ゲストピーカー）	野田幸裕、阿部恵子 （11/1（土）3~4限）
	第10回	【グループワーク】事例検討	
	第11回	【講義】多職種連携の実際：医師、臨床検査技師他（ゲストスピーカー）	阿部恵子 （11/8（土）1、2限）
	第12回	【グループワーク】事例検討	
	第13回	多職種チームカンファレンス①	安井浩樹、 阿部恵子 （1/10（土）3~4限
	第14回	多職種チームカンファレンス②	
	第15回	全体討論　まとめ	阿部恵子 1/14（水）6限

評価方法	出席状況、最終レポートにより評価します。
テキスト 参考書	参考書 1.多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル、篠田道子　(2011)、医学書院 2.エピソードから地域に根ざした医療とケアのあり方を考える、安井浩樹　編（2019）、京都廣川書店 3.コミュニケーション論・多職種連携、内山靖　他　(2020)、医歯薬出版
履修上の注意点	

科目名	看護病態生理学	科目番号	11	単　位	2	時　間	30
教員名	石井　健一朗	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択	開講学期		前期	

科目概要	患者の病態生理を的確に捉えることは予測を持った観察や、適切な看護実践に繋がる。 看護職者は、より体系的に人間の身体を理解し、病態生理を看護実践に生かすべく知識を獲得する必要がある。 解剖・生理・病理を基にして病態を関連づけた知識を身につけることで、病態生理学的推論力を働かせる。 すなわち、科学的根拠に基づいた高度な知識、判断力を身につけることで、より専門性の高い看護実践が可能となる。本講義を通じて、観察した患者の状態から病態をアセスメントし、看護計画を立てていく際に必要となる病態生理学の知識や理解を深める。
目　標	1. 症状の発生機序を病態および生理学的な知見で説明できる。 2. 症状の発生機序に基づく対処方法および予防方法を提言できる。 3. 事例を通じて、症状や検査所見に基づいた臨床判断および看護援助を提言できる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	循環器疾患の病態生理(講義と事例抽出)	石井　健一朗
第2回	循環器疾患の事例検討(討論)	石井　健一朗
第3回	脳血管疾患の病態生理(講義と事例抽出)	石井　健一朗
第4回	脳血管疾患の事例検討(討論)	石井　健一朗
第5回	炎症・免疫・腫瘍の病理(講義)	石井　健一朗
第6回	呼吸器疾患の病態生理(講義と事例抽出)	石井　健一朗
第7回	呼吸器疾患の事例検討(討論)	石井　健一朗
第8回	消化器疾患の病態生理(講義と事例抽出)	石井　健一朗
第9回	消化器疾患の事例検討(討論)	石井　健一朗
第10回	泌尿器疾患の病態生理(講義と事例抽出)	石井　健一朗
第11回	泌尿器疾患の事例検討(討論)	石井　健一朗
第12回	アレルギーと自己免疫疾患の病態生理(講義と事例抽出)	石井　健一朗
第13回	アレルギーと自己免疫疾患の事例検討(討論)	石井　健一朗
第14回	老化と加齢関連疾患の病態生理(講義と事例抽出)	石井　健一朗
第15回	老化と加齢関連疾患の事例検討(討論)	石井　健一朗

評価方法	授業中の質疑応答、事例プレゼンテーション、レポート課題により総合的に評価する。
テキスト，参考書.	1．看護過程に沿った対症看護　第５版　病態生理と看護のポイント、学研メディカル秀潤社. 2．疾患別看護過程の展開　第６版、学研メディカル秀潤社.
履修上の注意点	授業は、ゼミ形式で行う。

科目名	看護臨床薬理学	科目番号	12	単　位	2	時　間	30
教員名	石井　健一朗	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択	開講学期		後期	

科目概要	薬物は疾病の原因を取り除くだけでなく、症状を和らげることにより生命を守る一方で、副作用や有害事象を引き起こし、人体を苦しめることがある。看護職者は患者に直接、与薬し、その治療効果や副作用の発現等を最も眼前で観察する存在である。そのため、薬理学・臨床薬理学の知識は、誤薬の防止、治療効果の判定、有害事象の早期発見と予防、服薬アドヒアランスの向上、残薬を減らすための取り組みなど、服薬や治療に関する患者・家族への指導・説明において重要となる。看護職者が薬物治療を受ける患者の病態を深く理解し、薬物治療に精通した実践能力を獲得する。 すなわち、与薬や治療管理に関する高度な知識、判断力を身につけることで、より専門性の高い看護実践が可能となる。 本講義を通じて、与薬の実践者として看護職者に求められる薬物治療の知識や理解を深める。
目　標	1. 薬が効く仕組み、体内薬物動態を説明できる。 2. 薬物使用時のアセスメントや判断、薬物投与後のモニタリングについて説明できる。 3. 事例を通じて、患者に適した生活調整や服薬管理能力の向上のための方策を提言できる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	薬理学・臨床薬理学総論(講義)	石井　健一朗
	第2回	薬理遺伝学(PGx)(講義)	石井　健一朗
	第3回	スペシャルポピュレーションの薬物治療(講義)	石井　健一朗
	第4回	がん治療の臨床薬理学(講義)	石井　健一朗
	第5回	新規医薬品開発と臨床研究(講義)	石井　健一朗
	第6回	循環器疾患・脳血管疾患に対する薬物治療(講義と事例抽出)	石井　健一朗
	第7回	循環器疾患・脳血管疾患に対する薬物治療の事例検討(討論)	石井　健一朗
	第8回	呼吸器疾患に対する薬物治療(講義と事例抽出)	石井　健一朗
	第9回	呼吸器疾患に対する薬物治療の事例検討(討論)	石井　健一朗
	第10回	消化器疾患に対する薬物治療(講義と事例抽出)	石井　健一朗
	第11回	消化器疾患に対する薬物治療の事例検討(討論)	石井　健一朗
	第12回	生殖器・泌尿器疾患に対する薬物治療(講義と事例抽出)	石井　健一朗
	第13回	生殖器・泌尿器疾患に対する薬物治療の事例検討(討論)	石井　健一朗
	第14回	急性病態に対する薬物治療(講義と事例抽出)	石井　健一朗
	第15回	急性病態に対する薬物治療の事例検討(討論)	石井　健一朗

評価方法	授業中の質疑応答、事例プレゼンテーション、レポート課題により総合的に評価する。
テキスト,参考書.	1．看護過程に沿った対症看護　第５版　病態生理と看護のポイント、学研メディカル秀潤社. 2．疾患別看護過程の展開　第６版、学研メディカル秀潤社. 3．処方がわかる医療薬理学 2022-2023、学研メディカル秀潤社.
履修上の注意点	授業は、ゼミ形式で行う。

科目名	家族看護学	科目番号	13	単　位	2	時　間	30
教員名	山口　桂子	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択	開講学期		前期	

科目概要	昨今のわが国の超高齢社会の到来は医療制度にも大きな影響をもたらし、病院などの施設で受ける医療中心の時代から、地域･在宅における療養へと変化してきているが、その中で“家族”に期待される役割はますます大きくなっている。しかし、一方で、わが国における“家族”の様相は、核家族の増加や晩婚化、女性の社会進出の推進など、家族の価値観や家族形態に影響を与える様々な出来事により大きく変化し、上記の医療事情への対応が困難な事例も少なくない。 家族看護学は、“家族”を一つの単位として看護援助の対象ととらえ、看護過程を展開する。 家族アセスメントから看護介入に至る過程について概説し、具体的な家族看護問題を有する事例の分析によって、家族看護への理解と実践能力の獲得を目指す。
目　標	1．わが国の家族に関する社会的動向をとらえ、家族を理解し説明できる 2．家族看護の基盤となる主な理論について説明できる 3．家族看護において活用できる代表的なモデルについて説明できる 4．家族看護の主な理論や看護モデルを用いて、経験事例に関する家族アセスメントができる 5．家族看護の主な理論や看護モデルを用いて、経験事例に関する家族介入の検討・考察ができる 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	家族看護の歴史的背景とわが国の家族看護の動向	山口　桂子
	第2回	家族看護の基盤となる理論(1)：家族発達理論, 家族役割理論, 家族システム理論など	山口　桂子
	第3回	家族看護の基盤となる理論(2)：家族セルフケア理論, 家族ストレス対処理論など	山口　桂子
	第4回	家族看護における代表的なモデル(1)：カルガリー式家族アセスメント／介入モデル	山口　桂子
	第5回	家族看護における代表的なモデル(2)：家族看護エンパワーメントモデル	山口　桂子
	第6回	家族看護におけるアセスメント(1)：具体的なアセスメントシートに基づくアセスメントの実際(演習を含む)	山口　桂子
	第7回	家族看護におけるアセスメント（2）：具体的なアセスメントツールの活用(演習を含む)	山口　桂子
	第8回	健康問題を有する家族への介入：具体的な家族への介入に関する知識と方法・実践例の紹介	山口　桂子
	第9回	看護問題を有する家族の事例分析と検討(1)： (例)家族形成期にある家族への支援（演習を含む)	山口　桂子
	第10回	看護問題を有する家族の事例分析と検討(2)： (例)子育て中の養育期家族における家族発達課題達成への支援（演習を含む)	山口　桂子
	第11回	看護問題を有する家族の事例分析と検討（3）： (例)在宅移行期にある高齢の家族員と家族への支援（演習を含む)	山口　桂子
	第12回	看護問題を有する家族の事例分析と検討(4)： (例)救急搬送された家族員と家族への支援（演習を含む)	山口　桂子
	第13回	看護問題を有する家族の事例分析と検討(5)： (例)慢性疾患を有する家族員と家族への支援(演習を含む)	山口　桂子
	第14回	看護問題を有する家族の事例分析と検討(6)： (例)終末期にある家族員と家族への支援（演習を含む)	山口　桂子
	第15回	家族看護における支援に関する課題と展望(演習を含む)	山口　桂子

評価方法	1．授業におけるプレゼンテーション(50%),　2．最終課題のレポート(50%)
テキスト, 参 考 書.	テキスト ： 指定しない 参 考 書　1．鈴木和子, 渡辺裕子, 佐藤律子 (2019) 家族看護学　理論と実践(第 5 版). 日本看護協会出版会 2．野嶋佐由美　監修 (2005) 家族エンパワーメントをもたらす看護実践. へるす出版 3．中野綾美, 瓜生浩子　編 (2020) 家族看護学　家族のエンパワーメントを支えるケア. メディカ出版 4．法橋尚宏　編 (2010) 新しい家族看護学　理論・実践・研究. メジカルフレンド社
履修上の 注意点	授業への積極的な参加を期待する。

科目名	国際保健学	科目番号	14	単　位	2	時　間	30
教員名	宮本　恵子	科目種別	共通科目	開講年次		2年	
		必修・選択他	選択	開講学期		後期	

科目概要

国際保健学とは、社会開発・経済開発の過程で生じる健康問題とその多面的要因を研究し、実行可能な対策を考える、社会医学の一分野である。 開発の過程では、社会と人間との相互作用により、さまざまな要因が健康に影響している。 人々の健康が損なわれる時、病原体などの直接的原因や、栄養状態などの間接的原因に加えて、経済的・社会的・文化的要因が遠隔的に作用している。健康を改善するには、医学・保健医療のみならず、社会学・文化人類学・経済学など、いろいろな専門分野の知識・技術を取り入れ、総合的なアプローチを生み出していく必要がある。とくに、開発途上国では、保健医療分野に投資できる資金や人材が限られているうえ、保健医療政策を実施する仕組みに問題のあることが多い。

これらの問題点にどのように対応して、最大多数の人々の健康を改善していくのか、さまざまな国際的取組がなされてきた。
多数の国際機関、政府開発援助機関、非政府機関(NGO)などが、保健医療分野の開発協力に取り組んでいる。

この授業では、国際保健学分野の主要な課題について、開発途上国における具体的事例を示しながら解説する。

目　標

1．国際保健学の基本的な考え方を説明できる。

2．世界の保健医療分野における課題とその対策や世界的戦略についての概要を述べられる。

3．ジェンダーと健康の関連について説明できる。

〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉

DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。

DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	世界の健康課題 / 開発と健康	宮本　恵子
第2回	ダイバーシティとインクルージョン	宮本　恵子
第3回	ジェンダーと健康	宮本　恵子
第4回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	宮本　恵子
第5回	母子保健 / 小児保健	宮本　恵子
第6回	プライマリ・ヘルス・ケア / コミュニティ・ヘルス	宮本　恵子
第7回	感染症対策 (1) エイズ / 結核 / マラリア	宮本　恵子
第8回	感染症対策 (2) 予防接種 / インフルエンザ / コロナ	宮本　恵子
第9回	栄養 / 公衆栄養	宮本　恵子
第10回	生活習慣病の予防と対策	宮本　恵子
第11回	環境衛生 / 労働衛生 / 食品衛生	宮本　恵子
第12回	災害と紛争 / 健康危機管理	宮本　恵子
第13回	世界的戦略 / 開発援助機関の活動	宮本　恵子
第14回	文化人類学的アプローチ / 質的研究	宮本　恵子
第15回	プロジェクト・サイクル・マネジメント	宮本　恵子

評価方法

授業中の討論への参加 (50%)・単位認定レポート(50%)による総合評価

テキスト, 参考書.

1．日本国際保健医療学会編 (2013) .「国際保健医療学 第3版」杏林書院.
2．佐藤寛・青山温子編 (2005) .「シリーズ・国際開発 第3巻：生活と開発」日本評論社.
3，青山温子・原ひろ子・喜多悦子(2001) .「開発と健康―ジェンダーの視点から」有斐閣出版.

履修上の注意点

1．授業で基本的事項を説明したのち、事例を提示して討論する。
2．学生は、積極的に討論に参加することが望まれる。

科目名	保健医療福祉行政論	科目番号	15	単　位	2	時　間	30
教員名	五十里　明	科目種別	共通科目	開講年次		1－2年	
		必修・選択他	選択	開講学期		前期	

科目概要	近年における看護職者には、従来の保健指導や対象集団への組織的アプローチに加えて、保健・医療・介護・福祉施策に関する健康政策・健康事業の企画から評価について学ぶことにより、関係機関と連携・調整し、実践から得られた結果を評価して政策・事業の改善を図るという一連のプロセスを遂行する能力が求められている。 本科目では、このような社会の要請に基づいて能力を発揮できる看護職者を育成するために、それらの基礎となる各種の法律や制度について理解を深めることに重点を置いて講義を進める。
目　標	人々の生活に即した専門性の高い看護実践ができる 1．保健医療福祉行政の理念と仕組みについて説明ができる 2．公衆衛生政策の歴史変遷と現在の課題について述べることができる 3．地方自治と計画行政について述べることができる 4．行政における保健師活動の必要性について述べることができる 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	第1章　保健医療福祉行財政の理念と仕組み　1．保健医療福祉の行政	五十里　明
第2回	第1章　保健医療福祉行財政の理念と仕組み　2．保健医療福祉の財政	五十里　明
第3回	第1章　保健医療福祉行財政の理念と仕組み　3．公衆衛生に関する国際的な活動	五十里　明
第4回	第2章　保健医療福祉行政の変遷　　1．公衆衛生政策の基盤整備(～昭和20年代)	五十里　明
第5回	第2章　保健医療福祉行政の変遷　　2．新たな課題と政策の発展(昭和20～40年代)	五十里　明
第6回	第2章　保健医療福祉行政の変遷　　3．政策の充実と転換(昭和50年代～現在)	五十里　明
第7回	第3章　保健医療福祉に関する制度　1．社会保障制度と公衆衛生行政	五十里　明
第8回	第3章　保健医療福祉に関する制度　2．地域保健の体系	五十里　明
第9回	第3章　保健医療福祉に関する制度　3．社会福祉の制度	五十里　明
第10回	第3章　保健医療福祉に関する制度　4．医療の制度	五十里　明
第11回	第3章　保健医療福祉に関する制度　5．介護保険制度	五十里　明
第12回	第3章　保健医療福祉に関する制度　6．行政における保健師活動と期待される役割	五十里　明
第13回	第4章　保健医療福祉行政の計画と評価　1．地方自治体の保健医療福祉計画	五十里　明
第14回	第4章　保健医療福祉行政の計画と評価　2．地方自治体の計画策定	五十里　明
第15回	第4章　保健医療福祉行政の計画と評価　3．計画の推進と管理・評価　試験(レポート)とまとめ	五十里　明

評価方法	アクティブラーニングを中心に講義を進め、参加度20%、講義終了後の試験(レポート)80% から総合的に評価する。
テキスト参考書	テキスト　1．野村陽子編集：最新 保健学講座 7 保健医療福祉行政論 第4版, メヂカルフレンド社, 2020年3月. 参考書　1．日本公衆衛生協会(2016年7月). 衛生行政大要 改訂第24版. 2．一般財団法人厚生労働統計協会編集(2022). 厚生の指標 増刊 国民衛生の動向 2022/2023.
履修上の注意点	1. 予習：次回の授業範囲についてテキストを熟読し、質問事項をノートにまとめていくこと。(90分) 2. 復習：講義で得られた重要ポイントをノートにまとめておくこと。(90分) 3. 日頃から、保健医療福祉に関する情報に関心を持ち、スクラップやメモを取る等データの整理を心がけること。

科目名	看護海外研修	科目番号	16	単　位	2	時　間	60
教員名	出原　弥和	科目種別	共通科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択	開講学期		前期	

科目概要	本科目では、タイ王国の医療・看護の制度や、文化を学び、国際的な視野を広げる。訪問国の保健医療福祉現場の見学や現地での生活を通して、その国の文化や生活、保健医療福祉・看護教育の現状に関する情報を主体的に収集し、国際的視野をもって人々の健康と看護のあり方を探求する。
目　標	1．タイにおける医療制度、教育制度について説明できる。 2．他国の医療・福祉、看護政策、看護の実際を知ることを通して、日本との共通点や違いを説明できる。 3．広く海外に目を向ける姿勢を養うとともに、日本において活用できる知見を得て、今後の看護職としての活動に生かしていく。 4．日本の医療・福祉の概要について英語でプレゼンテーションができる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	1回	看護教育海外研修レクチャー　研修前・中のスケジュールやパスポートの準備、諸経費等	出原　弥和
	2回-5回	〈事前課題に取り組む〉プレゼン（英語のパワーポイント）の準備をする。	
	6回	発表演習　日本の看護教育、医療・看護を紹介する内容(質疑含めて15分程度)	
	8回	訪問予定のタイの看護教育制度や文化について調べる。研修直前ガイダンス	
	1日目	〈研修の行程〉飛行機(中部国際空港/セントレア)〈発〉にて移動	
	9-12回 2日目	看護教育の実際について知るために大学訪問を行う。 タイの看護教育について英語の講義を受ける。研究テーマに関連した事項、日本の医療、看護、看護教育について本学学生のプレゼンテーションを行い、意見交換を大学教員および学生と行う。	
	13-15回 3日目	感染症予防の英語の講義を受ける。 タイの伝統的な代替補完医療について施設を訪問し学ぶ。	
	16-19回 4日目	地域の訪問看護の在り方やその実際について英語による講話を通して学ぶ。 在宅医療同行訪問。	
	20-23回 5日目	タイのヘルスケアシステムと看護師の役割について英語による講話を通して学ぶ。 地域の病院を見学し、チーム医療について学ぶ。	
	24-27回 6日目	タイの高齢者看護について学び、老人ホームや高齢者サロンを見学する。	
	7日目	飛行機(中部国際空港/セントレア)〈着〉にて移動　早朝到着 ＊具体的な行程表は、別紙にて提示する。	
	28-30回	報告書を完成させる。	

評価方法	・プレゼンテーションの内容と現地での質疑　80%　　報告書20%
テキスト，参考書.	1. 織田由紀子(2010). タイの看護師と看護教育，国際ジェンダー学会誌，8，67-80. 2. 日本学術会議，健康・生活科学委員会，看護学分科会（2011). 高度実践看護師制度の確立に向けてーグローバルスタンダードからの提言ー，1-21. 3. 日本看護科学学会，タイ王国　異文化看護データベース，1-5.
履修上の注意点	1. 研修参加前に、研修先で日本を紹介するプレゼンテーション(英語)の準備を行う。 2. 体調管理を行い、パスポートなど海外に出向く準備をする。※参加費は自費となる。

科目名	母性・助産看護学特論	科目番号	17	単　位	2	時　間	30
教員名		科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		前期	

科目概要	本科目では性差による生物学的、生理学的、社会学的な問題や知見にふれ、性差を考慮した看護課題について探究する。 さらに、女性の健康援助に関連する様々な概念、我が国や世界における母性看護に関する政策課題、女性の健康援助に対する具体的な援助法など視点を絞り文献の講読をする中から女性の健康援助について討議する。 特に、近年の母子を取り巻く環境の変化により、女性に起こっている様々な問題状況は、健康な子どもを産み育てるための支援という従来の母子看護の考え方だけでは捉えきれず、このケアニーズに対応するために新たな枠組みが必要となってきている。このような状況を踏まえ、現代社会で起こっている女性の健康問題を取り上げ、その研究・看護実践の課題と支援の方略について探究する。
目　標	1．性差による生物学的、生理学的、社会学的な様々な問題や知見にふれ、性差を考慮した看護課題について探求できる。 2．女性の健康を取り巻く様々な課題を取り上げ、看護の主要な教育・研究・実践の課題を文献により明確にし、論理的に記述できる。 3．母性看護学・助産学における看護学の動向を踏まえながら、看護の方向性や研究・看護実践の課題と支援の方略について考察できる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	ウィメンズヘルスにおけるテーマと課題	
第2回	性差がもたらす生物学的、生理学的、社会学的な視点から問題を提起し討議する。 性差医療について考える。	
第3回	性差がもたらす生物学的、生理学的、社会学的な視点から問題を提起し討議する 。性同一性障害について「ブレンダと呼ばれた少年」抄読により考える。	
第4回	子育て期の母親の支援について歴史的変遷を踏まえ現代女性の置かれている課題を明確化し討議する。	
第5回	子育てを取り巻く環境について,「日本子ども資料年艦」の最新データを分析する。	
第6回	子育て期にある母親の研究について、具体的には現代の母親の心の健康を知る育児ストレス､育児幸福感､夫婦ペアレンティングにフォーカスして紹介し､具体的な方法論や知見について学ぶ。	
第7回	子育てにおける様々な問題についてビデオ視聴により討議する 。	
第8回	不妊女性の看護 ：生殖医療を取り巻く社会や医療の現状と、当事者の声から看護ケアの根拠、治療の選択や終止をめぐる意思決定支援について	
第9回	不妊女性の看護 ：第8回をふまえて様々な立場から討議をする。	
第10回	関心のある課題を取り上げ、4編程度の関連文献のクリティークのための準備をする。	
第11回	関心のある課題を取り上げ、関連文献2編のクリティークをゼミにより行う。	
第12回	第11回とアプローチの異なっている関連文献2編のクリティークをゼミにより行う。	
第13回	文献検討の結果をまとめレポートを作成する。	
第14回	文献検討の結果を発表し他者との意見交換を行い新たな研究・看護実践の課題と支援の方略を明確にする。	
第15回	文献検討による最終レポートを完成させる。	

評価方法	最終レポート(60%) および 討議の内容(40%)
テキスト,参考書.	テキスト　：　なし 参考書　　1. 日本子ども資料年鑑　中央出版 2.ブレンダと呼ばれた少年　ジョン・コラピント著　村井智之訳　無名舎　抜粋 その他、必要時に資料として配布する.
履修上の注意点	学生は、学習課題に即した関連文献・資料をもとに、報告をし最終レポートを作成する.

科目名	母性・助産看護学演習	科目番号	18	単　位	4	時　間	60
教員名		科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では、周産期およびそれぞれのライフステージにある女性に対して、効果的な看護援助方法を提供するためのコンサルテーション能力を養い、援助方法を評価するための看護研究方法について検討する。 フィールドワークの課題の明確化をふまえて課題を解決するための計画の立案と実施、結果のまとめ、報告書を作成する過程を経験する。具体的には、特論で学修した母性看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げる。フィールドワークの課題を明確にし、その課題に取り組み、研究能力、看護実践能力を培う。 テーマを取り上げた理由を明確にしながら、さらに研究的に取り組みながらゼミ形式で討議し、テーマについて深めながら特別研究Ⅰ、Ⅱに繋げていく。さらに、その一部を取り上げ模擬授業計画を立案し、実施し評価を受けることで教育能力を養う。
目　標	1．自己のフィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を培う。
	2．フィールドワークの目的、方法のを設定し施設との交渉を行い、フィールドワークを実施し、看護実践能力を培う。
	3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。
	〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉
	DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。
	DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。
	DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	演習の課題と具体的な進め方についてのガイダンス ・フィールドワークと模擬授業の実施により教育・研究・実践能力を養う ・フィールドワークの例の紹介と具体的な絞り込みについて ・フィールドワークの実施について ・フィールドワークの報告書の作成について ・模擬授業について	
	第2回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、教育・研究・実践の課題としているテーマの周辺の研究成果を整理し自らの課題としているテーマについて焦点化する。	
	第3回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、アプローチの方法論を検討する。	
	第4回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、量的・質的研究の文献レビュー、テーマに関するその他の文献を調べる。特論でまとめた内容を深めていくことも可能	
	第5回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表	
	第6回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表後の修正	
	第7回	施設への公文書を発送する。施設責任者と連絡をとる。	
	第8回	具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の立案をする。	
	第9回	フィールドワーク事前準備　フィールドワークを実施するための最終準備状況の確認	
	第10回	フィールドワークを行う（1回）フィールドまたは調査のための調整を行う	

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内　容	第11回	フィールドワークを行う（２回）フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	
	第12回	フィールドワークを行う（３回）異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	
	第13回	フィールドワークを行う（４回）さらに異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	
	第14回	フィールドワークを行う（５回）収集したデータ、調査結果を整理する	
	第15回	フィールドワークを行う（６回）データ収集とフィールドへのフィードバックをする	
	第16回	フィールドワークの事後整理	
	第17回	フィールドワーク後の報告書作成	
	第18回	フィールドワーク後の発表準備	
	第19回	フィールドワークの成果発表。学生、教員が参加し意見交換をする	
	第20回	発表後に報告書に対する指導を受け修正する	
	第21回	発表後に研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し報告書を完成させる。	
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定	
	第23回	決定された課題に対する資料を集める	
	第24回	計画案の媒体等の準備を行う	
	第25回	計画案を作成する	
	第26回	計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う	
	第27回	計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする	
	第28回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する	
	第29回	修正された計画案を完成させる	
	第30回	本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する	
	〈フィールドワーク例〉 a．施設における妊婦に対するフットケアの看護の実際と課題 b．開発途上国のTBAの実態とTBAに対して行う教育 c．施設における母乳栄養の確立に対する看護の参加観察と評価 d．社会的リスクのある妊産婦に関わる助産師の心理的ストレスの状況 e．妊婦の腰痛を緩和・改善するための体操の検討と実施 f．分娩期にある産婦の産通体験を緩和するための教育と援助		
評価方法	フィールドワーク発表、 報告書(70%)， 模擬授業(30%)		
テキスト，参考書	テキスト　：　随時文献・図書を紹介する		
	参考書　：　適宜提示する		
履修上の注意点	ゼミ形式で進められることから、積極的な姿勢で臨むこと。		

科目名	小児看護学特論	科目番号	19	単　位	2	時　間	30
教員名	金城　やす子	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		前期	

科目概要	子どもとその家族がおかれているさまざまな状況を理解し、特に子どもの倫理的側面として、児童の権利条約の理念に基づいた健康生活について多様な視点で論議し、子どもの生きる権利の擁護に関する課題と方法について探究する。また、子どもの成長発達の視点、生活リズム形成等の理解を深め、生活者としての子どもの存在を理解する。子どもに関連した内外の最新の文献を検索し、小児看護学研究の動向を探るとともに小児看護の特徴を探究する。
目　標	1．小児看護を実践していく上で必要な子どもと家族の健康問題について理解することができる 2．医療や看護の場における子どもと家族の倫理について考え、小児看護における現状の課題を明確にすることができる 3．小児看護学の研究に関する動向について理解することができる 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	小児看護学の対象理解：子どもとは、子どもについての理解を深める	金城　やす子
第2回	小児看護と倫理①　子ども観の変遷　子どもの置かれている社会状況との関連を考える	金城　やす子
第3回	小児看護と倫理②　小児医療・看護における倫理上の課題について検討する	金城　やす子
第4回	小児看護と倫理③　小児医療・看護における倫理上の課題と対策　　事例をもとに検討する	金城　やす子
第5回	小児看護を取り巻く環境①　子どもの特徴と社会・経済の動きについて理解する	金城　やす子
第6回	小児看護を取り巻く環境②　子どもに関する法整備について学ぶ	金城　やす子
第7回	小児看護を取り巻く環境③　子どもに関する諸統計について学ぶ 少子高齢化がどのような社会の課題を生み出すのかを論議する	金城　やす子
第8回	子どもと家族の関係を家族看護学に基づいて検討する	金城　やす子
第9回	小児看護における家族支援　　事例を基に具体的な支援について検討する 特に虐待問題に視点を当て、家族の役割、養育者の関わりについてディスカッションし、親役割について検討する	金城　やす子
第10回	小児保健①　子どもの成長発達を支援するための方法を検討する	金城　やす子
第11回	小児保健②　子どもの生活リズム形成について検討する	金城　やす子
第12回	小児保健③　子どもと睡眠　睡眠の必要性と成長発達との関連を理解する	金城　やす子
第13回	小児保健④　保育園看護と保育保健について理解する	金城　やす子
第14回	医療的ケア児と小児在宅医療　　小児在宅医療の課題や今後の取り組みについて理解する	金城　やす子
第15回	まとめ　小児看護の課題及び子どもと倫理に関するディスカッション	金城　やす子

評価方法	事前の資料準備と演習への参画度（評価視点：課題学習の準備および提出状況、事前学習の内容）	50点	
	終了レポートの内容（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、文献活用の適切性）	50点	合計　100点満点
テキスト，参考書．	1．講義時に提示する 2．必要な資料等は事前に配布・アナウンスする		
履修上の注意点	1．小児看護を多様な面からとらえる講義・学修とするため、子どもに興味をもって主体的に履修してほしい 2．授業は、ディスカッション形式で進めるため、事前学習が重要となる。事前学習に十分取り組むこと 3．講義には主体的に取り組み、自らの研究テーマにつながる学修を進めること		

科目名	小児看護学演習	科目番号	20	単　位	4	時　間	60
教員名	金城　やす子	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目は、小児看護学特論の講義内容を深めるため、また効果的な看護の援助方法を構築・評価するためフィールドワークの実践を通して小児看護の特徴や課題について学修する。看護研究方法については、文献クリティーク、ディスカッションに重点を置き、自己の課題の明確化を図る。 自己の課題の明確化、 フィールドワークの課題の明確化をふまえ、課題解決のための計画立案・実施、結果のまとめ、報告書の作成の過程を経験する。特論で学修した小児看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げる。フィールドワークでは明確化した課題に取り組み、研究能力、看護実践能力を培う。課題解決に向けて研究的に取り組み、テーマをさらに深めることで特別研究Ⅰ、Ⅱに繋げる。フィールドワークで得た結果の一部を取り上げ、模擬授業を計画・立案し、実施し評価を受けることで教育能力の向上を図る。
目　標	1．自己のフィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を培う。 2．フィールドワークの目的、方法を設定し施設との交渉を行い、フィールドワークを実施し、看護実践能力を培う。 3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	小児看護学演習の学習の進め方に関するガイダンス ・文献レビュー及び文献分析の方法（看護研究能力の育成） ・フィールドワークと模擬授業の実施（教育・研究・実践能力を養う） ・フィールドワーク課題の具体的な絞り込みについて ・フィールドワークの実施について ・フィールドワークの報告書の作成について ・模擬授業について(教育能力の育成)	金城やす子
第2回	小児看護学で取り組む課題を明確にする 事例研究及び文献分析の方法を学ぶための課題を明確にする	金城やす子
第3回	文献クリティーク①　クリティークとは、クリティークの方法について学ぶ 資料を読み解く	金城やす子
第4回	文献クリティーク②　資料をもとにディスカッション 資料整理およびまとめ（要約の作成）	金城やす子
第5回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、教育・研究・実践の課題としているテーマの周辺の研究成果を整理し自らの課題としているテーマについて焦点化する。	金城やす子
第6回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、アプローチの方法論を検討する。 量的・質的研究の文献レビュー、テーマに関するその他の文献を調べる。	金城やす子
第7回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表	金城やす子
第8回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表後の修正	金城やす子
第9回	フィールドワーク実施に向けた調整 施設への公文書を発送する。施設責任者と連絡をとる。 具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の立案をする。	金城やす子
第10回	フィールドワーク実施に向けた調整 施設への公文書を発送する。施設責任者と連絡をとる。 具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の立案をする。	金城やす子

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内容	第11回	フィールドワーク事前準備　フィールドワークを実施するための最終準備状況の確認	金城やす子
	第12回	フィールドワークを行う（１回）フィールドまたは調査のための調整を行う	金城やす子
	第13回	フィールドワークを行う（２回）フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	金城やす子
	第14回	フィールドワークを行う（３回）フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	金城やす子
	第15回	フィールドワークを行う（４回）収集したデータ、調査結果を整理する	金城やす子
	第16回	フィールドワークを行う（５回）収集したデータ、調査結果を整理する	金城やす子
	第17回	フィールドワークを行う（６回）データ収集とフィールドへのフィードバックをする	金城やす子
	第18回	フィールドワークの事後整理、報告書作成	金城やす子
	第19回	フィールドワーク後の発表準備	金城やす子
	第20回	フィールドワークの成果発表。学生・教員間でのディスカッション	金城やす子
	第21回	発表後に研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し報告書を完成させる。	金城やす子
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定	金城やす子
	第23回	決定された課題に対する資料を集める	金城やす子
	第24回	計画案の媒体等の準備を行う	金城やす子
	第25回	計画案を作成する	金城やす子
	第26回	計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う	金城やす子
	第27回	計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする	金城やす子
	第28回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する	金城やす子
	第29回	修正された計画案を完成させる	金城やす子
	第30回	学修の振り返りを通して、研究能力・教育能力・実践能力獲得状況について考察する	金城やす子
	〈フィールドワーク例〉 a.小児病棟の看護の実際と課題 b.小児在宅医療の実際と課題 c．保育園看護師の実際と課題（サポートシステム構築に向けての課題） d．幼児の生活リズム形成に関する課題と調査 e． 保育における保護者支援の課題 f． 医療保育（病棟保育）における課題と子どもの権利擁護		
評価方法	フィールドワーク発表、 報告書(60%)， 模擬授業(20%)、文献クリティーク等への参画度（20%）		
テキスト，参考書.	テキスト　：　.随時文献・図書を紹介する		
	参考書　：　適宜提示する		
履修上の注意点	ゼミ形式で進められることから、積極的な姿勢で臨むこと。		

科目名	成人・老年看護学特論	科目番号	21	単　位	2	時　間	30
教員名		科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		前期	

科目概要	成人・老年看護学における日本を含む諸外国のケアの制度、サービスシステム、看護の機能について理解する。 この科目は、生活環境(病院、施設を含む)、自尊心を含めたケアの選択と意思決定、セルフケア能力の向上、健康問題と生活の特徴に合わせて看護を展開するための理論の理解とその応用によってアセスメント方法、ケア実施での特徴、ケアの効果評価(アウトカム)方法を学ぶ。成人・老年期の健康問題を取り上げ、その研究・実践の課題について探究する。
目　標	1．諸外国とわが国のケアシステムおよび看護職者の機能を比較し、わが国の課題について探究できる。
	2．成人・老年期にある身体的、精神的、社会的特徴を理解し、論理的に論述できる。
	3．家族を含む対象の生活の場におけるアセスメントとケアについて考察できる。
	〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉
	DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。
	DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	成人・老年期における諸外国(スウエーデン）のケアの制度、サービスシステムについて、検討する。	
	第2回	成人・老年期における諸外国(アメリカ）のケアの制度、サービスシステムについて、検討する。	
	第3回	わが国の成人・老年期におけるケアの制度、サービスシステム、看護の機能について、検討する。	
	第4回	成人・老年期におけるケアの制度、サービスシステム、看護の機能について、わが国の課題を説明できる。	
	第5回	成人・老年期における身体的・精神的・社会的特徴について検討する。	
	第6回	成人・老年期における身体的・精神的・社会的特徴について説明できる。	
	第7回	急性期にある成人・老年期の身体的・精神的・社会的な包括的アセスメントについて検討する。	
	第8回	急性期にある成人・老年期の身体的・精神的・社会的な包括的アセスメントについて説明できる。	
	第9回	慢性期にある成人期の身体的・精神的・社会的な包括的アセスメントについて検討する。	
	第10回	慢性期にある成人期の身体的・精神的・社会的な包括的アセスメントについて説明できる。	
	第11回	慢性期にある老年期の身体的・精神的・社会的な包括的アセスメントを検討する。	
	第12回	慢性期にある老年期の身体的・精神的・社会的な包括的アセスメントを説明できる。	
	第13回	看護プロセスからみたケアの効果評価(アウトカム)を説明できる。	
	第14回	文献検討の結果をまとめ発表し他者との意見交換を行い、新たな研究・実践の課題を明確にする。	
	第15回	文献検討による最終レポート完成させる。	

評価方法	情報収集と分析50%　最終レポート 50%

テキスト， 参 考 書.	参考書　1，Joseph J. Giallo et al.(2006). Handbook of Geriatric Assessment 4th：Jones & Bartlet Publishers. 2．長寿科学総合研究CGAガイドライン研究班(2008). 高齢者総合的機能評価ガイドライン 3．鳥羽研二(2010). 高齢者の生活機能の総合的評価、新興医学出版社、2010 4．大内尉義、秋山弘子、 折茂肇(2010). 新老年学第3版、東京大学出版会、2010 各教員により適宜紹介
履修上の 注意点	授業をゼミ形式で行うため、主体的に臨むこと。

科目名	成人・老年看護学演習	科目番号	22	単　位	4	時　間	60
教員名		科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	成人・老年期の健康状態や生活行動能力の向上、悪化防止・維持とQOLの向上を目指して、健康生活行動のレベル、発生しやすい健康問題と生活問題を中心として看護実践の向上とそのための理論や介入のエビデンスを用いて研究への応用能力の修得を目指す。 そのため特論で学修した成人・老年看護学領域における様々な課題を、詳しく研究的に明らかにする中で最も関心の高い課題を探究する。自らの問題意識から演習課題を明確にし、その課題に取り組む。また、模擬授業の計画・実施を通じて教育能力を育成する。
目　標	1．フィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を高める。
	2．フィールドワークの目的、方法を設定し施設との交渉を行い、フィールドワークを実施し、実践能力を高める。
	3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を高める。
	〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉
	DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。
	DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。
	DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内　容	第1回	演習の課題と具体的な進め方についてのガイダンス を行い、フィールドワークと模擬授業の実施により研究・教育・実践能力を養うことを目的とする。 ・フィールドワークの例の紹介と具体的な絞り込みについて説明する。 ・フィールドワークの実施について説明する。 ・フィールドワークの報告書の作成について説明する。 ・模擬授業について、説明する。	
	第2回	文献検討を行いながら、研究・教育・実践の課題としているテーマの周辺の研究成果を整理できる。	
	第3回	学生の自らの課題としているテーマについて焦点化できる。	
	第4回	自らの課題としているテーマについて、アプローチの方法論を検討する。量的・質的研究の文献レビュー、テーマに関するその他の文献検索、自己のフィールドワーク課題の明確化ができる。	
	第5回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する。	
	第6回	立案されたフィールドワーク計画書について説明する。	
	第7回	教員は、事前準備を施設責任者と行う。 学生は、施設等への依頼文を作成し発送する。	
	第8回	指導のもと学生は具体的なフィールドワーク計画案の調整を直接施設と行う。	
	第9回	フィールドワーク事前準備を行う（フィールドノートの作成）	
	第10回	フィールドワーク1日目：計画書にそって情報収集を行う。まずは観察を行う。	
	第11回	フィールドワーク2日目：インフォーマント（情報提供者）の選択を行う。	
	第12回	フィールドワーク3日目：インタビュー調査内容は、インタビュー終了後フィールドノートに記載する。記録を残すことの承諾を得る。倫理的配慮を行う。インフォーマントからの調査内容を整理する。	
	第13回	フィールドワーク4日目：前日の調査内容から、視点を定め本日の調査を行う。人びとの行動を直接的に観察してフィールドノートをつける	

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内　容	第14回	フィールドワーク5日目：フィールドに出向くことでわかる人びとの声を聴きフィールドノートにつける。学生自身が考える視点で、フィールドノートに記載する。	
	第15回	フィールドワーク6日目：フィールドに出向くことで理解される資料の収集を行う。	
	第16回	フィールドワーク計画書・実施内容の整理を行う。	
	第17回	フィールドワーク後の報告書の完成を目指す。	
	第18回	フィールドワーク後の学修内容の整理を行う。	
	第19回	フィールドワークの発表と他者との意見交換を行う（学生、教員）。	
	第20回	発表後に報告書に対する指導を受け完成する。	
	第21回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、授業の成立要件を熟考し、授業方法を検討する。	
	第22回	看護学教育の単元にそって教材観、学生観、指導観を明確化する。	
	第23回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定を行う。	
	第24回	計画案の資料・媒体の準備を行う。	
	第25回	計画案を作成する。	
	第26回	計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う。	
	第27回	計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする。	
	第28回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する。	
	第29回	修正された計画案を完成させる。	
	第30回	研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察し、レポートを完成する。	
評価方法	フィールドノート　30%　　情報収集と分析　30%　　レポート　40%		
テキスト参考書	各教員より適宜紹介		
履修上の注意点	授業をゼミ形式で行うため、主体的に臨むこと。		

科目名	精神看護学特論	科目番号	23	単　位	2	時　間	30
教員名	永井　邦芳	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		前期	

科目概要	精神保健看護の枠組みでクライアント(患者・家族・集団・組織・コミュニティ）が自らの精神健康上の課題に気づき、心理的に困難な状況を主体的に乗り越えていくケアシステムの構築をパーパスとする。対象と場を考慮したケアの基盤となる看護理論や関連分野のモデル、概念に対する理解を深め、看護実践・管理、教育、研究の方向性を検討する。また、高い倫理観に基づき、利用者への人権擁護者としての役割を発揮する力を養う。（科目責任者：永井邦芳）
目　標	1．精神看護の臨床で活用される主な看護、治療、援助モデルについて、自らの看護実践と照合しながら説明できる。
	2．問題解決思考から離れ、クライアントの文脈に添った援助方法を提案できる。
	3．人権擁護と法令順守の原則に立ち、正当性・妥当性のあるケアを創出し、提供できる。
	4．臨床実践の場でのケアの提供者、管理者として、利用者に提供するケアの根拠を言語化できる。
	5．精神看護の教育者の観点からケアの構築についての理論基盤、ケアの提供方法を説明できる。
	6．精神看護の研究における看護を構成する理論的基盤を説明できる。
	〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉
	DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。
	DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	特論における授業目的の確認及び文献検討の方法について討議する。	永井 邦芳
	第2回	精神看護におけるセルフケア不足理論とセルフケアアプローチの文献検討	永井 邦芳
	第3回	治療的患者看護師関係、精神力動論を基本に置いた対人関係論に基づいた看護研究の文献検討。	永井 邦芳
	第4回	適応モデルを基本に置いた看護研究の動向と文献検討。	永井 邦芳
	第5回	危機モデル・ストレス脆弱性に重点を置いた精神看護の研究に関する文献検討。	永井 邦芳
	第6回	精神看護学および精神医療における脳生理学的アプローチの動向についての文献検討。	永井 邦芳
	第7回	個人の精神的成長を促すアプローチに関する研究についての文献検討。	永井 邦芳
	第8回	家族・集団の精神健康の向上を促すアプローチについての文献検討。	永井 邦芳
	第9回	学校・企業・コミュニティの精神健康の向上を促すアプローチについての文献検討。	永井 邦芳
	第10回	関心のある課題を取り上げ、5編程度の関連文献のクリティークのための準備をする。	永井 邦芳
	第11回	関心のある課題を取り上げ、関連文献のクリティークを討議する。	永井 邦芳
	第12回	第11回とアプローチの異なっている関連文献のクリティークを討議する。	永井 邦芳
	第13回	文献検討の結果をまとめレポートを作成する。	永井 邦芳
	第14回	文献検討の結果を発表し他者との意見交換を行い新たな研究・看護実践の課題と支援の方略を明確にする。	永井 邦芳
	第15回	文献検討による最終レポートを完成させる。	永井 邦芳

評価方法	①授業への参加・貢献度　50%　　②課題レポート　50%

テキスト，参考書.	1．Stuart, G. W. , & Laria, M. T.(2005/2007). 安保寛明, 宮本有紀(監訳),「看護学名著シリーズ 精神科看護－原理と実践」(原著第８版). エルゼビア・ジャパン. 2．西尾雅明(2004). ACT入門-障害者のための包括型地域生活支援プログラム. 金剛出版. 3．小島操子(2013). 看護における危機理論・危機介入ーフィンク/コーン/アグィレラ/ムース/家族の聞きモデルから学ぶ(第３版). 金芳堂. 4．野口裕二(2002). 物語としてのケア ナラティヴ･アプローチの世界へ. 医学書院. ※その他、クラスディスカッション資料は開始時に提示する
履修上の注意点	1．新型コロナの感染の状況によってはリモート授業を行います。受講生の通信環境としてはzoomなどのリアルタイム授業が行える。 2．環境を整えてください。大学院の授業はディスカッションを中心に行いますので、オンデマンド型授業は行いません。

科目名	精神看護学演習	科目番号	24	単　位	4	時　間	60
教員名	永井　邦芳	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では、メンタルヘルス上の困難を有する対象（患者・家族・集団・職域）に対して、効果的な看護援助方法を提供するためのコンサルテーション能力を養い、援助方法を評価するための看護研究方法について検討する。 フィールドワークの課題の明確化をふまえて課題を解決するための計画の立案と実施、結果をまとめ、報告書を作成する過程を経験する。具体的には、特論で学修した精神看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げる。フィールドワークの課題を明確にし、その課題に取り組み、研究能力、看護実践能力を培う。テーマを取り上げた理由を明確にしながら、さらに研究的に取り組みながら必要時ゼミ形式で討議し、テーマについて深めながら特別研究Ⅰ、Ⅱに繋げていく。さらに、その一部を取り上げ模擬授業計画を立案し、実施し評価を受けることで教育能力を養う。
目　標	1．自己のフィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を培う。 2．フィールドワークの目的、方法を設定し施設との交渉を行い、フィールドワークを実施し、看護実践能力を培う。 3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	演習の課題と具体的な進め方についてのガイダンス ・フィールドワークと模擬授業の実施により教育・研究・実践能力を養う ・フィールドワークの例の紹介と具体的な絞り込みについて ・フィールドワークの実施について ・フィールドワークの報告書の作成について ・模擬授業について	永井 邦芳
第2回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、教育・研究・実践の課題としているテーマの周辺の研究成果を整理し自らの課題としているテーマについて焦点化する。	永井 邦芳
第3回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、アプローチの方法論を検討する。	永井 邦芳
第4回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、量的・質的研究の文献レビュー、テーマに関するその他の文献を調べる。特論でまとめた内容を深めていくことも可能	永井 邦芳
第5回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表	永井 邦芳
第6回	学生が立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性について検討する 立案されたフィールドワーク計画書の発表後の修正	永井 邦芳
第7回	施設・自助グループ等の団体代表への公文書を発送する。フィールド責任者と連絡をとる。	永井 邦芳
第8回	具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の立案をする。	永井 邦芳
第9回	フィールドワーク事前準備　フィールドワークを実施するための最終準備状況の確認	永井 邦芳
第10回	フィールドワークを行う（1回）フィールドまたは調査のための調整を行う	永井 邦芳
第11回	フィールドワークを行う（2回）フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	永井 邦芳

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内　容	第12回	フィールドワークを行う（３回）異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	永井 邦芳
	第13回	フィールドワークを行う（４回）さらに異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する	永井 邦芳
	第14回	フィールドワークを行う（５回）収集したデータ、調査結果を整理する	永井 邦芳
	第15回	フィールドワークを行う（６回）データ収集とフィールドへのフィードバックをする	永井 邦芳
	第16回	フィールドワークの事後整理	永井 邦芳
	第17回	フィールドワーク後の報告書作成	永井 邦芳
	第18回	フィールドワーク後の発表準備	永井 邦芳
	第19回	フィールドワークの成果発表。学生、教員が参加し意見交換をする	永井 邦芳
	第20回	発表後に報告書に対する指導を受け修正する	永井 邦芳
	第21回	発表後に研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し報告書を完成させる。	永井 邦芳
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定	永井 邦芳
	第23回	決定された課題に対する資料を集める	永井 邦芳
	第24回	計画案の媒体等の準備を行う	永井 邦芳
	第25回	計画案を作成する	永井 邦芳
	第26回	計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う	永井 邦芳
	第27回	計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする	永井 邦芳
	第28回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する	永井 邦芳
	第29回	修正された計画案を完成させる	永井 邦芳
	第30回	本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する	永井 邦芳
評価方法	①授業への参加・貢献度　50%、　②課題レポート　50%		
テキスト，参考書.	１．Stuart, G.W., & Laria, M. T.(2005/2007). 安保寛明, 宮本有紀(監訳),「看護学名著シリーズ精神科看護－原理と実践」(原著第８版)、エルゼビア・ジャパン. ２．西尾雅明(2004). ACT入門ー障害者のための包括型地域生活支援プログラム. 金剛出版. ３．小島操子(2013). 看護における危機理論・危機介入―フィンク/コーン/アグィレラ/ムース/家族の聞きモデルから学ぶ(第3版). 金芳堂. ４．野口裕二(2002). 物語としてのケア ナラティヴ・アプローチの世界へ. 医学書院. その他クラスディスカッション資料は開始時に提示する		
履修上の注意点	新型コロナの感染の状況によってはリモート授業を行います。受講生の通信環境としてはzoomなどのリアルタイム授業が行える環境を整えてください。大学院の授業はディスカッションを中心に行いますので、オンデマンド型授業は行いません。		

科目名	地域・在宅看護学特論	科目番号	25	単　位	2	時　間	30
教員名	西出りつ子・工藤紀子	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		前期	

科目概要

本科目では、地域看護活動の理論、地域モデル、ヘルスプロモーションの知見にふれ、地域に住む個人と家族、集団、地域全体を対象に多様な健康レベルと地域特性に合わせた望ましいコミュニティヘルスについて探究する。さらに、我が国や世界におけるコミュニティヘルスに関連する様々な支援や課題、コミュニティに対する具体的な支援方法など、視点を絞り文献の講読をするとともに地域看護活動について討議する。

特に、近年の地域社会を取り巻く環境の変化により生じている差別や偏見、虐待やDV、感染症などの様々な問題状況は、コミュニティヘルスを推進する従来の地域看護活動の考え方だけでは捉えきれず、これらのケアニーズに対応するために新たな枠組みが必要となってきている。このような状況を踏まえ、現代社会で起こっている健康課題を取り上げ、目指すべき地域・在宅看護学の方向性やその研究・看護実践の課題と支援の方略について探求する。（科目責任者：西出りつ子）

目標

1．地域看護活動の理論、地域モデル、ヘルスプロモーションの知見にふれ、望ましいコミュニティヘルスについて探究できる。

2．地域社会を取り巻く健康課題を取り上げ、地域看護の主要な教育・研究・実践の課題を文献により明確にし、論理的に記述できる。

3．地域・在宅看護学における看護学の動向を踏まえながら、看護の方向性や研究・看護実践の課題と支援の方略について考察できる。

〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉

DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。

DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	地域看護活動におけるテーマと課題	西出りつ子 工藤紀子
第2回	地域看護活動の理論的基盤から、プライマリーヘルスケアについて討議する。	
第3回	地域看護活動の地域モデルから、パートナーとしての地域について討議する。	
第4回	地域看護活動におけるヘルスプロモーションから、望ましいコミュニティヘルスについて討議する。	
第5回	地域看護活動における看護職の役割について、「日本でいちばん大切にしたい会社」抄読と討議により考える。	
第6回	地域における差別や偏見の現状とその背景、看護実践の課題と看護職の責務について討議する。	
第7回	地域における虐待やDVの現状とその背景、看護実践の課題と看護職の責務について討議する。	
第8回	地域における新興・再興感染症の現状とその背景、看護実践の課題と看護職の責務について討議する。	
第9回	地域看護活動における全世代型地域包括ケアについて討議する。	
第10回	関心のある課題を取り上げ、文献検索の結果を報告し、クリティークのための文献5編程度を選択する。	
第11回	関心のある課題に関する文献のクリティークをゼミにより行う。	
第12回	第11回に取り上げた文献と研究デザインが異なる関連文献のクリティークをゼミにより行う。	
第13回	文献検討の結果をまとめた作成資料を用いて発表し、自らの文献検討の課題を確認する。	
第14回	修正版の文献検討結果を発表し、意見交換により新たな研究・看護実践の課題と支援の方略を明確にする。	
第15回	文献検討により明らかとなった研究課題を発表し、文献検討結果を最終レポートとして完成させる。	

評価方法

最終レポート(60%) および 討議の内容(40%)

テキスト, 参考書.

テキスト　1. エリザベス T. アンダーソン他著, 金川克子/早川和生監訳：コミュニティ アズ パートナー 地域看護学の理論と実際 第 2 版, 医学書院, 2007.

参考書　1. 一般財団法人厚生労働統計協会編集：厚生の指標 増刊 国民衛生の動向 2021/2022.
2. 坂本光司(2008). 日本でいちばん大切にしたい会社，あさ出版.

その他、必要時に適宜紹介 及び 資料を配付する。

履修上の注意点

1. 学生は、学習課題に即した関連文献・作成資料をもとに報告・討議を行い、文献検討結果を最終レポートとして作成する。
2. 社会の動きに注意を払い、社会現象と健康を統合して考えることができるように学修を進めること。

科目名	地域・在宅看護学演習	科目番号	26	単　位	4	時　間	60
教員名	西出りつ子・ 工藤紀子	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では、地域看護活動を展開するために、効果的な看護援助方法を提供するためのコンサルテーション能力を養い、援助方法を評価するための看護研究方法について検討する。 フィールドワークの課題の明確化をふまえて課題を解決するための計画の立案と実施、結果をまとめ、報告書を作成する過程を経験する。具体的には、特論で学修した地域・在宅看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げてその理由を明示する。 本科目において実施可能なフィールドワークの課題と目的を明確にし、フィールドワークの一連の過程を通して研究能力と看護実践能力の向上を図る。これらの学修過程において、必要時にゼミ形式で討議し、研究課題について深めながら特別研究Ⅰ Ⅱに繋げていく。さらに、その一部を取り上げて模擬授業計画を立案、授業の実施とその評価を受けることで、教育能力を培う。（科目責任者：西出りつ子）
目　標	1．自己のフィールドワークの課題を明確化し、そのプロセスにおいて研究能力を培う。 2．フィールドワークの目的と適する方法を立案、関連施設との交渉を行い、フィールドワークを実施して看護実践能力を培う。 3．明らかにされた事項に関連したテーマで模擬授業等計画を立案し、実施評価するプロセスにおいて教育能力を養う。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	演習の課題と具体的な進め方についてのガイダンス ・フィールドワークと模擬授業の目的（実施により研究・実践・教育能力を養う） ・フィールドワークの例の紹介と具体的な絞り込みについて ・フィールドワークの実施について ・フィールドワークの報告書の作成について ・模擬授業について	西出 りつ子 工藤紀子
	第2回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、研究・実践・教育の課題とするテーマ周辺の研究成果を整理し、自らの課題とするテーマについて焦点化する。	
	第3回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、アプローチの課題を明確化、方法論を検討する。	
	第4回	自己のフィールドワーク課題の明確化 文献検討を行いながら、量的・質的研究の文献レビュー、課題に関するその他の文献を調べる。特論でまとめた内容を深めていく。	
	第5回	立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性の検討 立案したフィールドワーク計画書の発表・検討	
	第6回	立案したフィールドワークの目的・方法の妥当性・可能性の検討 フィールドワーク計画書修正版の発表・検討	
	第7回	施設への公文書を発送する。施設責任者と連絡をとる。	
	第8回	具体的な交渉を直接施設と行った後に計画の修正を行う。	
	第9回	フィールドワーク事前準備：フィールドワークを実施するための最終準備状況を確認する。	
	第10回	フィールドワーク（1）：フィールドまたは調査のための調整を行う。	
	第11回	フィールドワーク（2）：フィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する。	
	第12回	フィールドワーク（3）：異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する。	
	第13回	フィールドワーク（4）：さらに異なったフィールドまたは調査施設におけるデータ等を収集する。	

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内　容	第14回	フィールドワーク（５）：収集したデータ、分析結果を整理する。	西出りつ子 工藤紀子
	第15回	フィールドワークの事後整理	
	第16回	フィールドワーク後の報告書作成	
	第17回	フィールドワーク後の発表準備	
	第18回	フィールドワーク成果発表（学生、地域・在宅看護学教員、施設職員の参加による意見交換）	
	第19回	発表後に報告書に対する指導を受け、修正する。	
	第20回	研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し、発表報告書を完成させる。	
	第21回	フィールドワーク（６）：フィールドへ分析結果をフィードバックする。	
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定	
	第23回	決定された課題に対する資料を集める	
	第24回	計画案の媒体等の準備を行う	
	第25回	計画案を作成する	
	第26回	計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う	
	第27回	計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする	
	第28回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する	
	第29回	修正された計画案を完成させる	
	第30回	本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する	
	〈フィールドワーク例〉 a . 母子健康手帳交付時における妊婦の不安・心配の現状とそれらを緩和するsocial support b . 赤ちゃん訪問を受けた母親の育児に対する悩み・不安の内容および嬉しいことと楽しみなこと c . 1歳6か月児健康診査受診児を育てる母親自身の直近1年間の健診受診の有無とその理由 d . 地域在住高齢者の1日の身体活動の内容と身体活動量増加につながる要因 e . 健康づくり活動の地域住民リーダーが考えるグループの課題と解決に向けた方策 f . 難病とともに生きる人たちのニーズと家族のニーズの共通点と相違点	
評価方法	フィールドワーク発表内容・報告書(70%)，模擬授業(30%)		
テキスト，参考書.	テキスト　：　随時文献・図書を紹介する		
	参 考 書　：　適宜提示する		
履修上の注意点	ゼミ形式で進められることから、積極的な姿勢で臨むこと。		

科目名	災害看護学特論	科目番号	27	単　位	2	時　間	30
教員名		科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		前期	

科目概要	世界的規模で激甚災害の発生が常態化しつつある。近年の災害で特筆すべき震災や事件の発生に加えて、大洪水・噴火・猛暑・豪雪などによる災害が相次いでいる。 さらに新型コロナウイルス(COVID-19)感染症は世界でパンデミックと化した。 このような現状から災害看護の課題を明確にし、ニーズに対応するための新たな知識・技術が必要とされている。かつ、高度な知識・実践技術を有する災害看護の人材育成は必定である。 本科目では災害の基礎知識(歴史・定義・種類別の被害・サイクル･行政･法など)を概観し、災害が人々のいのち・心身の健康・暮らし・地域社会に及ぼす影響を理解・考察し、災害全般に渡る健康課題を明確にする。課題を踏まえ研究をもとにした災害看護実践の方略を探究する。
目　標	1．災害看護の基礎知識として歴史・定義・種類と被害の様相・法的側面などについて探求できる。
	2．災害の種類および災害サイクルにおける身体的な影響を考察し、実践課題を文献より明確にし論理的に記述できる。
	3．災害現場・被災地域で支援活動する人々および被災者の心身の反応と対応について考察できる。
	4．感染症のパンデミック・特に新型コロナウイルス(COVID-19)について看護活動の現状と課題について考察できる。
	5．病院・施設・地域における災害危機管理とマネジメントについて課題を検討し考察できる。
	〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉
	DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。
	DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	災害の歴史的概観および本邦の特に東海地方の災害について文献により考える。	
第2回	災害の基礎知識：災害･災害医療･災害看護の定義および現行の法とシステムについて討議する。以下、具体的に文献検討および討議し、分析する。	
第3回	災害の基礎知識：災害の種類別による健康問題と課題　①自然災害；地震･津波･洪水･噴火など	
第4回	災害の基礎知識：災害の種類別による健康問題と課題　②人為的災害；放射線･化学･爆発など	
第5回	災害サイクル：考え方と健康問題および課題を明確にし討議する。 ①静穏期･準備期；備え・減災に対する看護活動	
第6回	②発災･急性期；現場･救護所･病院における看護活動 ③中長期；避難所･仮設住宅･被災地域における看護活動	
第7回	災害が人々の健康と暮らしにおける影響と看護のあり方について以下、①～④について分析する。 ①地域社会への影響とその対応　　②成長・発達に応じた看護：母子から高齢者	
第8回	③災害時要支援者･障がい者に対する影響とその対応 ④災害が「こころ」におよぼす影響とその対応	
第9回	感染症のパンデミック･新型コロナウイルス(COVID-19)：①基礎知識および現状分析する。	
第10回	病院・施設・地域における災害と危機管理およびマネジメントの現状と課題を検討する。	
第11回	基礎学修を踏まえ関心のある課題を取り上げ、関連文献のクリティークを展開する。	
第12回	第11回の関連以外の異なる文献クリティークを展開する。	
第13回	文献検討の結果をレポートにまとめる。	
第14回	文献検討の結果を発表し意見交換を行う。意見交換より新たな課題の明確化と実践の方略を明確にする。	
第15回	文献検討による最終レポートを完成させる。	

評価方法	事前課題の学習(20%)、プレゼンテーションおよび参加度(30%)、最終の課題レポート(50%) を総合的に評価する。
テキスト, 参 考 書.	テキスト ： なし 参考書 1．安酸史子(2013/12) 防衛看護学、医学書院 2．柳田邦夫/酒井明子(2018/6) 災害看護の本質、日本看護協会出版会 3．三澤寿美(2018/3) 災害看護 寄り添う, つながる, 備える、学研メディカル秀潤社 その他、講義中に提示および配布する。
履修上の注意点	積極的に討論に参加することが望まれる。

科目名	災害看護学演習	科目番号	28	単　位	4	時　間	60
教員名		科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では災害看護学特論を基に、質の高い災害看護を実践・提供するための能力を養う。また現在、展開されている災害看護を検証・評価するための研究方法について検討する。具体的には災害看護領域に関する課題と考えられていることや関心のあるテーマを検討し、検討プロセスでは災害看護実践およびコンサルテーション・教育などに関するさまざまな先行研究をクリティークし探求する。研究方法の検討に際してはフィールドワークを経験する。フィールドワークでは研究課題を明確にし、災害看護実践力を培う。 課題の検討を経て研究テーマを絞り込み、研究を計画し、ゼミにおいて討論を重ね深めつつ研究としてまとめる。研究過程において災害看護教育に関する模擬授業を計画・立案し、実施を経て評価を受けることで教育・指導能力を養う。研究の一環として災害看護関連の学会・研究会などに参加し、新たな知見を獲得し研究に繋げる。
目　標	1．関心のあるテーマや課題とされている災害看護実践例や先行研究のクリティークを行い研究過程における能力を培う。 2．フィールドワークの目的や方法を明らかにし、フィールド側と調整を行い実施・評価を得て看護実践力を養う。 3．災害看護教育に関連したテーマで模擬授業等計画を立案・実施・評価の過程で教育指導能力を養う。 4．研究を推進し論述・発表する能力を養う。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	ガイダンス・ゼミ形式の進め方 ・フィールドワーク事例の紹介と具体的な進め方・計画・フィールドとの調整・依頼・報告	
第2回	・模擬授業の進め方・計画	
第3回	災害看護の実際を概観し自己の課題の明確化に繋がる文献クリティークを計画する。 文献はテーマ・災害看護の時期・場および質的・量的・その他の研究手法による文献を調べ検討する	
第4回	①文献クリティーク：災害看護の「備え」「地域防災」「行政」に関する現状と課題①	
第5回	②文献クリティーク：発災初期・急性期の看護と課題	
第6回	③文献クリティーク：中期の看護と課題	
第7回	④文献クリティーク：長期の看護と課題	
第8回	⑤文献クリティーク：関心のあるテーマおよび課題としたいテーマの検討	
第9回	文献クリティーク：全般を通して自己の課題を明確にし、焦点化する	
第10回	①フィールドワーク：課題を明確化するための文献検討を行い、併せて方法論を検討する フィールドワークの時期・期間・場などは院生及びフイールド側と調整する。災害発生状況で変更あり	
第11回	②フィールドワーク：院生立案のフィールドワーク計画の検討・目的・方法の妥当性など	
第12回	③フィールドワーク：計画書の発表・評価・修正し実施へと繋ぐ	
第13回	④フィールドワーク：実施に際しての交渉・手続きを行う・フィールド責任者との調整・公文書の発送	
第14回	⑤フィールドワーク：フィールドワークに際しての事前準備・調整を行う	
第15回	⑥フィールドワーク：実際；データ収集・アセスメント・実践計画	
第16回	⑦フィールドワーク：実際；実践計画・調整・実施・評価	

	回数	授業計画・内容	
授業計画・内　容	第17回	⑧フィールドワーク：実際；実践計画・調整・実施・評価	
	第18回	⑨フィールドワーク：フィールドワーク終了後のまとめ・事後の整理・御礼など	
	第19回	⑩フィールドワーク：発表・評価・討論を行う	
	第20回	フィールドワークのまとめ・フィールドへのフィールドバックを行う	
	第21回	発表後に研究・看護実践の課題や支援の方略について考察し報告書を完成させる	
	第22回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定	
	第23回	決定された課題に対する資料を集める	
	第24回	計画案の媒体等の準備を行う	
	第25回	計画案を作成する	
	第26回	計画案に沿ってプレ実施を行う	
	第27回	計画に沿いプレ実施・評価・修正を行う。学生、教員が参加し意見交換をする	
	第28回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する	
	第29回	修正された計画案を完成させる	
	第30回	本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する	
	（フィールドワーク事例） a. 災害発生時の場（救護所・病院・避難所・福祉避難所・災害対策本部・行政）などにおける災害看護の実際と課題 b. 災害発生後の被災地域・仮設住宅などにおける住民・地域の健康管理の実際と課題 c. 災害の備え・減災に関連する予防・教育の実際と課題：フィールドとして学校・地域・病院など		
評価方法	フィールドワーク発表・報告書：３０％　　模擬授業：２０％　　単位認定レポート：５０％		
テキスト参考書	テキスト　：　文献・図書を随時紹介します。		
	参 考 書　：　適宜指示します。		
履修上の注意点	1．フィールドワークの時期・期間・場は依頼先との調整や「災害発生」の状況により異なります。 2．ゼミ形式で展開されるので積極的な参加が必須要件です。		

科目名	看護管理学特論	科目番号	29	単　位	2	時　間	30
教員名	白鳥　さつき	科目種別	専門科目	開講年次	1年		
		必修・選択他	選択必修	開講学期	前期		

科目概要

看護管理の基本となる諸理論と看護管理プロセスを学修し、効果的な看護管理の在り方について探究する。

看護管理を実践する際に求められる組織管理と看護サービスの質管理に焦点を当て、近年の動向を探り、管理の在り方について探究する。組織を把握するためのデータをSWOTクロス分析、マッキンゼー7Sなどの枠組みを参考に収集し、組織分析を行う。分析結果をもとに、変革理論に基づいて多職種と連携して組織変革を行うための計画を立案する。これらを実践するための基盤となる「人材管理・育成」について看護管理者のメンター的な役割の在り方、キャリアマネジメントの在り方、さらに臨床における組織倫理について文献検討から追求する。

これらの学修課程において討議、ディスカッション、交渉、効果的なプレゼンテーションなどのスキルを養う。

目　標

1．国内外の文献検索から文献レビューを行い、自身の研究の位置づけを明確にできる。

2．看護管理学の基本となる諸理論から、組織分析・組織変革、看護サービスの質評価、人材育成とキャリアマネジメントについて自身の考えを述べることができる。

3．看護サービスの質評価について、ドナベディアンの３側面を用いて、データを収集し、評価・分析の手順を踏むことができる。

4．看護管理者として臨床倫理・組織倫理について考えを深め、自身の課題を述べることができる。

〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉

DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。

DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	ガイダンス, 効果的なプレゼンテーションについて	白鳥　さつき
第2回	組織目標達成のために部下や率いる組織員を動機づけるために必要なスキルについて検討する。 「ホーソン工場の実験」を読み、自己効力感、動機づけの効果について考えを深める。	白鳥　さつき
第3回	組織目標達成のために部下や率いる組織員を動機づけるために必要なスキルについて検討する。 組織目標達成のために必要な多職種連携の在り方や看護管理者の役割について追及する。	白鳥　さつき
第4回	人材育成とキャリアマネジメントにおいて「人をマネジメントする」意味について追及する。 Pam.Smithの「感情労働としての看護」を読み、看護師の感情労働について考えを深める	白鳥　さつき
第5回	人材育成とキャリアマネジメントにおいて「人をマネジメントする」意味について追及する。 ジョアン・アシュレイの論文「看護の力・女性の力」を読み、看護師の社会的地位、人道的医療システムの在り方について考えを深める。	白鳥　さつき
第6回	人材管理、キャリアマネジメントの在り方、組織構成員を動機づける意味についてまとめ、プレゼンテーショ	白鳥　さつき
第7回	各自が自身のテーマに関連した論文を選出し、テーマを追求する意義と看護サービスの質管理への貢献を検討	白鳥　さつき
第8回	看護サービスの質管理　ドナベディアンの３側面の具体的データの収集と評価	白鳥　さつき
第9回	看護サービスの質管理　ドナベディアンの４側面の具体的データの収集と評価	白鳥　さつき
第10回	【プレゼンテーション】成果発表とディスカッション	白鳥　さつき
第11回	【演習】組織分析, 組織変革　SWOTクロス, マッキンゼー７S, クルトレビンの変革理論	白鳥　さつき
第12回	【演習】組織分析, 組織変革　SWOTクロス, マッキンゼー７S, クルトレビンの変革理論	白鳥　さつき
第13回	【プレゼンテーション】成果発表とディスカッション	白鳥　さつき
第14回	看護管理者における臨床倫理、組織倫理について事例を出し合い検討することで考えを深める。	白鳥　さつき
第15回	まとめ	白鳥　さつき

評価方法

討議への参加度 30%　プレゼンテーションの内容 30%　文献検討の内容 20%　課題レポートの内容 20%

テキスト参考書

テキスト　1. Pam,Smith/武井麻子監訳：感情労働としての看護、ユミル出版
2. ジョアン・アシュレイ/日野原重明監訳：看護の力　女性の力、日本看護協会出版会

参考書　1. 秋山知弥編集(2019). 看護管理学習テキスト第3版第2巻、看護サービスの質管理、日本看護協会出版会.
2. Patricia S. Yoder-Wise(2020). Leading and Managing in Nursing, 7th Edition, Mosby.
3. Bessie L. Marquis(2020). Leadership Roles and Management Functions in Nursing: Theory and Application, 10th Edition, LWW; 10th edition.

履修上の注意点

授業はゼミ形式で行う。

科目名	看護管理学演習	科目番号	30	単　位	4	時　間	60
教員名	白鳥　さつき	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では、看護管理学特論の学修内容をベースとして各自が実践してきた領域の臨床実践および教育上の課題を追求し、問題の所在を明らかにするための文献検討およびフィールドワーク、事例分析を行う。 研究計画書を作成し、研究課題 Research Questionを明確にするためには、既存の研究に精通することが重要である。 それぞれのテーマについて、フィールドワークによる成果と文献クリティークによって課題と方法論を検討する。 さらに、既習の理論を応用して、各自の抱える看護管理・看護教育上の課題を分析し、課題を追求するための基礎資料を作成する。
目　標	1．看護管理・看護教育における現代の課題を追求し、説明できる。 2．フィールドワーク、事例検討を通して各自の課題を追求しテーマを明確にできる。 3. フィールドワーク、事例検討を通して得た成果の発表と授業案を作成し模擬授業等を実施することができる。 4．看護管理における課題について既習の理論を活用して、 適切な研究方法を選択し、計画書案を作成できる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	看護管理学研究の意義と方法の追求について文献検討、事例分析、フィールドワークについてガイダンスを行い、スケジュールを立てる。	白鳥　さつき
	第2回	演習課題の明確化 自身の経験と文献検討から課題を追求し、焦点化する。フィールドワークの具体的な計画を検討する。	白鳥　さつき
	第3回	演習課題の明確化 自身の経験と文献検討から課題を追求し、焦点化する。フィールドワークの具体的な計画を検討する。	白鳥　さつき
	第4回	自己のフィールドワーク課題の明確化 フィールドワークの領域（内容）を決定し、目的、方法について計画書を作成する。	白鳥　さつき
	第5回	自己のフィールドワーク課題の明確化 フィールドワークの領域（内容）を決定し、目的、方法について計画書を作成する。	白鳥　さつき
	第6回	作成したフィールドワーク計画書の発表　ディスカッション、評価と修正	白鳥　さつき
	第7回	作成したフィールドワーク計画書の発表　ディスカッション、評価と修正	白鳥　さつき
	第8回	施設への公文書の発行。施設責任者と連絡を取り、具体的な説明をするためのアポイントを取る。	白鳥　さつき
	第9回	施設責任者への具体的交渉に入る（直接、施設に伺って許可を得るための手続きを取る）。	白鳥　さつき
	第10回	施設責任者への具体的交渉に入る（直接、施設に伺って許可を得るための手続きを取る）。	白鳥　さつき
	第11回	フィールドワークを実践する（1回）。実践のための調整、調査のための準備を行う。	白鳥　さつき
	第12回	フィールドワークを実践する（2回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
	第13回	フィールドワークを実践する（3回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
	第14回	フィールドワークを実践する（4回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
	第15回	フィールドワークを実践する（5回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
	第16回	フィールドワークを実践する（6回）。実践への参画または非参与観察、インタビューなどデータ収集	白鳥　さつき
	第17回	フィールドワーク事後整理と報告書作成	白鳥　さつき

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内容	第18回	中間報告会　各自のフィールドワークの成果と自身の研究テーマについて発表し、ディスカッションする。 フィールドワークへの課題達成について必要時計画修正を行う。	白鳥　さつき
	第19回	中間報告会　各自のフィールドワークの成果と自身の研究テーマについて発表し、ディスカッションする。 フィールドワークへの課題達成について必要時計画修正を行う。	白鳥　さつき
	第20回	フィールドワークにおける補足、実践およびデータ収集、聞き取り調査など	白鳥　さつき
	第21回	フィールドワークにおける補足、実践およびデータ収集、聞き取り調査など	白鳥　さつき
	第22回	フィールドワークの成果をまとめ、施設へのフィードバックのためのプレゼンテーションの準備	白鳥　さつき
	第23回	フィールドワークの成果をまとめ、施設へのフィードバックのためのプレゼンテーションの準備	白鳥　さつき
	第24回	各施設で成果発表を行い、評価を受ける	白鳥　さつき
	第25回	フィールドワークのテーマに関連した内容から、教育能力を涵養するために模擬授業・保健指導・現任教育等の課題の検討・決定	白鳥　さつき
	第26回	計画案の資料・媒体の準備を行う。	白鳥　さつき
	第27回	計画案に沿ってプレ実施を行う。実施後修正を行う。	白鳥　さつき
	第28回	計画案に沿って実施する。学生、教員が参加し意見交換をする。	白鳥　さつき
	第29回	実施した内容の改善点や学びと課題を整理する。	白鳥　さつき
	第30回	本講における取り組みを振り返り、研究能力・教育能力・実践能力に資する能力の獲得について考察する	白鳥　さつき
	フィールドワークの検討（以下を参考に自身のテーマにあった方法を文献検討を重ねて選択する） a. 看護管理者の業務への参画と一部の実践またはシャドーイング、非参与観察などからマネジメントの在り方を学び、課題を明確にする。 b. 看護管理者会議の非参与観察から組織における看護部の位置づけについてアセスメントし、課題を追求する。 c. 看護管理業務の非参与観察からドナベディアンの医療の質評価3側面の「構造」「結果」について評価し、アセスメントする。 d. リーダー業務への一部参画、実践、シャドーイング、非参与観察などから臨床における看護サービスの質管理についてアセスメントし、課題を追求する。 e. リーダー業務への一部参画、実践、シャドーイング、非参与観察などを通して臨床倫理についてアセスメントし、課題を追求する。 f. 多職種カンファレンスに参加し、多職種連携の在り方を検討し、課題について明確化する。 g. 院内研修に参画し（一部を担当するなど）、継続教育、卒後教育の在り方について検討する。 h. 医療安全室の業務の非参与観察により、コンフリクトマネジメント、リスクマネジメントと看護サービスの質管理についてアセスメントする。		
評価方法	自己の課題追求の程度(40%) 課題分析(20%) 課題レポートとプレゼンテーションの完成度(40%)		
テキスト，参考書.	1．ナンシー・バーンズ他／黒田裕子訳(2015). バーンズ&グローブ看護研究入門、第7版、エルゼビアジャパン. 2．岩淵千明(2000). あなたもできるデータの処理と解析、福村出版. 3．APA(アメリカ心理学会)／前田樹海他訳(2011). 論文作成マニュアル、医学書院. 4．日本看護科学学会誌、日本看護管理学会誌		
履修上の注意点	研究方法や論文作成マニュアルなど十分に読み込んでおくこと。		

科目名	看護教育学特論	科目番号	31	単　位	2	時　間	30
教員名	平賀　元美	科目種別	専門科目	開講年次	1年		
		必修・選択他	選択必修	開講学期	前期		

科目概要	本科目は、看護学教育において、保健師、助産師、看護師の資格取得までの看護基礎教育と卒後教育、その後の継続教育、さらには、看護職者に必要な生涯学習の現状と考え方を理解するものである。社会情勢に基づく看護職の育成のニーズは、保健師助産師看護師法、学校養成所指定規則と密接に関わる。審議会や検討会といった意見の集約である教育に関する報告書やガイドラインなどを読む機会を提供し、看護学教育への影響について考える。 本科目では、看護学教育において、教育的役割を果たすための基盤となる知識の獲得を目指す。特に、看護基礎教育のカリキュラム作成、カリキュラム評価の考え方を理解する。これらによって看護学教育の本質の理解を促し、看護学教育演習に臨むための基盤を作る。
目　標	1．看護学教育における看護基礎教育、卒後教育、継続教育の位置づけと現状を理解し、課題を見出す。 2．看護基礎教育におけるカリキュラム作成及びカリキュラム評価の考え方を理解する。 3．看護学教育の現状と課題を踏まえて、自らの課題を見出す。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	ガイダンス、看護学教育の位置づけと意義	平賀　元美
第2回	医療の動向と看護基礎教育の現状	平賀　元美
第3回	卒後教育、継続教育の現状と課題	平賀　元美
第4回	社会のニーズと看護基礎教育の変遷	平賀　元美
第5回	看護基礎教育のカリキュラム作成とカリキュラム評価（カリキュラムとは）	平賀　元美
第6回	看護基礎教育のカリキュラム作成とカリキュラム評価（社会のニードと制約）	平賀　元美
第7回	看護基礎教育のカリキュラム作成とカリキュラム評価（教育のポリシーと教育課程）	平賀　元美
第8回	看護基礎教育のカリキュラム作成とカリキュラム評価（カリキュラム評価）	平賀　元美
第9回	看護学教育での課題追求(看護基礎教育での報告書、ガイドライン、カリキュラム）	平賀　元美
第10回	看護学教育での課題追求(継続教育での報告書、ガイドライン、カリキュラム）	平賀　元美
第11回	看護学教育(看護基礎教育）における文献のクリティーク及びディスカッション	平賀　元美
第12回	看護学教育(継続教育）における文献のクリティーク及びディスカッション	平賀　元美
第13回	関心ある課題についての文献検討	平賀　元美
第14回	関心ある課題についての文献検討のプレゼンテーション	平賀　元美
第15回	関心ある課題についてのレポート作成	平賀　元美

評価方法	討議への参加度 20%　プレゼンテーションの内容 30%　文献検討の内容 20%　課題レポートの内容 30%
テキスト, 参考書.	テキスト ： 特に指定しない。 参考書　1．杉森みど里、舟島なをみ；「看護教育学」医学書院. 2．近藤潤子、小山眞理子訳；「看護教育カリキュラムその作成過程」　医学書院. 3．グレッグ美鈴、池西悦子；「看護教育学」　南江堂. その他, 適宜紹介する。
履修上の注意点	授業はゼミ形式で行う。

科目名	看護教育学演習	科目番号	32	単　位	4	時　間	60
教員名	平賀　元美	科目種別	専門科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	選択必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目は、学校養成所における保健師、助産師、看護師の資格取得までの看護基礎教育の現場や、大学院、専門施設での卒後教育、病院施設での継続教育の現場など、課題追求に関わる現場に赴いて、教育の目的と現状を理解し、さらには模擬授業を行うことで教育を体験することを期待するものである。さらに、これらの体験を通して看護学教育に関わる研究的なテーマを見出し、追求するための基盤を作ることを課題とする。具体的には、文献検討およびフィールドワークを通して、テーマの精選を行い、研究計画書の作成に必要な現状把握と課題の見出しを行う。
目　標	1．文献検討をとおして研究課題の明確化を行う。 2．フィールドワークを通して、研究課題及び研究方法を明確化する。 3．フィールドワークを通して、看護を学ぶ対象及び看護の質向上への教育力向上を図る。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。 DP②: 科学的かつ体系的な幅広い視点から看護教育を捉え、看護を学ぶ対象への指導力を高め看護教育の質の向上に貢献できる能力を有する。 DP③: 専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	ガイダンス、フィールドワークの方法	平賀　元美
第2回	自己のテーマと文献検索	平賀　元美
第3回	自己のテーマと文献検索	平賀　元美
第4回	文献検討によるフィールドワークの内容と方法の検討	平賀　元美
第5回	文献検討によるフィールドワークの内容と方法の検討	平賀　元美
第6回	文献検討によるフィールドワークの内容と方法の検討	平賀　元美
第7回	フィールドワークの計画書立案	平賀　元美
第8回	フィールドワークの計画書立案	平賀　元美
第9回	フィールドワークの計画書について検討	平賀　元美
第10回	フィールドワークの計画書について検討	平賀　元美
第11回	フィールドワークの実施(施設オリエンテーション)	平賀　元美
第12回	フィールドワークの実施（訪問施設の教育現状の把握）	平賀　元美
第13回	フィールドワークの実施（訪問施設の教育現状の把握）	平賀　元美
第14回	フィールドワークの実施（担当授業の指導案作成）	平賀　元美
第15回	フィールドワークの実施(担当授業の指導案作成)	平賀　元美
第16回	フィールドワークの実施（担当授業の指導案作成）	平賀　元美
第17回	フィールドワークの実施（担当授業の指導案作成）	平賀　元美
第18回	フィールドワークの実施（担当以外の授業参観）	平賀　元美

授業計画・内　容	第19回	フィールドワークの実施（担当以外の授業参観）	平賀　元美
	第20回	フィールドワークの実施（担当授業の指導案修正）	平賀　元美
	第21回	フィールドワークの実施（担当授業の指導案修正）	平賀　元美
	第22回	フィールドワークの実施(担当授業の実施）	平賀　元美
	第23回	フィールドワークの実施(担当授業の評価）	平賀　元美
	第24回	フィールドワークの実施（施設での振り返り）	平賀　元美
	第25回	フィールドワークの報告書作成	平賀　元美
	第26回	フィールドワークの報告書作成	平賀　元美
	第27回	フィールドワークの報告書作成	平賀　元美
	第28回	報告書に基づく、研究課題の見出し	平賀　元美
	第29回	報告書に基づく、研究課題の見出し	平賀　元美
	第30回	報告書に基づく、研究課題の見出し	平賀　元美
	(フィールドワークの例) a, 専門学校、看護大学などの卒業校でフィールドワークを行って、実際の学生に授業を実施する。 b. 専門学校、看護大学などの卒業校でフィールドワークを行って、学生へのインタビューやアンケートを実施する。 c. 病院の新人教育やラダー教育の現場に関わって、教育計画の立案や演習等を実施する。 d. 病院内で行われている看護学実習の指導にかかわって、教育計画の立案や実習指導を実施する。 e. 病院の看護職員のシャドーイングを行い、インタビューを行ってon the job treaningの現状把握を行う。		
評価方法	フィールドワークおよび模擬授業(60%)		
	課題分析(20%)		
	課題レポートとプレゼンテーションの完成度(20%)		
テキスト,参考書.	テキスト ： 特に指定しない。		
	参考書　　1．杉森みど里,舟島なをみ；「看護教育学」医学書院 2．グレッグ美鈴、池西悦子；「看護教育学」　南江堂 その他, 適宜紹介する。		
履修上の注意点	フィールドワークは、学生主体で行う。		

科目名	特別研究Ⅰ	科目番号	33	単　位	2	時　間	30
教員名	白鳥さつき・金城やす子・永井邦芳・西出りつ子・五十里明・平賀元美・石井健一朗・林智子・宮本恵子・工藤紀子・出原弥和	科目種別	研究指導科目	開講年次		1年	
		必修・選択他	必修	開講学期		後期	

科目概要	本科目では専攻する専門看護学における各自の研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。修士論文作成にあたり、研究論文を作成する基礎となる力を養う。研究のプロセスを理解し、自らがテーマにフォーカスし、研究としての枠組みを明確にする。さらに、研究疑問、研究目的を明らかにするためにふさわしい研究方法を決定し、研究対象の問いをもって明確にし、研究対象にどのようなプロセスでたどり着くのかの道筋をつくる。倫理的な配慮を行いながら研究計画書作成に繋げる。
目　標	1. 文献レビュー・クリティークを通して研究テーマ・研究目的を設定できる。 2. 適切な研究デザインを設定できる。 3. 研究倫理に基づく研究方法が提示できる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	研究課題の明確化：講義・演習における討議を通し、動機と思考中の研究課題を言語化し説明する。	白鳥　さつき 金城　やす子 永井　邦芳 西出りつ子 五十里　明 平賀　元美 石井 健一朗 林　智子 宮本　恵子 工藤　紀子 出原　弥和
第2回	研究課題の明確化：先行文献をもとに思考・検討中の研究課題を説明する。	
第3回	研究課題の明確化：研究を進めるための文献をさらに提示し、論理的、客観性を高める。	
第4回	研究課題の明確化：思考・検討中の研究課題について明らかにされているものと、そうでないものについて、検討する。	
第5回	研究課題の明確化：思考・検討中の研究課題について検討した内容を図式化して説明する。	
第6回	研究課題の明確化：思考・検討中の研究課題についてキーワードを用い、国内外の文献検討を行う。	
第7回	研究課題の明確化：キーワード、或いはワード数によっては、更に既存の論文があることを確認する。	
第8回	研究課題の明確化：日々進歩している研究論文の確認を行う。	
第9回	研究課題の明確化：思考・検討中の研究課題について国内外の文献調査を行い、意義のある研究課題かについて検討する。	
第10回	研究課題の明確化：多くの研究論文資料から研究課題について、論理的に研究の意義を説明する。	
第11回	研究計画書の作成：対象（者）を決定し、研究の持続性、再現性が可能なのかを検討する。	
第12回	研究計画書の作成：研究課題に沿った研究方法の最適性の検討を行う。	
第13回	研究計画書の作成：研究協力者（研究参加者）への倫理的配慮の検討を行う。	
第14回	研究計画書の作成：研究結果の説得性を増すために論理的な仮説の作成、推論を検討し文章化する。	
第15回	研究計画書の作成 ：調査施設（個人）の確保や調整を行い、検討した文献を活用した研究計画書を作成し、討議を通して研究計画書を整備する。	

評価方法	研究計画書70%　プレゼンテーション 30%
テキスト，参考書.	1．看護研究　原理と方法　D. F. ポーリット & C. T. ベック著 近藤順子訳　医学書院 2．APA論文作成マニュアル　アメリカ心理学会(APA)　医学書院
履修上の注意点	授業をゼミ形式で行うため、主体的に臨むこと。

科目名	特別研究Ⅱ	科目番号	34	単　位	6	時　間	90
教員名	白鳥さつき・金城やす子・永井邦芳・西出りつ子・五十里明・平賀元美・石井健一朗・林智子・宮本恵子・工藤紀子・出原弥和	科目種別	研究指導科目	開講年次		2年	
		必修・選択他	必修	開講学期		通年	

科目概要	本科目では特別研究Ⅰに引き続き、専攻する専門看護学における各自の研究課題を明確にし研究論文を完成する力を養う。研究倫理審査委員会における倫理審査を経て研究計画書に基づいて調査・実験を推進する力を培うとともに、結果を分析・考察する力を身につけ、看護に貢献しうる論文を完成させる。論文審査に対する指摘事項に対する対応力や発表する力、質疑応答力を培い論文の課題や発展的な課題を明確にし、さらに研究を発信する力を身につける。
目　標	1．研究倫理審査委員会からの意見を真摯に受け止め対応できる。 2．研究計画に基づきデータ収集、データ分析ができる。 3．客観的視点で考察できる。 4．論理的に研究論文を記述できる。 5．論文審査における質疑に研究の取り組みを踏まえて答えることができる。 6．行った研究の課題を確認し、今後に向けた展望について討議できる。 〈到達目標とディプロマ･ポリシーとの関連〉 DP①: 看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点で捉え、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。

授業計画・内　容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	研究計画書の倫理審査：研究計画書を研究倫理審査委員会に申請するための書類の作成と提出をする。	白鳥　さつき 金城　やす子 永井　邦芳 西出りつ子 五十里　明 平賀　元美 石井 健一朗 林　智子 宮本　恵子 工藤　紀子 出原　弥和
第2回	研究計画書の倫理審査：研究計画書を研究倫理審査委員会に申請し、承認を得るために必要な内容について検討し、加筆修正を行う。	
第3回	研究計画書の倫理審査：研究計画書を研究倫理審査委員会に申請し、承認を得る。研究倫理審査委員会から説明を求められた場合には、論理的、倫理的に説明する。	
第4回	データ収集前の調整：研究課題に対する実践にあたり調査施設（個人）との最終確認を行う。	
第5回	データ収集：研究協力者（参加者）への挨拶を行い、研究計画書の調査内容、研究倫理に基づきフィールドでの調査を行う。データ収集の課題を確認する。	
第6回	データ収集：前日のデータ収集の課題を確認する。 研究協力者（参加者）への挨拶を行い、研究計画書の調査内容、研究倫理に基づきフィールドでの調査を行う。本日のデータ収集の課題を確認する。	
第7回	データ収集：前日のデータ収集の課題を確認する。 研究協力者（参加者）への挨拶を行い、研究計画書の調査内容、研究倫理に基づきフィールドでの調査を行う。本日のデータ収集の課題と調査内容修正の必要性を確認する。	
第8回	データ収集：前日のデータ収集の課題を確認する。 研究協力者（参加者）への挨拶を行い、研究計画書の調査内容、研究倫理に基づきフィールドでの調査を行う。本日のデータ収集の課題を確認する。	
第9回	データ収集：前日のデータ収集の課題を確認する。 研究協力者（参加者）への挨拶を行い、研究計画書の調査内容、研究倫理に基づきフィールドでの調査を行う。本日のデータ収集の課題を確認する。	
第10回	データ収集：前日のデータ収集の課題を確認する。 研究協力者（参加者）への挨拶を行い、研究計画書の調査内容、研究倫理に基づきフィールドでの調査を行う。本日のデータ収集の課題を確認する。	
第11回	データ収集：前日のデータ収集の課題を確認する。 研究協力者（参加者）への挨拶を行い、研究計画書の調査内容、研究倫理に基づきフィールドでの調査を行う。本日のデータ収集の課題を確認する。	

	授業計画・内容		担当教員
授業計画・内　容	第12回	データ収集：前日のデータ収集の課題を確認する。 研究協力者（参加者）への挨拶を行い、研究計画書の調査内容、研究倫理に基づきフィールドでの調査を行う。本日のデータ収集の課題を確認する。	白鳥　さつき 金城　やす子 永井　邦芳 西出りつ子 五十里　　明 平賀　元美 石井 健一朗 林　智子 宮本　恵子 工藤　紀子 出原　弥和
	第13回	データ収集：前日のデータ収集の課題を確認する。 研究協力者（参加者）への挨拶を行い、研究計画書の調査内容、研究倫理に基づきフィールドでの調査を行う。本日のデータ収集の課題を確認する。	
	第14回	データ収集：前日のデータ収集の課題を確認する。 研究協力者（参加者）への挨拶を行い、研究計画書の調査内容、研究倫理に基づきフィールドでの調査を行う。本日のデータ収集の課題を確認する。 特に統計処理するための必要最低限の研究参加者が見込まれるかの確認をする。	
	第15回	データ収集：前日のデータ収集の課題を確認する。 研究協力者（参加者）への挨拶を行い、研究計画書の調査内容、研究倫理に基づきフィールドでの調査を行う。本日のデータ収集の課題を確認する。	
	第16回	データ収集：前日のデータ収集の課題を確認する。 研究協力者（参加者）への挨拶を行い、研究計画書の調査内容、研究倫理に基づきフィールドでの調査を行う。本日のデータ収集の課題を確認する。	
	第17回	データ収集：前日のデータ収集の課題を確認する。 研究協力者（参加者）への挨拶を行い、研究計画書の調査内容、研究倫理に基づきフィールドでの調査を行う。本日のデータ収集の課題を確認する。	
	第18回	データ分析・考察：データ収集で得られたデータを個人が特定されないよう数量化して入力する。	
	第19回	データ分析・考察：データ収集で得られたデータの作成を行う。	
	第20回	データ分析・考察：得られたデータの単純集計、クロス集計などの分析を行う。	
	第21回	データ分析・考察：得られたデータの分析・考察から対象（者）の特徴を検討する。	
	第22回	データ分析・考察：得られたデータの分析・考察から研究課題明確化するための統計解析の選択について検討する。	
	第23回	データ分析・考察：得られたデータの分析・考察から研究課題を明確化するための統計解析を選択する。	
	第24回	データ分析・考察：得られたデータの分析から仮説が支持されたか、また支持されなかった場合には理由を考察する。	
	第25回	論文の作成：序論は問題意識をもった動機から、この研究の必要性を明確にするための検討をする。	
	第26回	論文の作成：序論は問題意識をもった動機から、この研究の必要性を明確にするための文章化をする。	
	第27回	論文の作成：調査対象者を整理し、文章化する。	
	第28回	論文の作成：調査方法については、具体的内容、数値を文章化する。	
	第29回	論文の作成：分析方法について、選んだ方法の有効性の確認を明確化する。	
	第30回	論文の作成：倫理的配慮について、具体的な説明を文章化する。倫理委員会の承認番号を明記する。	
	第31回	論文の作成：結果は、単純集計、クロス集計した結果を表、図で示し説明する。	
	第32回	論文の作成：結果は、単純集計、クロス集計だけでなく、独立変数、従属変数を必要に応じ選択した多変量解析などの結果を表で示す。	
	第33回	論文の作成：結果は、単純集計、クロス集計だけでなく、独立変数、従属変数を必要に応じ選択した多変量解析などの結果を表で示し説明する。	
	第34回	論文の作成：考察は、研究課題の仮説の証明に必要と考えられる内容を検討する。	
	第35回	論文の作成：考察は、研究課題に沿って順序性を考え説明する。内容が分かるように項目をつける。	
	第36回	論文の作成：研究課題と得られた結果は、適切だったかを確認する。	
	第37回	論文の作成：結論は、研究課題に沿って仮説は支持されたかを明確化する。	
	第38回	論文の作成：修士論文作成様式に則り論文を作成する。	
	第39回	論文発表準備：論文発表会に向け準備し、内容等についての討議を通し発表内容を整備する。	

	授業計画・内容		担当教員
授業計画・内　容	第40回	論文発表準備：発表会の資料の適切性について確認する。	白 鳥　さつき 金 城　やす子 永 井　邦 芳 西出りつ子 五十里　　明 平賀　元美 石 井 健一朗 林　智子 宮本　恵子 工藤　紀子 出原　弥和
	第41回	論文発表準備と発表：内容等についての討議を通し、発表方法の適切性について確認する。	
	第42回	論文審査準備：論文内容についてプレゼンテーションし、質疑内容の予測をすることで、研究課題、研究命題を明確にする。	
	第43回	論文審査準備：論文内容についてプレゼンテーションし、質疑に対応し論文の課題等を明確にする。	
	第44回	論文の修正：論文審査における公表に基づき、検討した内容で論文を加筆修正する。	
	第45回	論文の提出：論文審査における公表に基づき論文を完成させる（提出する）。	
評価方法	修士論文70%　　プレゼンテーション 30%		
テキスト 参 考 書	1．看護研究　原理と方法　D. F. ポーリット & C. T. ベック著 近藤順子訳　医学書院 2．APA論文作成マニュアル　アメリカ心理学会(APA)　医学書院		
履修上の注意点	1．授業をゼミ形式で行うため、主体的に臨むこと。 2．第1回－第45回の講義時間において、順序を踏みながら進めていく。なお、研究指導体制は主指導教員に加えて副指導教員で行う。		

科目名	課題研究Ⅰ	科目番号	35	単　位	2	時　間	30
教員名	西出りつ子，工藤 紀子	科目種別	講義	開講年次		1年	
				開講学期		後期	

科目概要	本科目では、専攻する公衆衛生看護学における各自の研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。課題論文作成にあたり、その基礎となる力を身につける。研究プロセスを理解し、地域住民の健康・生活状況・ニーズと地域保健医療福祉の現状および先行研究からフォーカスすべきテーマを探り、地域にある研究疑問と自らの研究課題を明示する。研究目的を設定し、それを明らかにするための研究枠組みを明確にする。さらに、目的に合わせた適切な分析方法を決定し、科学的根拠を示すプロセスと地域住民に研究成果が還元される道筋を明確化する。倫理的な配慮を行いながら研究計画書作成につなげる。
目　標	1）文献レビュー・クリティークを通して研究テーマを絞り、研究疑問を説明できる。 2）研究目的の明確化と実行可能な研究デザインおよび研究対象の設定ができる。 3）研究目的を明らかにでき、かつ研究倫理に基づく研究方法を提示できる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-1：大学院レベルの研究力を基盤とする「科学的根拠に基づく健康課題の分析能力」を有する。 DP①研究能力：看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点でとらえ、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	研究課題の明確化：授業における討議を通し、研究動機と思考中の研究テーマを言語化する	西出りつ子 工藤 紀子
	第2回	研究課題の明確化：先行研究をもとに考えた研究課題について説明する	
	第3回	研究課題の明確化：研究課題の明確化に必要な文献を提示し、論理性と客観性を高める	
	第4回	研究課題の明確化：研究課題に関し、明らかになっていることとなっていないことを確認する	
	第5回	研究課題の明確化：研究課題に関する文献検討の内容を図式化して説明する	
	第6回	研究課題の明確化：キーワードによる文献検索とその結果の検討を行う	
	第7回	研究課題の明確化：意図をもってキーワードやその検索式を変え、先行研究の確認を進める	
	第8回	研究課題の明確化：国内外の研究論文公表の年次推移を確認し、社会の動向と関連させて考える	
	第9回	研究課題の明確化：国内外の文献検討から、研究課題に取り組む意義について検討する	
	第10回	研究課題の明確化：取り組む研究課題の仮説と意義について、論理的に説明する	
	第11回	研究計画書の作成：研究対象を決定し、研究の再現性について検討する	
	第12回	研究計画書の作成：研究目的を明らかにする適切な研究方法を検討する	
	第13回	研究計画書の作成：研究参加者への倫理的配慮を検討、オプトアウトのための準備を進める	
	第14回	研究計画書の作成：研究の仮説と推論を論理的に文章化する	
	第15回	研究計画書の作成：調査協力組織等を検討、研究計画書に文献検討結果を反映させて充実させる	

評価方法	研究計画書（70 %）およびプレゼンテーションと質疑応答（30 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	D.F.ポーリット&C.T.ベック著，近藤順子監訳：看護研究 原理と方法，第2版，医学書院，2010．ISBN：978-4-260-00526-5 アメリカ心理学会(APA)著，前田樹海，江藤裕之訳：APA論文作成マニュアル 第3版，医学書院，2023．ISBN：978-4-260-04812-5
履修上の注意点	1回の授業（90分）に対し、事前と事後の学習各90分を基本とする。事前学習として、授業計画・内容の予習をして資料を作成し、能動的学習を進めて授業に臨む。授業後に、次回授業内容を意識しながら検討内容に関する学習を深める。ゼミナール形式の授業のため、発表・発言・質問など主体的に学ぶ姿勢をもつ。

科目名	課題研究Ⅱ	科目番号	36	単　位	4	時　間	60
教員名	西出りつ子，工藤 紀子	科目種別	演習	開講年次		2年	
				開講学期		通年	

科目概要	本科目では、専攻する公衆衛生看護学における各自の研究課題について、課題研究Ⅰの研究計画書をもとに研究倫理審査の受審準備を進める。許可を得た後、研究計画書に基づいて倫理的配慮を行い、地域の健康データを借り受ける手続きをとる。手続き完了後に、分析を開始し、結果を解釈して考察する力を身につけ、看護に貢献し得る論文を完成させる。論文審査における指摘事項への対応力や発表する力、質疑応答力を培い、論文の課題や発展的な課題を明確にし、さらに科学的根拠として発信する力を身につける。
目　標	1）研究倫理審査委員会からの意見を真摯に受け止め、対応できる。 2）研究計画書に基づき、データの収集と分析ができる。 3）研究結果を客観的視点をもって考察できる。 4）実施した研究を論文として論理的に記述できる。 5）論文審査の質疑において、研究結果と文献検討をもとに答えることができる。 6）研究の限界と今後に向けた看護の展望について説明できる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-1：大学院レベルの研究力を基盤とする「科学的根拠に基づく健康課題の分析能力」を有する。 DP①研究能力：看護研究の理論的基盤と方法論を身につけるとともに、看護の現象を多角的な視点でとらえ、様々な課題解決や看護実践のための研究を行うことで看護学の発展に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	研究計画の倫理審査:研究倫理審査委員会への申請書類(オプトアウト書類を含む)を検討する	西出りつ子 工藤 紀子
	第2回	研究計画の倫理審査:研究倫理審査申請書類を提出し、委員会からの意見に対応して承認を得る	
	第3回	データ収集:オプトアウト手続きを取り、その期間終了後に研究フィールドからデータを受け取る	
	第4回	データ分析:量的データのクリーニングを行う	
	第5回	データ分析:単純集計と二値の分析結果から論文に必要な図表を作成する(1)	
	第6回	データ分析:単純集計と二値の分析結果から論文に必要な図表を作成する(2)	
	第7回	データ分析:多変量解析の結果から表を作成する(1)	
	第8回	データ分析:多変量解析の結果から表を作成する(2)	
	第9回	データ分析・考察:分析対象の特徴の検討と解析結果の解釈を行う	
	第10回	データ分析・考察:仮説の支持の検討と先行研究との比較を行う	
	第11回	論文の作成:序論と文献検討に研究の必要性を論理的に明示して文献を整理する(1)	
	第12回	論文の作成:序論と文献検討に研究の必要性を論理的に明示して文献を整理する(2)	
	第13回	論文の作成:研究目的と研究方法について、論文として適切な表記を行う(1)	
	第14回	論文の作成:研究目的と研究方法について、論文として適切な表記を行う(2)	
	第15回	論文の作成:作成した図表を用いて結果を記述する(1)	
	第16回	論文の作成:作成した図表を用いて結果を記述する(2)	
	第17回	論文の作成:研究目的と仮説をもとに研究結果の解釈内容および先行研究との比較を記述する(1)	
	第18回	論文の作成:研究目的と仮説をもとに研究結果の解釈内容および先行研究との比較を記述する(2)	
	第19回	論文の作成:研究の限界と今後に向けた看護の展望について検討し、記述する	
	第20回	論文の作成:結論を記述し、論文の一貫性を確認する(題目、目的、方法、結果、考察)(1)	

	回数	授業計画・内容	担当教員
授業計画・内容	第21回	論文の作成:結論を記述し、論文の一貫性を確認する(題目、目的、方法、結果、考察)(2)	西出りつ子 工藤 紀子
	第22回	論文の作成:謝辞と利益相反を記述し、文献の確認を行う(1)	
	第23回	論文の作成:謝辞と利益相反を記述し、文献の確認を行う(2)	
	第24回	論文の作成:学位論文執筆要領に沿っているか全文を再確認する	
	第25回	論文発表準備:学位論文提出書類の確認を行い、一式を提出する	
	第26回	論文発表準備:論文発表会の準備を進める(1)	
	第27回	論文発表準備:論文発表会の準備を進める(2)	
	第28回	論文審査準備:発表と質疑応答の準備と練習を行う(1)	
	第29回	論文審査準備:発表と質疑応答の準備と練習を行う(2)	
	第30回	論文の修正・提出:	
評価方法	修士論文 (70 %) およびプレゼンテーションと質疑応答 (30 %) により、総合的に評価する。		
テキスト、参考書	D.F.ポーリット&C.T.ベック著, 近藤順子監訳:看護研究 原理と方法, 第2版, 医学書院, 2010. ISBN:978-4-260-00526-5		
	アメリカ心理学会(APA)著, 前田樹海, 江藤裕之訳:APA論文作成マニュアル 第3版, 医学書院, 2023. ISBN:978-4-260-04812-5		
履修上の注意点	1回の授業(90分)に対し、事前と事後の学習各90分を基本とする。事前学習として、授業計画・内容の予習をして資料を作成し、能動的学習を進めて授業に臨む。授業後に、次回授業内容を意識しながら検討内容に関する学習を深める。ゼミナール形式の授業のため、発表・発言・質問など主体的に学ぶ姿勢をもつ。 なお、研究指導体制として、主指導教員に加えて副指導教員をおく。		

科目名	公衆衛生看護学特論	科目番号	37	単　位	2	時　間	30
教員名	西出りつ子	科目種別	講義	開講年次		1年	
				開講学期		前期	

科目概要	本科目では、公衆衛生看護学の原点として、地域に暮らす個人と家族、集団、組織および地域を構成するあらゆる発達段階、あらゆる健康レベルにある人々を対象に、健康増進と疾病予防、健康レベルの主体的改善を目指す看護アプローチの基本的な考え方を学ぶ。まず、公衆衛生看護の理念と歴史、対象と活動の特性、基本となる理論や概念を理解し、地域や社会の動向と人々の生活と健康課題の変化について学修する。さらに、健康格差が生まれる社会的な要因とそれを解消または軽減する方策を概観し、公衆衛生看護のあり方について学術的に考える力を修得する。
目　標	1）公衆衛生看護の理念と歴史、対象と活動の特性について説明できる。 2）公衆衛生看護に活用できる理論やモデル、概念について説明できる。 3）地域社会の動向と、それに伴う人々の生活と健康課題の変化について説明できる。 4）健康格差が生まれる社会的な要因について、具体的に説明できる。 5）公衆衛生看護のあり方について、学術的に考えることができる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-1：大学院レベルの研究力を基盤とする「科学的根拠に基づく健康課題の分析能力」を有する。 保健師DP-2：大学院レベルの研究力を基盤とする「地域資源を活用した健康政策の立案能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	公衆衛生と公衆衛生看護学，健康の定義と概念	西出りつ子
	第2回	公衆衛生看護の歴史（1）	西出りつ子
	第3回	公衆衛生看護の歴史（2）	西出りつ子
	第4回	公衆衛生看護の理念と定義，基本となる概念	西出りつ子
	第5回	公衆衛生看護の対象と公衆衛生看護活動，保健師の使命	西出りつ子
	第6回	世界における新公衆衛生運動	西出りつ子
	第7回	プライマリ・ヘルス・ケア	西出りつ子
	第8回	ヘルス・プロモーション	西出りつ子
	第9回	世界の目標指向型健康推進施策	西出りつ子
	第10回	社会の動向と人々の生活・環境・健康課題の変化	西出りつ子
	第11回	健康格差と社会的決定要因，格差解消の方策と公衆衛生看護活動	西出りつ子
	第12回	公衆衛生看護に活用できる理論とモデル	西出りつ子
	第13回	海外における地域保健，多文化共生と公衆衛生看護活動	西出りつ子
	第14回	地域包括ケアと地域の連携システム	西出りつ子
	第15回	保健師として求められる基本的な資質と能力，公衆衛生看護と倫理	西出りつ子

評価方法	理解度確認（70 %）および提出課題（20 %）、講義中の発問への応答状況（10 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	村嶋幸代，岸恵美子編集:保健学講座1 公衆衛生看護学概論，第1版，メヂカルフレンド社，2022. ISBN:978-4-8392-2188-1 野尻雅美監修:改訂第2版 最新保健学 公衆衛生･疫学，真興交易(株)医書出版部，2023. ISBN: 978-4-88003-259-7
履修上の注意点	1回の講義（90分）に対し、事前と事後の学習各90分を基本とする。事前学習として、授業計画・内容を手掛かりに、教科書等の書籍、学術雑誌、厚生労働省・WHO・関連学会ホームページなど、信頼できる情報を利用して能動的学習を進め、講義に臨む。講義内容を参考に事後学習を深める。なお、普段から保健師学生として、社会の動きに敏感となり、それらに伴う人々の生活や健康への影響、健康的な生活や人権をまもる政策・制度・地域資源のあり方について考える習慣をもつ。

科目名	公衆衛生看護支援技術特論	科目番号	38	単　位	2	時　間	30
教員名	西出りつ子，工藤 紀子	科目種別	講義	開講年次		1年	
				開講学期		前期	

科目概要	本科目では、公衆衛生看護、産業看護、学校看護における各保健活動を概観し、個人と家族への看護支援、地区への看護支援、住民組織への看護支援の各目的と技術、事業化・施策化の目的と展開技術、これらの基本的な実践プロセスを学修するための基礎的知識と技術活用の考え方を理解する。さらに、支援する対象の健康行動の特徴を理解し、適切な介入方法を選択して効果を上げる技術を提供する基盤を固める。まず、対象のライフステージ、健康レベル、行動変容段階に合わせて看護実践を展開するために、個人と家族の行動変容に関する理論とモデル、集団力学と集団への教育方法について学修する。（科目責任者：西出りつ子）
目　標	1）保健師が行う個人と家族、地区、住民組織への各支援と事業化・施策化の目的と方法をそれぞれ説明できる。 2）公衆衛生看護の実践プロセスを学修するための基礎的知識と技術活用の考え方について説明できる。 3）公衆衛生看護活動のための個人と家族の行動変容に関する理論とモデルの概略について説明できる。 4）公衆衛生看護活動のための集団力学と集団への教育方法の概略について説明できる。 5）保健師が行うコミュニティ支援の目的と方法を説明できる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-1：大学院レベルの研究力を基盤とする「科学的根拠に基づく健康課題の分析能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	地域看護の公衆衛生看護3分野，保健師の定義と公衆衛生看護の技術，保健師のコミュニティ支援	西出りつ子
第2回	公衆衛生看護活動の基本（1）：ライフステージと発達理論，基本的欲求と課題への支援	西出りつ子
第3回	公衆衛生看護活動の基本（2）：家族の定義と理解のための理論，家族を最小単位とする支援	西出りつ子
第4回	保健師の個別支援の技術（1）：対人支援の目的と特徴・プロセス，相談的対応技術	西出りつ子
第5回	保健師の個別支援の技術（2）：教育的対応技術と介入技術	西出りつ子
第6回	保健師の個別支援の技術（3）：ケース・マネジメント，個人と家族の意思決定支援	西出りつ子
第7回	健康教育の目的と定義，歴史的発展過程	工藤 紀子
第8回	健康行動理論・モデル（1）：個人レベル	工藤 紀子
第9回	健康行動理論・モデル（2）：個人間レベル，集団・コミュニティ・マルチレベル	工藤 紀子
第10回	健康行動理論・モデル（3）：グループ・ダイナミクスとグループの発達段階	工藤 紀子
第11回	コミュニティ支援の技術（1）：集団の特性と健康教育	工藤 紀子
第12回	コミュニティ支援の技術（2）：グループの発達段階と多職種による支援（1）	工藤 紀子
第13回	コミュニティ支援の技術（3）：グループの発達段階と多職種による支援（2）	工藤 紀子
第14回	コミュニティ支援の技術（4）：ヘルスケア・システムづくりと保健師の役割	西出りつ子
第15回	コミュニティ支援の技術（5）：事業化と事業評価，施策化と施策評価	西出りつ子

評価方法	理解度確認（70 %）および提出課題（20 %）、講義中の発問への応答状況（10 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	岸恵美子，平野かよ子，村嶋幸代編集：保健学講座2 公衆衛生看護支援技術，第1版，メヂカルフレンド社，2022. ISBN：978-4-8392-2189-8 尾島俊之，村山洋史編集：保健学講座4 疫学／保健統計，第1版，メヂカルフレンド社，2022. ISBN：978-4-8392-2191-1
履修上の注意点	1回の講義（90分）に対し、事前と事後の学習各90分を基本とする。事前学習として、授業計画・内容を手掛かりに、教科書等の書籍、学術雑誌、厚生労働省・WHO・関連学会ホームページなど、信頼できる情報を利用して能動的学習を進め、講義に臨む。講義内容を参考に事後学習を深める。なお、普段から保健師学生として、人々の生活習慣や行動変容に敏感となり、行動変容のきっかけや健康習慣継続の要因について考える習慣をもつ。

科目名	個人と家族の支援技術論	科目番号	39	単　位	2	時　間	30
教員名	西出りつ子，工藤 紀子，鯉淵乙登女	科目種別	演習	開講年次		1年	
				開講学期		前期（前半）	

科目概要	本科目では、個人と家族を対象の保健指導の特徴を理解し、家庭訪問、健康相談、健康手帳交付、健康診査時の問診や事後指導の場面を想定した事例をもとに個人と家族への公衆衛生看護過程の展開を行う。 看護支援に必要な解剖・生理、病態・ライフステージ別の知識を確認、フィジカルアセスメントを行う。さらに、地域特性と社会資源、経済背景の最新情報を得て、対象の健康課題解決能力の向上に向けた保健指導計画を立案、ロールプレイ（模擬指導実践）を行う。保健師役と住民役、観察者を体験し、顕在する健康問題を明確化する能力と解決に向けた支援能力、今後起こり得る健康課題に気づいて対応する能力を身につける。科学的根拠に基づく個人と家族への支援技術提供の模擬体験を重ね、その能力の基盤を培う。（科目責任者：西出りつ子）
目　標	1）個人とその家族に関する看護支援に必要な情報を収集し、整理できる。 2）専門知識と関連情報を用いて明確化した対象（個人と家族）の顕在する健康問題を科学的根拠を示しながら説明できる。 3）対象（個人と家族）に潜在する健康課題に気づき、科学的根拠を示しながら説明できる。 4）対象（個人と家族）の健康課題の解決能力向上を支援する保健指導計画を立案することができる。 5）保健指導計画に基づいた支援の模擬実践と対象（個人と家族）の反応に合わせた対応ができる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-1：大学院レベルの研究力を基盤とする「科学的根拠に基づく健康課題の分析能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	オリエンテーション，個人と家族を対象とする保健指導の概要	西出りつ子
	第2回	健康相談（1）：健康相談の場と対象の特性，事例の法的根拠と相談目的	西出りつ子
	第3回	健康相談（2）：成人・高齢者の事例	工藤紀子
	第4回	健康相談（3）：母子の事例	西出りつ子
	第5回	家庭訪問（1）：家庭訪問の場と対象の特徴，事例の法的根拠と訪問目的	鯉淵乙登女 西出つ子
	第6回	家庭訪問（2）：母子の事例	鯉淵乙登女 西出りつ子
	第7回	家庭訪問（3）：高齢者の事例	工藤紀子
	第8回	家庭訪問（4）：精神的健康レベルの低下事例	工藤紀子
	第9回	健康手帳の交付（1）：健康増進法に基づく健康手帳	工藤紀子
	第10回	健康手帳の交付（2）：母子保健法に基づく母子健康手帳	西出りつ子
	第11回	健康診査の問診（1）：特定健康診査	工藤紀子 西出りつ子
	第12回	健康診査の事後指導（1）：特定保健指導	工藤紀子 西出りつ子
	第13回	健康診査の問診（2）：1歳6か月児健康診査と3歳児健康診査	西出りつ子 工藤紀子
	第14回	健康診査の事後指導（2）：幼児健康診査の事後指導・継続フォロー	西出りつ子 工藤紀子
	第15回	個人と家族への支援者とソーシャル・サポート，保健師の役割と支援する姿勢	西出りつ子

評価方法	演習への取り組みと発表・模擬指導・提出書類の内容（80 %）、グループ・ディスカッションと質疑応答の内容・学習姿勢（20 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	岸恵美子，平野かよ子，村嶋幸代編集：保健学講座2 公衆衛生看護支援技術，第1版，メヂカルフレンド社，2022. ISBN：978-4-8392-2189-8
履修上の注意点	事例の看護過程の展開と模擬指導に必要な学習（解剖・生理、病態、ライフステージ別の知識など）と技術の確認・練習を能動的に進め、事前と事後の学習とする。これらの合計を1回の演習（90分）につき180分とする。

科目名	集団・組織・地域の支援技術論	科目番号	40	単　位	2	時　間	30
教員名	工藤紀子，西出りつ子	科目種別	演習	開講年次		1年	
				開講学期		前期（後半）	

科目概要	本科目では、集団・組織を含む地域の事例から、集団の発達段階に合わせた働きかけ、メンバー間の相互作用が好ましい方向に向かうよう、またメンバーが主体的に問題解決できるよう支援する方法を理論やモデルを用いて計画し、実践する。まず、地域特性と地域資源に関する情報を整理して健康課題を明確化し、支援計画を立案、ロールプレイにより実践する。対象集団への健康教育の企画と組織化の支援計画を立案、これらを模擬実践する。加えて、その活動が地域に及ぼす影響と事業化・施策化の可能性の検討も行い、学びの場とする。これらにより、集団の行動特性・健康レベル・行動変容段階と地域特性に適した支援技術の選択能力、支援を展開・評価する能力を培い、事業化・施策化への意識も育てる。（科目責任者：工藤紀子）
目　標	1）地域の健康課題把握と健康支援に必要な情報（ニーズ・発達段階・地域特性・地域資源を含む）を収集し、整理できる。
	2）地域の健康課題解決のために選択した対象集団と支援方法、用いた理論・モデルについて説明できる。
	3）介入集団メンバーの相互作用を活用し、課題解決への主体性と継続性を高める健康教育／組織化支援の計画を立案できる。
	4）立案計画に基づく模擬実践において、対象集団の反応に合わせて課題解決能力を高める対応ができる。
	5）介入集団の活動が地域に及ぼす影響を含めて模擬実践を評価し、事業化・施策化の可能性も検討できる。
	6）地域における包括ケアと推進に向けた連携、その際の保健師の役割について説明できる。
	〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-2：大学院レベルの研究力を基盤とする「地域資源を活用した健康政策の立案能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	オリエンテーション，集団・組織を対象とする支援技術の概要	工藤紀子
	第2回	健康教育（1）：健康教育の場と対象の特性，事例の健康教育の法的根拠と目的	工藤紀子
	第3回	健康教育（2）：各事例の健康課題と関連要因,それらの全体像	工藤紀子 西出りつ子
	第4回	健康教育（3）：健康教育の計画立案（1）	工藤紀子 西出りつ子
	第5回	健康教育（4）：健康教育の計画立案（2）	工藤紀子 西出りつ子
	第6回	健康教育（5）：母子保健事例への実践	工藤紀子 西出りつ子
	第7回	健康教育（6）：高齢者事例への実践	工藤紀子 西出りつ子
	第8回	健康教育（7）：特定保健指導の計画立案	工藤紀子 西出りつ子
	第9回	健康教育（8）：特定保健指導の実践	工藤紀子 西出りつ子
	第10回	地区組織化活動（1）：グループ化支援	工藤紀子
	第11回	地区組織化活動（2）：グループ支援とグループ活動の地域への影響	工藤紀子
	第12回	地区組織化活動（3）：地域のヘルスケア・システムづくり	工藤紀子
	第13回	地区組織化活動（4）：事業化と事業評価	西出りつ子
	第14回	地区組織化活動（5）：施策化と施策評価	西出りつ子
	第15回	地域包括ケアと地域における連携体制と協働，保健師の役割と取り組み姿勢	西出りつ子

評価方法	演習への取り組みと発表・模擬指導・提出書類の内容（80 %）、グループ・ディスカッションと質疑応答の内容・態度（20 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	岸恵美子，平野かよ子，村嶋幸代編集：保健学講座2 公衆衛生看護支援技術，第1版，メヂカルフレンド社，2022. ISBN：978-4-8392-2189-8
履修上の注意点	事例の看護過程の展開と模擬指導に必要な学習（解剖・生理、病態、ライフステージ別の知識など）と技術の確認・練習を能動的に進め、事前と事後の学習とする。これらの合計を1回の演習（90分）につき180分とする。

科目名	母子保健支援技術論	科目番号	41	単　位	2	時　間	30
教員名	佐久間清美，工藤 紀子，鯉淵乙登女	科目種別	演習	開講年次		1年次	
				開講学期		通年	

科目概要	本科目では、乳幼児の成長発達段階と健康レベルの評価、神経学的チェック法と基本事項、月齢別（生後2週児、4週児、4か月児、10か月児、12か月児，1歳6か月児、2歳児、3歳児、5歳児、就学前の児）のチェックポイント、各段階と家庭に応じた養育と生活のあり方について学修する。その上で、対象に適した保健指導を考える能力、乳児と家族への継続的支援能力、社会資源の活用を促す能力、これらの強化に向けて学修する。さらに、ハイリスク親子の事例について保健指導の模擬実践を行い、対象の反応に合わせて対応するコミュニケーション能力と支援技術を磨く。
目　標	1）乳幼児の月齢別の成長発達段階と神経学的、健康レベルの評価とそれらの基本事項について説明できる。 2）月齢別チェックポイントと家庭に応じた養育と生活のあり方、適した保健指導について説明できる。 3）課題をもつ家族への継続的支援と活用可能な社会資源について考え、意見を述べることができる。 4）立案した支援計画をもとに、対象の反応に合わせてコミュニケーションをとりながら支援行動がとれる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-1：大学院レベルの研究力を基盤とする「科学的根拠に基づく健康課題の分析能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	オリエンテーション，乳幼児の成長発達段階と健康レベルの評価	佐久間清美
	第2回	神経学的チェック法とそれらの基本事項	佐久間清美 鯉淵乙登女
	第3回	月齢別チェックポイントと養育・生活に合わせた保健指導：生後4週未満児	佐久間清美 鯉淵乙登女
	第4回	月齢別チェックポイントと養育・生活に合わせた保健指導：生後2か月児，4か月児	佐久間清美 鯉淵乙登女
	第5回	月齢別チェックポイントと養育・生活に合わせた保健指導：生後10か月児，12か月児	佐久間清美 鯉淵乙登女
	第6回	月齢別チェックポイントと養育・生活に合わせた保健指導：1歳6か月児	佐久間清美
	第7回	月齢別チェックポイントと養育・生活に合わせた保健指導：2歳児と3歳児	佐久間清美
	第8回	月齢別チェックポイントと養育・生活に合わせた保健指導：5歳児	佐久間清美
	第9回	月齢別チェックポイントと養育・生活に合わせた保健指導：就学前の児	佐久間清美
	第10回	地域の親子を支える支援（1）：要保護児童と地域の支援体制整備	佐久間清美
	第11回	地域の親子を支える支援（2）：親と子の仲間づくりと地域支援システムの構築	佐久間清美
	第12回	課題をもつ家族への継続的支援（1）：複合的課題をもつ家族の情報整理	工藤紀子
	第13回	課題をもつ家族への継続的支援（2）：現在までの経過を踏まえた家族の問題	工藤紀子 鯉淵乙登女
	第14回	課題をもつ家族への継続的支援（3）：児の成長発達に伴う新たな課題	工藤紀子 鯉淵乙登女
	第15回	課題をもつ家族への継続的支援（4）：時系列でみる親子のセルフケア能力と支援体制・資源	工藤紀子 鯉淵乙登女 佐久間清美

評価方法	演習への取り組みと発表・模擬指導・提出書類の内容（80 %）、メンバー・ディスカッションと質疑応答の内容・学習姿勢（20 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	前川喜平，小枝達也：写真でみる乳幼児健診の神経学的チェック法 改訂10版，南山堂，2022．ISBN：9784525288594 平岩幹男：新版 乳幼児健診ハンドブック 成育基本法から健診の実際まで，診断と治療社，2019．ISBN:978-4787824134 州鎌盛一：乳幼児の発達障害診療マニュアル 健診の診かた・発達の促しかた，医学書院，2013．ISBN：978-4260010269
履修上の注意点	事例の看護過程の展開と模擬指導に必要な学習（解剖・生理、病態、ライフステージ別の知識など）と技術の確認・練習を能動的に進め、事前と事後の学習として「事前学習・事後学習ノート」を作成する。これらを1回の演習（90分）につき180分とする。

科目名	公衆衛生看護展開特論	科目番号	42	単　位	2	時　間	30
教員名	西出りつ子，工藤 紀子	科目種別	講義	開講年次		1年	
				開講学期		前期	

科目概要	本科目では、実在する市町を事例に、ライフステージ／健康課題別に保健活動とヘルスケアシステムについて、社会背景と住民ニーズ、法令・制度、関係部署、予算的措置の歴史的変遷をふまえて学修する。自治体の目指す姿と政策形成の実際を議会等の傍聴から学び、保健計画・施策・事業の体系図を作成して全体像を理解する。さらに、個別支援から集団支援、地域の施策へのつながり、逆に地域の施策・事業から集団支援、個別支援へのつながり、各保健事業のつながり、多機関・多職種のつながり、対象住民と地域資源のつながりについて学修する。住民への健康支援活動を俯瞰的にみる能力、活動展開上の強みと課題を考える能力、さらに、ポピュレーション・アプローチとハイリスク・アプローチを連動させる活動展開のための基礎的能力を涵養する。（科目責任者：西出りつ子）
目　標	1）衛生行政の基本的な考え方と日本の衛生行政機構の概略について説明できる。 2）実在する市町を事例に、自治体の目指す姿と政策・各種計画の概要を説明できる。 3）事例の保健計画・施策・事業の特徴と支援方法について、ライフステージ／健康課題別の体系図を用いて説明できる。 4）事例において公衆衛生看護活動を展開する上での強みと課題について説明できる。 5）公衆衛生看護を展開する際に考えるべき具体的な「つながり」と保健師のもつべき姿勢について説明できる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-1：大学院レベルの研究力を基盤とする「科学的根拠に基づく健康課題の分析能力」を有する。 保健師DP-2：大学院レベルの研究力を基盤とする「地域資源を活用した健康政策の立案能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	衛生行政の基本的な考え方，日本の衛生行政機構と地域保健活動	西出りつ子
第2回	対象別保健活動の展開（1）：親子保健活動	工藤紀子
第3回	対象別保健活動の展開（2）：成人保健活動	工藤紀子
第4回	対象別保健活動の展開（3）：高齢者保健活動	工藤紀子
第5回	疾病対策の展開（1）：障害者対策	西出りつ子
第6回	疾病対策の展開（2）：精神保健活動	西出りつ子
第7回	疾病対策の展開（3）：難病対策	西出りつ子
第8回	疾病対策の展開（4）：感染症対策	西出りつ子
第9回	疾病対策の展開（6）：歯科口腔保健活動	西出りつ子
第10回	地域保健活動の展開（1）：地区活動	工藤紀子
第11回	地域保健活動の展開（2）：地域資源の活用と創出	西出りつ子
第12回	地域保健活動の展開（3）：産業保健と学校保健との協働展開	工藤紀子
第13回	政策形成：市町村議会（1）	西出りつ子
第14回	政策形成：市町村議会（2）	西出りつ子
第15回	公衆衛生看護の「つながり」：個別・地域支援間、保健事業間，多機関・職種，住民と資源	西出りつ子

評価方法	理解度確認（70 %）および提出課題（20 %）、講義中の発問への応答状況（10 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	岸恵美子，村嶋幸代編集：保健学講座3 公衆衛生看護展開論，第1版，メヂカルフレンド社，2022. ISBN：978-4-8392-2190-4 野尻雅美監修：改訂第2版 最新保健学 公衆衛生・疫学，真興交易(株)医書出版部，2023. ISBN： 978-4-88003-259-7 日本公衆衛生協会：衛生行政大要（最新版）／改訂第24版（ISBN：978-4-8192-0247-3）
履修上の注意点	1回の講義（90分）に対し、事前と事後の学習各90分を基本とする。事前学習として、授業計画・内容を手掛かりに、教科書などの書籍、学術雑誌、厚生労働省・WHO・関連学会ホームページなど、信頼できる情報を利用して能動的学習を進め、講義に臨む。講義内容を参考に事後学習を深める。なお、普段から保健師学生として、自治体の保健活動や住民の健康行動に敏感となり、健康支援活動の展開のあり方や具体的方法について考える習慣をもつ。

科目名	産業・学校保健活動展開特論	科目番号	43	単　位	2	時　間	30
教員名	佐久間清美，工藤 紀子	科目種別	講義	開講年次	1年		
				開講学期	後期		

科目概要	本科目では、公衆衛生看護支援技術特論の産業看護と学校看護の学修内容を基本に、場の特性に応じたより具体的な組織的健康支援活動について学修する。まず、働くまたは集団教育を受ける個人とその集団がもつ特徴的な健康課題に注目する。労働者と児童生徒等の社会経済的背景と労働／学習環境をふまえ、ニーズや健康課題への必要かつ実現可能な保健活動と、ライフステージや成長発達に合わせた柔軟な保健活動を重視する意識を醸成する。さらに、産業保健師／養護教諭が中心となって組織的に展開される保健活動と自治体の母子・成人・障害者保健活動等のつながりについて、地域包括ケアシステムを手掛かりに考える力を涵養する。（科目責任者：佐久間清美）
目　標	1）産業／学校保健の場の特性と対象の特徴、職域／学校における労働者／児童生徒等の健康課題の特徴を説明できる。 2）日本の労働衛生／学校保健行政と施策、職域／学校における健康・安全・環境管理体制と法的根拠を説明できる。 3）職域の特徴的な健康課題に関する総合的な対策と予防対策について説明できる。 4）児童生徒等の特徴的な健康課題の支援策と生涯を通じた健康自己管理能力を育てる対策について説明できる。 5）産業／学校と自治体の保健活動のつながりについて、地域包括ケアシステムの観点から説明できる。 6）組織的に展開される保健活動における産業保健師／養護教諭の役割を説明できる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-2：大学院レベルの研究力を基盤とする「地域資源を活用した健康政策の立案能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	産業保健と学校保健の定義と目的・対象，それぞれの場の特性と対象の特徴	工藤紀子
第2回	産業保健活動（1）：産業保健行政体系と法的基盤，産業保健管理体制	工藤紀子
第3回	産業保健活動（2）：社会的背景と産業保健の変遷，労働と健康	工藤紀子
第4回	産業保健活動（3）：産業保健における健康アセスメントと組織的展開	工藤紀子
第5回	産業保健活動（4）：職域における各種健康診断と事後措置	工藤紀子
第6回	産業保健活動（5）：労働者の心身の健康の保持・増進	工藤紀子
第7回	産業保健活動（6）：職域における危機管理，産業保健活動における保健師の役割	工藤紀子
第8回	学校保健活動（1）：学校保健の歴史と養護教諭の役割・機能	佐久間清美
第9回	学校保健活動（2）：学校教育と学校保健・学校安全の法的基盤	佐久間清美
第10回	学校保健活動（3）：学校保健計画・学校安全計画と組織活動	佐久間清美
第11回	学校保健活動（4）：発達段階にみる対象の特徴と健康課題	佐久間清美
第12回	学校保健活動（5）：特別な支援を必要とする対象への支援	佐久間清美
第13回	学校保健活動（6）：学校保健活動の展開と養護教諭の活動の実際	佐久間清美
第14回	産業保健・学校保健と地域保健の連携（1）：健康なまちづくりの取り組み	佐久間清美
第15回	産業保健・学校保健と地域保健の連携（2）：地域共生社会の実現に向けて	佐久間清美

評価方法	理解度確認（70 %）および提出課題（20 %）、講義中の発問への応答状況（10 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	岸恵美子，村嶋幸代編集：保健学講座3 公衆衛生看護展開論，第1版，メヂカルフレンド社，2022. ISBN：978-4-8392-2190-4 荒木田美香子編集：公衆衛生看護学テキスト第4巻 公衆衛生看護活動II 2024年版，学校保健・産業保健，医歯薬出版，2024. ISBN：978-4-263-71063-0
履修上の注意点	1回の講義（90分）に対し、事前と事後の学習各90分を基本とする。事前学習として、授業計画・内容を手掛かりに、教科書などの書籍、学術雑誌、厚生労働省・WHO・関連学会ホームページなど、信頼できる情報を利用して能動的学習を進め、講義に臨む。講義内容を参考に事後学習を深める。なお、普段から保健師学生として、産業／学校保健の情報に敏感となり、健康支援活動のあり方や自治体保健活動（母子・成人・障害者）とのつながりについて考える習慣をもつ。

科目名	コミュニティ・ヘルス・アセスメント	科目番号	44	単　位	2	時　間	30
教員名	西出りつ子, 工藤 紀子	科目種別	演習	開講年次	1年		
				開講学期	通年		

科目概要	本科目では、実際の市町を事例に、情報収集とその統合分析から地域特性の把握と人口の将来予測を行い、地域の健康課題を明確にして保健活動の方向性を検討する。そのために、地域の統計・疫学データや保健計画と事業、社会資源などの既存資料を活用し、フィールドワーク（地区視診、地域組織の見学、地域のキーパーソンへのインタビューなど）も取り入れて、住民の生活実態や生活環境、生活への思いや認識、健康観、地域の文化などの情報を収集する。コミュニティ・アズ・パートナー・モデルを用いて地域の健康のアセスメントを進め、最先端の知にアクセスする能力と地域に暮らす人々の文化・価値観・生活様式の理解と地域の健康の包括的なアセスメントの能力を培い、地域の強みに気づく感性を伸ばす。（科目責任者：西出りつ子）
目　標	1）地域の既存資料と目的のあるフィールドワークから、公衆衛生看護に必要な情報を収集できる。 2）コミュニティ・アズ・パートナー・モデルを用いて、地域の情報を整理できる。 3）収集した情報の統合分析から、地域特性と人口の将来予測について説明できる。 4）地域の健康状態の包括的な分析から、健康課題を説明することができる。 5）健康課題解決に向けた対策の方向性と地域のもつ強みを説明することができる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-1：大学院レベルの研究力を基盤とする「科学的根拠に基づく健康課題の分析能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	オリエンテーション，地域アセスメントの目的，公衆衛生看護実践に適したモデルと基本概念	西出りつ子
第2回（地域）	地区視診，地域の聞き取り，地域活動への参加(1)	西出りつ子 工藤 紀子
第3回	地域のコア，8つのサブシステム，住民の認識とアセスメントする者の認識	西出りつ子 工藤 紀子
第4回（地域）	地区視診，地域の聞き取り，地域活動への参加(2)	西出りつ子 工藤 紀子
第5回	地域の健康情報と利用可能なデータベース，地域における客観的データと主観的データ	西出りつ子 工藤 紀子
第6回（地域）	地区視診，地域の聞き取り，地域活動への参加(3)	西出りつ子 工藤 紀子
第7回	地域情報の統合分析からわかる地域特性，人口の将来予測と市の将来像，生活と健康の特徴	西出りつ子 工藤 紀子
第8回（地域）	地区視診，地域の聞き取り，地域活動への参加(4)	西出りつ子 工藤 紀子
第9回（地域）	地区視診，地域の聞き取り，地域活動への参加(5)	西出りつ子 工藤 紀子
第10回（地域）	地区視診，地域の聞き取り，地域活動への参加(6)	西出りつ子 工藤 紀子
第11回	地区視診，地域の聞き取り，地域活動への参加(7)	西出りつ子 工藤 紀子
第12回（地域）	地区視診，地域の聞き取り，地域活動への参加(8)	西出りつ子 工藤 紀子
第13回（地域）	地区視診，地域の聞き取り，地域活動への参加(9)	西出りつ子 工藤 紀子
第14回（地域）	地区視診，地域の聞き取り，地域活動への参加(10)	西出りつ子 工藤 紀子
第15回	地域の健康課題，地域のもつ強み，市の目指す姿と今後の保健活動の方向性	西出りつ子 工藤 紀子

評価方法	演習への取り組みと各種発表・作成資料・提出書類の内容（80 %）、グループ・ディスカッションと質疑応答の内容・態度（20 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	金川克子，早川和生監訳；アンダーソンET，マックファーレンJ編集：コミュニティアズパートナー　地域看護学の理論と実際，第2版，医学書院，2007．ISBN：978-4-260-00326-1 Anderson ET. & McFarlane J.: Community as Partner; Theory and practice in Nursing, eighth edition, Wolters Kluwer, 2018. ISBN: 978-14963-8524-6 野尻雅美監修：改訂第2版 最新保健学 公衆衛生・疫学，真興交易(株)医書出版部，2023．ISBN：978-4-88003-259-7 尾島俊之，村山洋史編集：保健学講座4 疫学／保健統計，第1版，メヂカルフレンド社，2022．ISBN：978-4-8392-2191-1 岸恵美子，平野かよ子，村嶋幸代編集：保健学講座2 公衆衛生看護支援技術，第1版，メヂカルフレンド社，2022．ISBN：978-4-8392-2189-8
履修上の注意点	授業計画の内容を手掛かりに、まちの情報収集を積極的に行い、情報の整理・解釈を能動的に進めて事前と事後の学習とする。これらの合計を1回の演習（90分）につき180分とする。ただし、「地区視診，地域の聞き取り，地域活動への参加」では、1回の演習を180分、事前・事後学習を計90分とする。

科目名	公衆衛生看護管理特論	科目番号	45	単　位	2	時　間	30
教員名	佐久間清美，西出りつ子 五十里 明	科目種別	講義	開講年次	1年		
				開講学期	後期		

科目概要	本科目では、公衆衛生看護管理に活用可能な諸理論と経営学の視点から地域・組織と施策・事業を理解し、ソーシャル・マネジメントの考え方を用いて地域の健康をマネジメントする基礎的能力を身につける。組織・人材管理や予算管理、情報管理、社会資源管理と事例・地区・事業の管理、健康危機管理の活動について学修する。これにより、地方自治や法体系、行政の各種計画、組織内他部署・関係機関・多職種・地域との連携等の理解を深める。自治体保健師のキャリア・ラダーから保健師に必要な力量を理解し、実例から虐待（小児・障害者・高齢者虐待、ドメスティック・バイオレンスなど）、災害（主に自然災害）や新興・再興感染症などの健康危機への対応、健康弱者（ホームレス、生活困窮者、引きこもりなど）への健康支援の理解を深める。（科目責任者：佐久間清美）
目　標	1）公衆衛生看護管理の目的と管理対象、管理活動に活用可能な諸理論の概要を説明できる。 2）公衆衛生看護領域、特に自治体保健師に求められる看護管理の内容を説明できる。 3）公衆衛生看護管理の視点から、地域の健康課題に対応するための体制と地域連携について説明できる。 4）公衆衛生看護管理の質を向上させるための方策について、意見を述べることができる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-2：大学院レベルの研究力を基盤とする「地域資源を活用した健康政策の立案能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回	公衆衛生看護管理の目的と特徴・機能	佐久間清美
第2回	公衆衛生看護管理に活用可能な理論	佐久間清美
第3回	経営学の視点からの地域の理解，ソーシャル・マネジメントと地域の健康	佐久間清美
第4回	対象別管理（1）：組織・人材管理，予算管理	佐久間清美
第5回	対象別管理（2）：情報管理，社会資源管理	佐久間清美
第6回	対象別管理（3）：事例・地区・事業の管理	佐久間清美
第7回	日本の保健師教育制度と現任保健師教育，自治体保健師のキャリア・ラダー	西出りつ子
第8回	虐待対策（1）：小児虐待，ドメスティック・バイオレンス	西出りつ子
第9回	虐待対策（2）：障害者虐待，高齢者虐待	佐久間清美
第10回	健康危機管理（1）：自然災害	佐久間清美
第11回	健康危機管理（2）：新興感染症と再興感染症	五十里 明
第12回	健康弱者への健康支援（1）：ホームレス，生活困窮者	五十里 明
第13回	健康弱者への健康支援（2）：認知症，引きこもり	五十里 明
第14回	市町村における公衆衛生看護管理の実際と課題	西出りつ子
第15回	公衆衛生看護管理の質向上のための方策	佐久間清美 西出りつ子 五十里 明

評価方法	理解度確認（70 %）および提出課題（20 %）、講義中の発問への応答状況（10 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	村嶋幸代，岸恵美子編集：保健学講座1 公衆衛生看護学概論，第1版，メヂカルフレンド社，2022．ISBN：978-4-8392-2188-1 岸恵美子，平野かよ子，村嶋幸代編集：保健学講座2 公衆衛生看護支援技術，第1版，メヂカルフレンド社，2022．ISBN：978-4-8392-2189-8
履修上の注意点	1回の講義（90分）に対し、事前と事後の学習各90分を基本とする。事前学習として、授業計画・内容を手掛かりに、教科書などの書籍、学術雑誌、厚生労働省・WHO・関連学会ホームページなど、信頼できる情報を利用して能動的学習を進め、講義に臨む。講義内容を参考に事後学習を深める。なお、普段から保健師学生として、社会の動きに敏感となり、その事象について公衆衛生看護管理の視点から考える習慣をもつ。

科目名	疫学特論	科目番号	46	単　位	2	時　間	30
教員名	平川仁尚，江 啓発	科目種別	講義	開講年次		1年	
				開講学期		前期	

科目概要	疫学とは、ある集団に現れる健康関連事象の頻度・分布と影響する要因を明らかにして、有効な対策づくりに貢献する社会医学の一分野である。疫学の対象は集団であり、その特徴や調査時点を明確に規定し、事象の頻度や分布を調べる。健康日本21（第2次）では、健康寿命延伸と健康格差縮小、生活習慣病の発症・重症化予防を目指し、社会環境整備に重点をおいた運動が展開された。また、自然災害や新興・再興感染症などの健康危機の管理・予防・対策は、ますます重要となっている。 これらへの対処には、客観的データに基づき、疾病・危険因子と生活習慣・環境因子の現状と変化を明らかにして、より質の高い健康政策の立案・評価を進める必要がある。本科目では、令和6年度からの健康日本21（第3次）を視野に入れ、高度な公衆衛生看護活動の展開や地域アセスメントに必要な力を高めるために、その基盤となる疫学の考え方と疫学調査、分析結果の活用方法に関する基本的事項を学ぶ。（科目責任者：平川仁尚）
目　標	1）疫学の基本的な考え方と疫学で用いられる指標について説明することができる。 2）質的研究・分析について説明することができる。 3）ヘルスプロモーションの企画・立案のモデルについて説明することができる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-1：大学院レベルの研究力を基盤とする「科学的根拠に基づく健康課題の分析能力」を有する。 保健師DP-2：大学院レベルの研究力を基盤とする「地域資源を活用した健康政策の立案能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	社会疫学総論（講義）	平川仁尚
	第2回	健康教育・行動変容（講義）	平川仁尚
	第3回	集団における健康状態と疾病の頻度測定・比較（疫学の指標）（講義）	江 啓発
	第4回	疫学研究方法の種類（講義）	江 啓発
	第5回	偏り・交絡・因果関係（講義）	江 啓発
	第6回	集団における健康課題の特定：質的分析（講義）	平川仁尚
	第7回	集団における健康課題の特定：インタビュー（演習）	平川仁尚
	第8回	集団における健康課題の特定：質的分析（演習）	平川仁尚
	第9回	集団における健康課題の特定：質的分析（演習）	平川仁尚
	第10回	健康課題の優先付け（講義と演習）	平川仁尚
	第11回	ヘルスプロモーションのプログラム・プランニング（講義）	平川仁尚
	第12回	プリシード・プロシードモデル（演習）	平川仁尚
	第13回	ソーシャルマーケティング（講義）	平川仁尚
	第14回	ソーシャルマーケティング（演習）	平川仁尚
	第15回	健康日本21（第3次）の目標実現に向けて：疫学と地域保健活動（講義）	平川仁尚

評価方法	理解度確認（70 %）および提出課題（20 %）、講義中の発問への応答状況（10 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	磯博康，祖父江友孝編集：はじめて学ぶやさしい疫学（日本疫学会標準テキスト）改定第3版，南江堂．ISBN：978-4-524-24399-0 中鳶洋：初学者のための質的研究26の教え，医学書院．ISBN：978-4-260-02405-1 松本千明：保健スタッフのためのソーシャル・マーケティングの基礎，医歯薬出版．ISBN：978-4-263-23447-1 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向，厚生の指標増刊，最新版．
履修上の注意点	1回の講義（90分）に対し、事前と事後の学習各90分を基本とする。事前学習として、授業計画・内容を手掛かりに、教科書などの書籍、厚生労働省・関連学会ホームページなど、信頼できる情報を利用して能動的学習を進め、講義に臨む。講義や演習の内容を参考に事後学習を深める。なお、普段から保健師学生として、人々の健康課題や生活行動と社会の動きに対して疫学的視点をもって考える習慣をもつ。

科目名	保健統計学特論	科目番号	47	単　位	2	時　間	30
教員名	谷村 晋	科目種別	講義	開講年次	1年		
				開講学期	後期		

科目概要	公衆衛生看護活動の質向上の基盤となる地域の保健情報データを巡る環境は、IoTやビッグデータを含む情報化社会の進展により大きく変容している。本科目では、新しい情報処理プロセスやアルゴリズム及びシステムを援用し、現代的な統計手法の正しい適用を通じて、多様な情報源の様々なデータから統合的な知見や洞察を引き出し、地域の健康課題を解決するための科学的根拠の創出につながる一連の科学的手法について、基礎知識や考え方、技術を学ぶ。確率分布や仮説検定など高校数学の復習から出発し、公衆衛生看護学の論文に使用される統計モデルまでを概観した上で、地域における保健活動や健康管理に必要な情報検索、情報の収集・分析方法及び統計的方法について、科学的手法の考え方と適切な技術を選択する力を修得する。
目　標	1）地域保健活動におけるデータサイエンスおよび統計学の知識・技術の利用について具体的に説明できる。 2）正しい統計解析手法を選択し、練習問題を解くことができる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-1：大学院レベルの研究力を基盤とする「科学的根拠に基づく健康課題の分析能力」を有する。 保健師DP-2：大学院レベルの研究力を基盤とする「地域資源を活用した健康政策の立案能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	ガイダンス・データの種類と尺度	谷村 晋
	第2回	記述的解析：代表値と散布度	谷村 晋
	第3回	統計的推論1：確率分布	谷村 晋
	第4回	統計的推論2：点推定と区間推定	谷村 晋
	第5回	統計的推論3：仮説検定	谷村 晋
	第6回	統計的推論4：分割表の検定・数量データの解析	谷村 晋
	第7回	統計的推論5：多群の比較・順序データの解析	谷村 晋
	第8回	統計的推論6：多変量解析	谷村 晋
	第9回	年次推移の観察	谷村 晋
	第10回	指標の標準化	谷村 晋
	第11回	統計調査法	谷村 晋
	第12回	データ分析演習1：Rによるデータプログラミングの基礎	谷村 晋
	第13回	データ分析演習2：データの視覚化	谷村 晋
	第14回	データ分析演習3：国勢調査	谷村 晋
	第15回	データ分析演習4：国民生活基礎調査	谷村 晋

評価方法	理解度確認(50%)および提出課題(50%)により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	尾島俊之，村山洋史編集：保健学講座4 疫学／保健統計，第1版，メヂカルフレンド社，2022．ISBN：978-4-8392-2191-1
履修上の注意点	1回の講義（90分）に対し、事前と事後の学習各90分を基本とする。事前学習として、授業計画・内容を手掛かりに、教科書などの書籍、厚生労働省・関連学会ホームページなど、信頼できる情報を利用して能動的学習を進め、講義に臨む。講義内容を参考に事後学習を深める。なお、普段から保健師学生として、保健情報への関心を高め、科学的根拠について考える習慣をもつ。

科目名	保健医療福祉行政展開特論	科目番号	48	単　位	2	時　間	30
教員名	五十里 明，石田 路子 西出りつ子	科目種別	講義	開講年次		1年	
				開講学期		後期	

科目概要	近年の自治体保健師活動には、従来の個人と家族への保健指導や対象集団への組織的アプローチに加えて、保健・医療・介護・福祉に関する健康政策・事業を企画し、実践、評価と一連の過程を科学的根拠をもって推進することが必要とされる。本科目では、これら一連のプロセスに必要な能力、つまり実践から得られた結果の的確な評価をもとに政策・事業の改善を図る高度な遂行能力を発揮できる保健師を養成するために、自治体保健師の立場から保健医療福祉行政活動を見つめ直す学修を進める。時代の要請に沿いながら変化してきた保健医療福祉行政の歴史、その基盤となる各種の法律や制度についての理解を深め、これからの自治体保健師のもつべき意識と保健活動の展開に必要な考え方を修得する。その過程において、保健師に求められる行政と関係機関・住民との連携・協働を支える調整役割を遂行する姿勢を涵養する。（科目責任者：五十里　明）
目　標	1）公衆衛生・社会保障の理念と、財政を含む行政の仕組みについて説明できる。
	2）時代の要請に沿いながら保健医療福祉行政を変化させる必要性について説明できる。
	3）保健医療福祉の基盤となる各種法律・制度と行政計画の概略について説明できる。
	4）日本の福祉制度と地域包括ケアシステムの概略とこれらの必要性について説明できる。
	5）政策形成プロセスへの住民参加の必要性と保健師に求められる役割について説明できる。
	〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-2：大学院レベルの研究力を基盤とする「地域資源を活用した健康政策の立案能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	保健医療福祉行政の理念と仕組み，保健医療福祉行政における保健師の役割	五十里 明 西出りつ子
	第2回	保健医療福祉行政における財政の基本と仕組み	五十里 明
	第3回	社会保障の理念と日本の社会保障制度	五十里 明
	第4回	公衆衛生の理念，公衆衛生政策の歴史	五十里 明
	第5回	医療保険制度と医療提供体制の管理	五十里 明
	第6回	医療法と医療計画，医療圏と医療提供体制の枠組み	五十里 明
	第7回	自治体の定義と種類・所管事務，基本構想と総合計画，政策形成プロセス	五十里 明
	第8回	保健医療福祉の分野別計画，行政計画のあり方と計画策定プロセス	五十里 明
	第9回	社会福祉と公的扶助	石田 路子
	第10回	日本の高齢社会と介護保険制度	石田 路子
	第11回	障害者と日本の障害福祉制度	石田 路子
	第12回	日本社会に暮らす外国人と日本の受け入れ	石田 路子
	第13回	日本社会における「人生100年」への備え	石田 路子
	第14回	地域包括ケアシステムの深化	石田 路子
	第15回	政策形成のプロセスと住民参加	西出りつ子

評価方法	理解度確認（80 %）、講義中の発問への応答状況・姿勢・態度（20 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	野村陽子，加藤典子編集：保健学講座5 保健医療福祉行政論，第1版，メヂカルフレンド社，2022. ISBN：978-4-8392-2192-8
	椎葉茂樹，他編：衛生行政大要 改訂第24版，日本公衆衛生協会，日本公衆衛生協会，2016.
	厚生労働統計協会編：国民衛生の動向，厚生の指標増刊，最新版.
	厚生労働省編：厚生労働白書，ぎょうせい，最新版.
履修上の注意点	1回の講義（90分）に対し、事前学習と事後学習各90分を基本とする。事前学習として、授業計画・内容を手掛かりに、教科書などの書籍、学術雑誌、厚生労働省・WHO・関連学会ホームページなど、信頼できる情報を利用して能動的学習を進め、講義に臨む。講義の内容を参考に事後学習を深める。なお、普段から保健師学生として、保健・医療・介護・福祉の現場における様々な情報に敏感となり、地域住民と行政の両方の立場から考える習慣をもつ。

科目名	地域包括ケア展開技術論	科目番号	49	単　位	2	時　間	30
教員名	西出りつ子，佐久間清美 五十里 明，工藤 紀子	科目種別	演習	開講年次	2年		
				開講学期	通年		

科目概要	本科目では、保健医療福祉行政展開特論の学修成果を基盤に、自治体保健師が関わる事業計画策定プロセス、政策形成とその過程、ソーシャル・マーケティング、政策形成に必要な考え方について演習を通して学修する。さらに、複雑困難化する地域の健康課題と健康危機に対して、地域特性を活かした施策展開の検討能力、さらに評価能力を培う。まず、既習の演習・実習科目の健康情報と個別支援情報、疫学データを整理し、研究関連科目と地域・在宅看護学特論・演習の履修により培った研究力を活かして、健康課題を明確にする。対象住民がその課題に関するサービスを享受可能な地域ヘルスケアシステムと課題解決のための政策的方策について検討する。健康課題をもつ人の地域生活継続のための包括ケアと地域の一次予防に向けた包括ケア、これら事業案を企画して予算化のための模擬部長ヒヤリングに臨む。この学修過程を経て、公正かつ的確な評価能力、地域の多様な関係者と包括ケアを充実させる政策の立案能力、説得力のある説明能力、グループメンバーや管理者との検討の場を前向きに進めるコミュニケーション能力を培う。（科目責任者：西出りつ子）
目　標	1）自治体の事業計画策定と政策形成のプロセス、ソーシャル・マーケティングの考え方について説明できる。 2）自治体の既存保健事業について、4つの観点から評価した結果を説明できる。 3）地域の健康課題に関する保健医療福祉サービスについて、対象住民における享受の可能性を説明できる。 4）健康問題をもつ人の地域生活継続のための包括ケア事業案を企画、模擬部長ヒヤリングにおいて説明できる。 5）地域の一次予防の包括ケア事業案を企画、模擬部長ヒヤリングにおいて説明できる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-2：大学院レベルの研究力を基盤とする「地域資源を活用した健康政策の立案能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回	オリエンテーション，健康課題と計画・保健事業，アプローチの対象，保健事業評価の観点	西出りつ子
	第2回	ソーシャル・マーケティングと政策形成	佐久間清美
	第3回	保健事業評価（1）：ストラクチャー，プロセス，アウトプット，アウトカムの4つの評価	西出りつ子 佐久間清美 工藤 紀子
	第4回	保健事業評価（2）：保健事業の評価（報告・質疑応答）	西出りつ子 佐久間清美 五十里明，工藤紀子
	第5回	地域ヘルスケアシステム（1）：健康課題とヘルスケアシステムの全体像	西出りつ子 工藤紀子
	第6回	地域ヘルスケアシステム（2）：保健事業の評価と今後の取り組み強化の方向性	西出りつ子 工藤紀子
	第7回	地域ヘルスケアシステム（3）：健康課題とシステム全体像，保健事業評価（報告・質疑応答）	西出りつ子 佐久間清美 五十里明，工藤紀子
	第8回	新規事業の企画（1）：顕在する健康問題の解決に向けた地域包括ケア事業の企画	西出りつ子 工藤紀子
	第9回	新規事業の企画（2）：健康課題の予防に向けた地域包括ケア事業の企画	西出りつ子 工藤紀子
	第10回	新規事業の企画（3）：地域包括ケア事業企画の模擬部長ヒヤリング（報告・質疑）	西出りつ子 佐久間清美 五十里明，工藤紀子
	第11回	地域の健康課題解決に向けた地域包括ケア（1）：子育て世代の支援対策	西出りつ子 佐久間清美 工藤 紀子
	第12回	地域の健康課題解決に向けた地域包括ケア（2）：生活習慣病対策	西出りつ子 五十里明，工藤紀子
	第13回	地域の健康課題解決に向けた地域包括ケア（3）：介護予防対策	西出りつ子 佐久間清美 工藤 紀子
	第14回	地域の健康課題解決に向けた地域包括ケア（4）：感染症対策	西出りつ子 五十里明，工藤紀子
	第15回	地域の健康課題解決に向けた地域包括ケア（5）：大規模自然災害対策	西出りつ子 佐久間清美 五十里明，工藤紀子

評価方法	演習への取り組み状況および発表・資料・事後提出書類の内容（70 %）、グループ・ディスカッションおよび模擬ヒヤリングにおける質問応答・学習姿勢（30 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	野村陽子，加藤典子編集：保健学講座5 保健医療福祉行政論，第1版，メヂカルフレンド社，2022．ISBN：978-4-8392-2192-8 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向，厚生の指標増刊，最新版．
履修上の注意点	オリエンテーションと授業計画・内容を手掛かりに、市の情報収集を積極的に行う。保健事業評価と結果説明の準備、事業案の企画と説明準備、地域事例の検討を適宜進め、事前と事後の学習とする。これらの合計を1回の演習（90分）につき180分とする。

科目名	個人と家族の継続看護支援実習	科目番号	50	単　位	1	時　間	30
教員名	西出りつ子，工藤 紀子，鯉淵乙登女	科目種別	実習	開講年次	1年		
				開講学期	通年		

科目概要	本科目では、乳児の家庭に毎月1回、10か月間の訪問を行い、個人と家族への継続看護の展開能力を培う。「個人と家族の支援技術論」の学習体験と連動させ、健康な乳児の発育発達、親子の健康状態、乳児を育てる家族の発達・ニーズ・養育状況、養育環境、親子の地域の暮らし、活用可能な社会資源について、経時的に理解する。月齢に伴って変化する訪問の目的を明確にし、適切な時期に訪問する。訪問前に看護計画を立案し、訪問日に実践、訪問後に看護の評価を行い、次回訪問につなげる。これを繰り返し、域資源を活用した個人と家族への継続的看護支援能力を修得する。特に、個人と家族の健康状態と生涯発達の包括的なアセスメント能力、乳児と家族の毎月の変化に合わせた対応能力、訪問継続を可能とする対人関係構築能力の育成と、親の成長に合わせて伴走する保健師としての意識の涵養に焦点をおく。（科目責任者：西出りつ子）
目　標	1）対象児の月齢に伴って変化する家庭訪問の目的と観察の着目点を理由とともに説明できる。 2）親子の情報（発育発達、家族の発達・ニーズ・養育・健康状態、養育環境、地域の暮らし、社会資源など）を収集できる。 3）児の成長発達と家族の発達・ニーズ、家庭内外の生活に合わせた観察・質問・説明と個別性を意識した計画を立案できる。 4）立案した訪問計画を前日までに教員に相談、当日の朝に担当保健師の指導を受けて修正し、実施できる。 5）家族からの信頼を得て訪問継続する上での留意点と、訪問に適した日時を保護者と相談して決める際の注意点を説明できる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-1：大学院レベルの研究力を基盤とする「科学的根拠に基づく健康課題の分析能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回（4月）	実習施設と担当親子のオリエンテーション，保健師の家庭訪問への同行・見学，カンファレンス（家庭訪問からの学び，児と家族の課題，次回訪問予定と事前学習）	西出りつ子 工藤紀子 鯉淵乙登女
第2回（5月）	看護計画の事前確認・指導，第2回家庭訪問（※担当教員の同行），情報収集，カンファレンス（訪問の成果と課題，次回訪問予定と事前学習）	西出りつ子 工藤紀子 鯉淵乙登女
第3回（6月）	看護計画の事前確認・指導，第3回家庭訪問（※担当教員の同行または学生単独訪問），情報収集，カンファレンス（同上）	西出りつ子 工藤紀子 鯉淵乙登女
第4回（7月）	看護計画の事前確認・指導，第4回家庭訪問（学生単独訪問），情報収集，カンファレンス（同上）	西出りつ子 工藤紀子 鯉淵乙登女
第5回（8月）	看護計画の事前確認・指導，第5回家庭訪問（学生単独訪問），情報収集，カンファレンス（同上）	西出りつ子 工藤紀子 鯉淵乙登女
第6回（9月）	看護計画の事前確認・指導，第6回家庭訪問（※担当教員の同行），情報収集，中間カンファレンス（訪問の成果と課題，次回予定，5か月間の学びと今後の学習計画）	西出りつ子 工藤紀子 鯉淵乙登女
第7回（10月）	看護計画の事前確認・指導，第7回家庭訪問（学生単独訪問），情報収集，カンファレンス（訪問の成果と課題，次回訪問の予定と事前学習）	西出りつ子 工藤紀子 鯉淵乙登女
第8回（11月）	看護計画の事前確認・指導，第8回家庭訪問（学生単独訪問），情報収集，カンファレンス（同上）	西出りつ子 工藤紀子 鯉淵乙登女
第9回（12月）	看護計画の事前確認・指導，第9回家庭訪問（学生単独訪問），情報収集，カンファレンス（同上）	西出りつ子 工藤紀子 鯉淵乙登女
第10回（1月）	看護計画の事前確認・指導，第10回家庭訪問（※担当教員の同行），最終カンファレンス（親子のニーズ・生活・健康状態などの経時的変化，支援の必要性と支援システムの必要性，10か月間の学びと今後の学習課題）	西出りつ子 工藤紀子 鯉淵乙登女

評価方法	家庭訪問の準備への取り組み状況と看護計画・提出書類の内容（70 %）、カンファレンスの内容・学習姿勢および訪問時の保健指導・対応（30 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	岸恵美子，平野かよ子，村嶋幸代編集：保健学講座2 公衆衛生看護支援技術，第1版，メヂカルフレンド社，2022．ISBN：978-4-8392-2189-8 前川喜平，小枝達也：写真でみる乳幼児健診の神経学的チェック法 改訂10版，南山堂，2022．ISBN：9784525288594
履修上の注意点	履修の条件：本科目と「個人と家族の支援技術論」「母子保健支援技術論」を同時期に履修していること。 これら3科目の学習内容を統合させ、担当する親子との良好な関係構築と質の高い看護実践の継続ができるよう計画性をもって主体的に取り組む。訪問日の設定に対象家庭のご都合を優先させるため、授業開講日以外に実習する場合もある 留意点：本コースの実習における守秘義務と個人情報保護の方針に則り実習を進め、さらに施設の諸規定を遵守する。

科目名	公衆衛生看護活動展開実習	科目番号	51	単　位	3	時　間	135
教員名	西出りつ子，工藤 紀子	科目種別	実習	開講年次		1年	
				開講学期		後期	

科目概要	本科目では、県型保健所とその管轄市町を実習施設に、保健師活動の基盤となる能力と多様な関係者との協働に向けたコミュニケーション能力を実践的に磨く。地域をシステムとしてとらえ、「地域社会の最小単位である個人と家族」「生活基盤としての地区・小地域」「地域の住民組織」「制度や仕組みの構築機能をもつ組織」を看護の対象と考えて母子健康手帳の交付と支援、幼児健康診査と事後フォロー、特定集団への健康教育の実施、地区管理と家庭訪問、地区組織化活動や特徴的な保健事業への参加、健康危機管理体制の構築等を学修する。既習科目の学修成果を実習体験により発展させ、主体的な行動変容の支援能力と健康レベル向上に向けたマネジメント能力を高める。この過程において、地域の関係者との信頼関係構築と連携推進に向けた基礎的能力を修得する。自らの実践を省察し、倫理的に適切かつ公正な意思決定の能力と複雑困難化する地域の健康問題に真摯に向き合う保健師の使命感と責任感を培う。（科目責任者：西出りつ子）
目　標	1）県型保健所と管轄市町が地域住民を対象に展開する保健医療福祉活動における役割と協働内容を説明できる。 2）保健所の組織体系と、感染症審査協議会を例に地域ヘルスケア・システムと保健所保健師の役割を説明できる。 3）市町村保健師が行う地区管理と保健活動の実際（準備・事後対応などを含む）について説明できる。 4）地域の健康課題の解決に向け、行動変容を支援する健康教育を対象に合わせて実践し、その評価ができる。 5）住民への健康に関する直接的対応とその波及効果、地域資源の活用、連携マネジメントについて説明できる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-1：大学院レベルの研究力を基盤とする「科学的根拠に基づく健康課題の分析能力」を有する。 保健師DP-2：大学院レベルの研究力を基盤とする「地域資源を活用した健康政策の立案能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容

回数	授業計画・内容	担当教員
第1回（4月）	[保健所]愛知県保健所全体オリエンテーション	西出りつ子 工藤紀子
第2回（11月）	[保健所]実習保健所オリエンテーション(地域特性と保健所役割の特徴，組織と人材，予算と業務，掌握情報，各種管理，健康危機管理)，保健事業(健康づくり活動・母子保健活動・精神保健福祉活動・難病対策・結核対策・感染症対策・災害対策など)の説明，保健事業への参加，カンファレンス	西出りつ子 工藤紀子
第3回（1週目）	[市町](月)市町オリエンテーション，事前学習(地域特性と健康課題)の発表・指導，事業参加	西出りつ子 工藤紀子
第4回	[市町](火)健康教育対象地区における保健事業への参加や地区視診，カンファレンス	西出りつ子 工藤紀子
第5回	[市町](水)保健事業・健康づくり活動への参加，健康教育の相談，カンファレンス	西出りつ子 工藤紀子
第6回	[市町](木)1歳6か月児健康診査の準備・参加，事後カンファレンスへの出席	西出りつ子 工藤紀子
第7回	[市町](金)健康教育対象地区の住民・関係者へのインタビュー，カンファレンス	西出りつ子 工藤紀子
第8回（2週目）	[市町]保健事業への参加，中間カンファレンス(地域特性と健康支援，学び，後半の実習計画)	西出りつ子 工藤紀子
第9回	[市町]保健事業への参加，健康教育計画の検討，カンファレンス	西出りつ子 工藤紀子
第10回	[市町]健康教育の準備，3歳児健康診査の準備・参加，健診事後カンファレンスへの出席	西出りつ子 工藤紀子
第11回	[保健所]保健事業の説明，感染症審査協議会の見学，保健所カンファレンス(地域ヘルスケア・システム充実に向けた活動，保健所と地域連携，保健所保健師の役割)	西出りつ子 工藤紀子
第12回（3週目）	[市町]保健事業への参加，健康教育の模擬実践，カンファレンス	西出りつ子 工藤紀子
第13回	[市町]健康教育の実践，対象住民へのインタビュー，保健事業への参加，カンファレンス	西出りつ子 工藤紀子
第14回	[市町]保健事業への参加，健康教育の評価，カンファレンス	西出りつ子 工藤紀子
第15回	[市町]保健事業への参加，最終カンファレンス(健康教育を含む3週間の学び，今後の学習課題)	西出りつ子 工藤紀子

評価方法	参加保健事業の事前学習と健康教育の準備状況および家庭訪問・健康教育の計画・提出書類の内容（70 %）、実習記録およびカンファレンスの内容、実習中の対応・学習姿勢（30 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	岸恵美子，村嶋幸代編集：保健学講座3 公衆衛生看護展開論，第1版，メヂカルフレンド社，2022. ISBN：978-4-8392-2190-4 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向，厚生の指標増刊，最新版.
履修上の注意点	履修要件：1年次前期の保健師養成コース必修科目（保健師助産師看護師学校養成所指定規則の対応科目）の単位を修得し、かつ「個人と家族の継続支援実習」と「コミュニティ・ヘルス・アセスメント」を履修中であること。 留意点：本コースの実習における守秘義務と個人情報保護の方針に則り実習を進め、さらに施設の諸規定を遵守する。 〈注意〉愛知県保健所全体オリエンテーションは4月に開催される。

科目名	産業・学校保健実習	科目番号	52	単　位	1	時　間	45
教員名	工藤 紀子，佐久間清美	科目種別	実習	開講年次		2年	
				開講学期		前期	

科目概要	本科目では、事業所と教育機関の保健活動の実際から、法的根拠の重要性を理解し、対象の生活圏や労働／学習生活・環境の特徴と健康の関連、それらを考慮した組織的健康支援活動のあり方について学修する。事業所では、特定健診と特定保健指導、一般健康診断、特殊健康診断、メンタルヘルス対策と職場復帰支援、健診結果に基づき展開される健康・作業・作業環境の各管理の実際を知り、職場巡視と環境測定・評価を行う。学校では、保健安全計画と健康相談活動の実際を知り、環境測定とその評価を行う。これらにより、労働／教育の場におけるポピュレーション・アプローチとハイリスク・アプローチについて学び、少子高齢社会の労働者の健康を支える保健師と現代社会に育つ若者を集団教育の場において支える養護教諭の役割を理解する。さらに、関連機関との連携の実際から、産業／学校保健と地域保健の協働に向けた意識を培う。（科目責任者：工藤紀子）
目　標	1）対象の生活圏や労働／学習生活の特徴と健康の関連、それらを考慮した組織的健康支援活動について説明できる。 2）労働／教育の場におけるポピュレーション・アプローチとハイリスク・アプローチについて説明できる。 3）［産業グループ］労働者の健康の特徴と労働環境から特に重視すべき保健活動と産業保健師の役割について説明できる。 4）［学校グループ］集団教育の環境と対象の健康状態から特に重視すべき保健活動と養護教諭の役割について説明できる。 5）関連機関との連携の実際からの学びと産業／学校保健と地域保健の協働に関する意見を述べることができる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-2：大学院レベルの研究力を基盤とする「地域資源を活用した健康政策の立案能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容

回数	授業計画・内容	担当教員
【産業グループ】主たる実習施設：事業所（4日間）（※半日×2回：教育機関における実習）		
第1回（1週目）	［午前］事業所オリエンテーション，健康管理の説明，［午後］保健事業参加，カンファレンス	工藤紀子
第2回（1週目）	保健事業への参加，職場巡視，職場環境の測定・情報収集・評価， 対象の健康状態と労働環境の分析，カンファレンス	工藤紀子
第3回（1週目）	安全衛生委員会の見学，産業医へのインタビュー， 産業保健師・衛生管理者への学びの報告と相談，カンファレンス	工藤紀子
第4-1回	［※半日：教育機関第1回］学校保健管理センターオリエンテーション，健康管理の説明（見学）	佐久間清美
第4-2回	［※半日：教育機関第5回］学校最終カンファレンス（見学）	佐久間清美
第5回（2週目）	［午前］保健事業への参加，［午後(学校グループと合同)］産業最終カンファレンス	工藤紀子
【学校グループ】主たる実習施設：教育機関（4日間）（※半日×2回：事業所における実習）		
第1回（1週目）	［午前］教育機関オリエンテーション，健康管理の説明，［午後］保健事業参加，カンファレンス	佐久間清美
第2回（1週目）	保健事業への参加，学校環境の測定・情報収集・評価， 対象の健康状態と学校環境の分析，カンファレンス	佐久間清美
第3回（2週目）	対象の健康状態と学校環境の分析，カンファレンス	佐久間清美
第4-1回	［※半日：事業所第1回］事業所オリエンテーション，健康管理の説明（見学）	工藤紀子
第4-2回	［※半日：事業所第5回］産業最終カンファレンス（見学）	工藤紀子
第5回（2週目）	［午前］保健事業への参加，［午後(産業グループと合同)］学校最終カンファレンス	佐久間清美

評価方法	産業／学校保健活動の実際から学ぶ姿勢と環境の測定・評価・情報収集への取り組み状況および発表資料（80 %）、カンファレンス等におけるディスカッションの内容・学習姿勢（20 %）により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	岸恵美子，村嶋幸代編集：保健学講座3 公衆衛生看護展開論，第1版，メヂカルフレンド社，2022. ISBN：978-4-8392-2190-4 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向，厚生の指標増刊，最新版.
履修上の注意点	履修要件：1年次の保健師養成コース必修科目（保健師助産師看護師学校養成所指定規則の対応科目）の単位をすべて修得していること。 留意点：本コースの実習における守秘義務と個人情報保護の方針に則り実習を進め、さらに施設の諸規定を遵守する。

科目名	公衆衛生看護管理論実習	科目番号	53	単　位	1	時　間	45
教員名	西出りつ子，佐久間清美	科目種別	実習	開講年次		2年	
				開講学期		前期	

科目概要	本科目では、公衆衛生看護管理特論と県型保健所・管轄市町における公衆衛生看護活動展開実習を履修後に、中核市を実習施設として、公衆衛生看護管理活動について学ぶ。管理職保健師へのインタビューとシャドーイングなどを通して、公衆衛生看護領域、特に自治体保健師に求められる看護管理の内容と質を高めるための方策の実際を知る。それらを「自治体保健師の標準的なキャリアラダー（H28年）」の管理的活動を指標に整理する。さらに、地域の特徴から発生しやすい健康上の危機的状況場面を想定、地域資源を活かす予防策と発生時の対策、その準備について、現状の整理と今後に向けた課題を管理の視点から検討する。この過程において、想定すべき健康危機の内容を明確化する能力と地域特性と地域資源を活かす対策の検討能力を高め、管理の視点と課題解決に向かう姿勢を涵養する。（科目責任者：西出りつ子）
目　標	1）自治体の行う公衆衛生看護管理の内容とその特徴について、地域特性を踏まえて説明できる。 2）自治体保健師に求められる看護管理の内容と質向上に向けた方策の実際について、指標を用いて説明できる。 3）想定する健康上の危機的状況場面について、地域の特徴を踏まえて説明できる。 4）地域特性と地域資源を活かす予防策および発生時の対策と準備について、現状と課題を管理の視点から説明できる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-1：大学院レベルの研究力を基盤とする「科学的根拠に基づく健康課題の分析能力」を有する。 保健師DP-2：大学院レベルの研究力を基盤とする「地域資源を活用した健康政策の立案能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容	回数	授業計画・内容	担当教員
	第1回（1週目）	[午前]オリエンテーション(市政方針，総合計画と各種計画，組織・掌握業務，保健師配置，組織・人材・予算・健康危機管理，保健行政としての歴史的特徴，力を入れる施策・事業など) [学生発表]地域特性と健康課題，注目する健康危機(質疑応答，指導)， [午後]市の地域特性の理解と危機的状況場面検討のための地区視診	西出りつ子 佐久間清美
	第2回（1週目）	想定する健康危機に関わる保健事業への参加・情報収集，管理職保健師のシャドーイング， 管理職保健師とキャリアラダーA-4レベル保健師へのインタビュー， 情報・事業・事例・地区管理の説明，カンファレンス(今日の学び，健康危機の学習進捗状況)	西出りつ子 佐久間清美
	第3回（1週目）	保健所長への学習進捗状況の報告とインタビュー(所長の役割と管理，保健所内外の連携体制，健康危機管理に関する市の特徴，学生が想定した健康上の危機的状況場面へのご意見など)， 想定する健康危機に関わる保健事業への参加・情報収集，カンファレンス(今日の学び，指導)	西出りつ子 佐久間清美
	第4回（2週目）	[学生発表]地域の特徴から想定すべきと判断した健康上の危機的状況場面とその根拠，健康危機への現在の予防策・発生時対策と準備に関する把握情報，今日の学習計画(意見，指導)， 関係者へのインタビューや関係書類閲覧，情報整理と検討，カンファレンス(今日の学び，指導)	西出りつ子 佐久間清美
	第5回（3週目）	[午前:学生発表]想定する健康上の危機的状況場面，地域特性と地域資源を活かす予防策と発生時対策・準備に関する現状と今後の課題(質疑応答，指導) [午後]ブラッシュアップのための検討，最終カンファレンス(実習の学び)	西出りつ子 佐久間清美

評価方法	第1回と第4回・第5回の発表・資料・事後提出書類の内容(70 %)、グループ・ディスカッションおよび質疑応答の内容・学習姿勢(30 %)により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	村嶋幸代，岸恵美子編集:保健学講座1 公衆衛生看護学概論，第1版，メヂカルフレンド社，2022. ISBN:978-4-8392-2188-1 岸恵美子，平野かよ子，村嶋幸代編集:保健学講座2 公衆衛生看護支援技術，第1版，メヂカルフレンド社，2022. ISBN:978-4-8392-2189-8 厚生労働統計協会編:国民衛生の動向，厚生の指標増刊，最新版.
履修上の注意点	履修要件:1年次に開講する保健師養成コース必修科目(保健師助産師看護師学校養成所指定規則の対応科目)の単位をすべて修得していること。 留意点:本コースの実習における守秘義務と個人情報保護の方針に則り実習を進め、さらに施設の諸規定を遵守する。

科目名	実践地域事業展開実習	科目番号	54	単　位	1	時　間	30
教員名	西出りつ子，工藤 紀子	科目種別	実習	開講年次	2年		
				開講学期	後期		

科目概要	本科目では、市町の既存保健事業を地域特性と地域社会の変化を考慮して評価し、この結果と科学的根拠をもとに地域の健康課題の解決や予防に向けた「関係者を巻き込む新規事業案」を企画する。議会への起案を想定した健康担当理事／課長の模擬ヒヤリングに臨む。これにより、保健事業を的確に評価する能力と、地域の保健体系全体における位置づけを熟慮した保健事業立案の能力、管理者に事業の必要性と推定効果を的確に伝える説明能力、質問内容と地域特性を理解した説得力のある適切な応答能力を培う。地域資源を活かす事業企画の姿勢と費用対効果を考慮した活動展開の意識を身につける。（科目責任者：西出りつ子）
目　標	1) 地域特性と地域社会の変化を考慮して、市町の既存保健事業を的確に評価できる。 2) 科学的根拠と事業評価結果に基づく、健康課題解決／予防に向けた「関係者を巻き込む新規事業案」を説明できる。 3) 新規事業案の地域保健体系全体における位置づけと費用対効果を説明できる。 4) 議会起案を想定した健康担当理事／課長模擬ヒヤリングにおいて、事業の必要性と推定効果を的確に説明できる。 5) 管理者の質問内容と地域特性を理解した説得力のある適切な応答をすることができる。 〈到達目標とDPとの関連〉 保健師DP-2：大学院レベルの研究力を基盤とする「地域資源を活用した健康政策の立案能力」を有する。 DP③看護実践能力：専門分野の課題に対し、高度な専門的知識と科学的根拠に基づき、高い倫理観とともに多職種との連携や協働を通じて課題解決にかかわり看護実践の質向上に貢献できる能力を有する。

授業計画・内容

回数	授業計画・内容	担当教員
【Ａグループ】主たる実習施設：三重県いなべ市（※半日×2回：名張市における実習）		
第1回(9月)	[午前] 健康課題とヘルスケアシステム全体像・事業評価(発表・質疑応答), [午後]情報収集	工藤紀子
第2回	着目する保健事業への参加, 保健事業評価と今後の取り組み強化の方向性(検討カンファレンス)	工藤紀子
第3回	関係者への聞き取り, 企画する新規事業案の検討, カンファレンス	工藤紀子
第4-1回	[※半日:名張市第1回]Bグループの健康課題・ヘルスケアシステム全体像・事業評価(見学)	工藤紀子 西出りつ子
第4-2回	[※半日:名張市第5回]Bグループの健康担当理事模擬ヒヤリング(見学)	工藤紀子 西出りつ子
第5回	課長模擬ヒヤリング(健康課題の予防／解決に向けた新規事業案の発表), カンファレンス	工藤紀子 西出りつ子
【Ｂグループ】主たる実習施設：三重県名張市（※半日×2回：いなべ市における実習）		
第1回(9月)	[午前]健康課題とヘルスケアシステム全体像・事業評価(発表・質疑応答), [午後]情報収集	西出りつ子
第2回	着目する保健事業への参加, 保健事業評価と今後の取り組み強化の方向性(検討カンファレンス)	西出りつ子
第3回	関係者への聞き取り, 企画する新規事業案の検討, カンファレンス	西出りつ子
第4-1回	[※半日:いなべ市第1回]Aグループの健康課題・ヘルスケアシステム全体像・事業評価(見学)	西出りつ子 工藤紀子
第4-2回	[※半日:いなべ市第5回]Aグループの健康担当課長模擬ヒヤリング(見学)	西出りつ子 工藤紀子
第5回	理事模擬ヒヤリング(健康課題の予防／解決に向けた新規事業案の発表), カンファレンス	西出りつ子 工藤紀子

評価方法	既存事業評価・新規事業企画・事業提案への取り組み状況および発表資料・事後提出書類の内容(70 %)、グループ・ディスカッションおよび模擬ヒヤリングにおける説明内容・発問・学習姿勢(30 %)により、総合的に評価する。
テキスト、参考書	野村陽子, 加藤典子編集:保健学講座5 保健医療福祉行政論, 第1版, メヂカルフレンド社, 2022. ISBN:978-4-8392-2192-8 厚生労働統計協会編:国民衛生の動向, 厚生の指標増刊, 最新版.
履修上の注意点	履修要件:1年次に開講する保健師養成コース必修科目(保健師助産師看護師学校養成所指定規則の対応科目)の単位をすべて修得し、かつ本科目前日までに「地域包括ケア展開技術論」の第20回までを履修済みであること。 留意点:本コースの実習における守秘義務と個人情報保護の方針に則り実習を進め、さらに施設の諸規定を遵守する。

Ⅱ. 卒業要件及び履修方法等

Ⅱ. 卒業要件及び履修方法等

1. 卒業要件及び履修方法

《研究コース》

所定の在学年限を満たし、以下の所定単位を修得し、且つ修士論文を提出の上、審査を経て最終試験に合格すること。

所定単位は、共通科目のうち必修科目 8 単位、選択科目 4 科目 8 単位以上（うち看護関連科目から 2 科目 4 単位以上）、また専門科目の各領域から同一分野の特論及び演習の計 6 単位以上に加え、特別研究 8 単位を履修し、合計 30 単位以上を取得すること。

《保健師養成コース》

所定の在学年限を満たし、以下の所定単位を修得し、且つ修士論文を提出の上、審査を経て最終試験に合格すること。

所定単位は、共通科目のうち必修科目 8 単位、選択科目 4 科目 8 単位以上（うち看護関連科目から 2 科目 4 単位以上）、また専門科目の各領域から同一分野の特論及び演習の計 6 単位以上に加え、課題研究 6 単位を履修し、合計 30 単位以上を取得すること。

加えて、保健師養成科目 18 科目 33 単位を履修し、33 単位すべてを取得すること。

2. 授業期間等

授業期間等	
１学年の学期区分	２期
１学年の授業期間	１５週
１時限の授業時間	９０分